
平成25年度

B&G財団 活動実績報告書





忘れないで! 311

みんなの力で被災地を応援しよう!

寄付金総額 **3,011,525 円**

平成25年度の募金活動にご協力いただきありがとうございました

平成23年3月11日に発生した東日本大震災では、海洋センター所在地を含む、多くの自治体が甚大な被害を受けました。被災地では未だ26万人以上の方々が仮設住宅などで避難生活を続けており、高齢者の生活機能の低下や子供たちの心の傷など、復興には多くの支援が必要とされています。

被災地の復興に尽力している日本財団では、震災から3年目となる平成26年に、新たな募金活動「忘れないで! 311」を展開。被災地支援活動を行っているB&G財団も本趣旨に賛同し、全国の海洋センターで募金活動を行っています。

募金・チャリティ販売

B&G財団では平成25年度も、「2013 B&G OP級ヨット大会」、「B&G杯少年少女カヌー大会2013」、「2013 B&G全国ジュニア水泳競技大会」を“子どもたちに笑顔を 日本元気復活事業”として実施し、各会場でチャリティ販売や募金活動を行いました。

平成25年9月6日（金）に募金総額 330,712 円全額を日本財団「ROADプロジェクト」に寄付いたしました。

■ チャリティ販売による募金金額

OP級ヨット東日本大会	62,900 円
OP級ヨット西日本大会	30,900 円
全国少年少女カヌー大会	110,600 円
全国ジュニア水泳競技大会	106,309 円
財団事務所募金箱	20,003 円
合 計	330,712 円

日本財団に目録を贈呈



B&G財団 菅原悟志専務理事（左）から日本財団 前田晃常務理事（右）に目録が手渡された



OP級ヨット大会でのチャリティ販売



水泳大会でのチャリティ販売

忘れないで! 311

～ 東京各地で街頭募金を行いました ～

平成26年3月8日（土）、9日（日）の両日、ボートレース業界では都内6か所で街頭募金を実施。募金活動には、ボートレース選手や学生のボランティア団体ほか、B&G財団を含む約25団体250人が参加しました。

～ 全国の海洋センターで募金活動 ～

第6回「B&G全国サミット」で採択された“共同宣言”に基づいて全国472海洋センターで募金活動を実施。

皆様からお預かりした募金は平成26年4月30日現在で2,680,813円です。B&G財団では募金総額500万円を目標に募金活動を継続し、その全額を日本財団「ROADプロジェクト」に寄付する予定です。



平成25年度 B & G 財団実施事業一覧

B&G財団は、青い海（ブルーシー）と緑の大地（グリーンランド）を活動の場として、海洋性レクリエーションをはじめとする自然体験活動などを通じて、次代を担う青少年の健全育成と幼児から高齢者まで国民の皆様の“心とからだの健康づくり”を推進しています。

★日本財団助成事業

青少年の健全育成に関する事業

自然体験・環境教育活動

- ★ **海を守る植樹教育**
植樹リーダー研修会の開催
育苗の支援
植樹の支援
- ★ **水の事故をゼロにするための周知活動の実施**
安全教育事業
啓発・普及事業
- ★ **学校教育等と連携した水辺での体験プログラムの提供**
ホームページ等を活用した情報提供

大会・交流活動

- ★ **B&G全国ジュニア水泳競技大会**
東京辰巳国際水泳場
- ★ **B&G杯全国少年少女カヌー大会**
精進湖（山梨県富士河口湖町）
- ★ **B&G OP級ヨット大会**
（東日本大会）
海陽ヨットハーバー
（愛知県蒲郡市）
（西日本大会）
住吉浜リゾートパーク
（大分県杵築市）

助成・活動支援

- ★ **海洋センター施設修繕助成（通常・災害）**
- ★ **「東日本大震災」施設復旧に対する災害復旧修繕及び舟艇配備**
- ★ **海洋性レクリエーションの支援制度**
 - ★ **舟艇器材の追加・再配備**
救助艇、ライフジャケット、カヌー、ヨット等
 - ★ **海洋クラブの登録**

幼児から高齢者までの心身の健康づくりに関する事業

- 幼児運動プログラム**
アクアリズム運動プログラム
フロアリズム運動プログラム
- 中高年運動プログラム**
生活習慣病予防運動プログラム
- 高齢者運動プログラム**
転倒・寝たきり予防プログラム

指導者の養成に関する事業

- ★ **指導者養成**
アドバンスト・インストラクター養成研修（沖縄県）
アクア・インストラクター養成研修（沖縄県）
- ★ **指導員研修会**
指導員研修会（東京都）
レベルアップ研修会（ヨット、カヌー、水泳、幼児・高齢者運動プログラム）
- ★ **指導者会の登録と活動促進**
- 地域への指導者等の斡旋**
人材バンク等による指導者の斡旋

ネットワーク活用事業

- ★ **インターネットを利用した大会の提供**
「インターネット水泳記録会」
「ウォーターマラソン」
- ★ **人的ネットワークを推進する会議等の実施**
「第6回B&G全国サミット」
「第10回B&G全国教育長会議」
- ★ **広報活動**
「B&G広報大賞」の実施
部門：テレビの部、新聞の部、ホームページの部、地域広報の部（ケーブルテレビ・地域広報誌）、特派員の部

青少年の健全育成に関する事業	12
1. 自然体験・環境教育活動	12
(1) 海を守る植樹教育（日本財団助成事業）	12
(2) 水の事故をゼロにするための周知活動の実施（日本財団助成事業）	15
(3) B&Gクリーンフェスティバル	19
2. 大会・交流活動	20
B&G全国スポーツ大会（日本財団助成事業）	20
3. 助成・活動支援	25
(1) 地域海洋センター及び海洋クラブの施設整備（日本財団助成事業）	25
(2) 「東日本大震災」施設復旧に対する災害復旧修繕及び舟艇配備（日本財団助成事業）	29
(3) 海洋クラブ登録等（日本財団助成事業）	29
(4) その他支援	31
指導者の養成に関する事業	32
1. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用（日本財団助成事業）	32
(1) アドバンスト・インストラクター養成	32
(2) アクア・インストラクター養成	34
(3) リーダーおよびジュニアリーダー養成委託	36
2. 指導員の資質向上（日本財団助成事業）	37
(1) 指導員研修会	37
(2) レベルアップ研修会	38
3. B&G指導者会の登録および活動促進（日本財団助成事業）	39
(1) 地域指導者会の登録推進	39
(2) 第4回「B&G全国指導者会」ブロック責任者会議	40
(3) 「B&G全国指導者会」正副会長会議	41
(4) 周知活動	41
4. 最新技能・知識の調査研究（日本財団助成事業）	42
(1) ボランティア指導員の増員を図るための先進事例の調査	42
(2) 「指導者用教本」の作成	42
ネットワーク構築と調査研究事業	43
1. ネットワーク構築	43
(1) 情報ネットワークに係る活動	43
(2) 人的ネットワークを推進する会議等の実施（日本財団助成事業）	44
2. 調査研究等の活動	52
(1) 事業成果の分析・評価	52
(2) 戦略的な事業展開のための調査研究（日本財団助成事業）	52
(3) 地域の特色ある事業への協力（日本財団助成事業）	52
3. 広報活動	53
(1) 広報活動	53
(2) インターネットを活用した情報の発信・提供	58
(3) 地域情報発信強化のための人材育成事業（日本財団助成事業）	58

海洋センターの運営・活動状況	60
1. 海洋センターの活動状況	60
2. 海洋センター評価	61
(1) 平成25年度「年間評価」(前年度対比)	62
(2) 海洋センター年間評価5カ年の推移	62
(3) 平成25年度「年間評価」(ブロック別傾向)	63
(4) 平成25年度「年間評価」(類型別)	66
3. 利用者人数	68
(1) 海洋センター利用者数(施設別傾向)	68
(2) 海洋センター利用者数(ブロック別傾向)	70
4. 利用者数の各種統計データ(詳細)	71
(1) 平成25年度 施設別・道府県別 年間利用者数(前年度比較)	71
(2) 平成25年度 海洋センター施設別利用者数(ベスト50)	72
(3) 海洋センター利用者数(利用形態別傾向)	73
(4) 海洋センター利用形態(ブロック別傾向)	74
(5) 海洋センター施設別・利用形態別利用人数(ベスト10)	76
海洋クラブの運営・活動状況	77
1. 海洋クラブの活動状況	77
(1) 海洋クラブ数	77
(2) 海洋クラブ員数	78
(3) 海洋クラブ活動人数	78
(4) 海洋クラブ活動日数	79
2. 海洋クラブ評価	79
平成26年度「海洋クラブ評価」(H25年度実績)	80
3. 平成25年度 海洋クラブ活動人数(ベスト50)	82
4. 新規海洋クラブ紹介	83
5. 海洋クラブの話題	84
参考資料	85
1. 海の日アンケート調査	85
2. B&G財団役員一覧	89
3. 平成25年度「地域海洋センター修繕助成」一覧	91
4. 平成25年度「舟艇等の追加・再配備」一覧	93
5. 平成25年度「地域の特色ある事業」一覧	95
6. 「B&G指導者会」県別一覧	96
7. 平成25年度「B&G全国大会」等参加一覧	98
8. 平成25年度 海洋センター現況調査地ほか	101
9. 自治体職員 派遣研修	103
平成25年度 主な新聞等掲載記事	104
「B&G全国指導者会」活動方針・活動目標(平成25年～平成27年)	110
第10回「B&G全国教育長会議」の提言	
第6回「B&G全国サミット」共同宣言	

凡 例

本書における法人の略称は以下のとおり

公益財団法人：(公財)

公益社団法人：(公社)

一般財団法人：(一財)

一般社団法人：(一社)

特定非営利活動法人：NPO法人

第6回「B&G全国サミット」開催

(詳細は44頁)

体験活動で健やかな子供の成長を
～ B & G ネットワークの活動事例から ～

全国360自治体から213人の首長をはじめ副首長・教育長など760人が出席

平成26年1月30日(木)
笹川記念会館 (東京都港区)

海洋センター所在390自治体の92%にあたる360市町村の首長や教育長などが出席。B&Gネットワークを通じて東日本大震災の被災地支援や海洋センター連携強化、環境・防災・水辺の安全教育の推進などに取り組む“共同宣言”が採択された。



特別基調講演

「日本人としての誇り」

日本財団 笹川 陽平 会長



「権威と権力が分離した日本の政治体制が世界で高く評価されている。先人たちが築いてきた歴史や輝かしい文化を次世代に伝える必要がある」と、自国に自信

と誇りを持つ子供を育てることの大切さを強調した。



主催者挨拶

B&G財団 会長 梶田 功

「B&G財団は設立40周年を迎え、新たな一歩を踏み出した。今後も皆様と連携しながら、青少年の健全育成や地域の“健康・人づくり”を推進していきたい」と出席者の協力を呼びかけた。

海洋センター施設修繕助成 (日本財団助成事業)

(詳細は25頁)

平成25年度は44海洋センター45施設に対して
総額 4億7千8百50万円 を助成

★★★ 全国24ヵ所で「修繕助成決定書授与式」開催 ★★★

修繕助成金額が1,000万円を超える24の自治体に対して決定書授与式を実施した。



平成25年7月19日、鹿児島県湧水町栗野海洋センターの決定書授与式を実施。B&G財団菅原悟志専務理事(左から2人目)より米満重満町長(中央)に決定書が手渡された。

「東日本大震災」被災地への災害復旧修繕

B&G財団では、平成23年度から被災地支援として、修繕費用の70%を助成する緊急復旧修繕を実施。これまでに5県9自治体に助成金を交付した。

平成25年度は、東日本大震災で被災した岩手県洋野町種市B&G海洋センターの艇庫に対して1,000万円を助成するとともに、舟艇器材400万円相当を配備した。



平成25年7月30日、B&G財団古山透常務理事(左)から洋野町の水上信宏町長(右)に決定書が手渡された。

第10回「B&G全国教育長会議」 ～ ブロック幹事・道府県代表者 ～ 開催

(詳細は47頁)

子供たちの健やかな成長を目指して
～ 学校・地域・家庭の連携を考える ～
全国44道府県から45人の教育長ほか85人が出席

44道府県連絡協議会を代表する教育長および全国10ブロック連絡協議会の幹事自治体の教育長・担当者を対象に開催。学校・家庭・地域が連携した子供たちの育成事例や各ブロック連協の事業実施状況を発表するとともに、「子供たちの生きる力を育む“体験活動”の推進」をテーマに自由討議を行った。



主催者挨拶

B&G財団 会長 梶田 功



「社会全体で子供の成長を支える体制が求められており、海洋センターの役割がますます重要になっています」

平成25年11月26日(火)
27日(水)
日本財団ビル(東京都港区)



基調講演:「教育再生は家庭・家族の再生から」

明星大学 教授 高橋 史朗 氏

「教育の3本柱である“家庭・学校・地域社会”が力を合わせて子育てをするという基本を取り戻すことが重要です」

「B&Gブロック連絡協議会総会」開催

(詳細は50頁)

関東ブロックを皮切りに全国10ブロックで開催
～ 首長52人、副首長36人、教育長97人など海洋センタークラブ関係者830人が出席 ～

この総会は、海洋センター・海洋クラブの相互連携などを目的に組織されている全国のブロック連絡協議会が主催し毎年開催。首長や教育長、海洋センター責任者が集い、各ブロックの事業計画や予算が審議議決された。



平成25年4月19日～5月28日(全国10ブロック)

148人が出席した海洋センター数最大の「中部ブロック総会」



就任挨拶を行う
関東ブロック連絡協議会会長で
群馬県玉村町の
貫井孝道町長



東北ブロック総会で
「B&G全国教育長会議」の報告を行う全
国教育長会議副会
長・岩手県普代村の
熊坂伸子教育長



今年度の事業計画
を説明する四国ブ
ロック責任者で愛
媛県今治市大三島
海洋センターの藤
原元久所長



H24年度の施設別利用者上位30位の海洋センター
および「2012B&G広報大賞」優秀賞の表彰も実施
(東北ブロック)

「アドバンスト／アクア・インストラクター養成研修」 開催

(詳細は32頁)

新たに78人の指導者が誕生!!

青少年育成、地域住民の健康づくりのための専門知識・指導技術を習得

全国の海洋センター（自治体）から推薦された78人が、水泳やマリンスポーツをはじめ、安全教育から環境学習までの幅広い知識と指導技術を習得。それぞれの地元に帰り、“青少年健全育成” および “地域住民の健康づくり” など「B&Gプラン」推進の核としての活躍が期待される。

アドバンスト・インストラクター： 35人 平成25年5月30日～7月 3日(35日間)
アクア・インストラクター： 43人 平成25年5月30日～6月21日(23日間)



この研修は「環境保全活動・環境教育推進法」に基づく“人材認定事業”として、環境大臣と国土交通大臣から認定されている。

「指導員研修会」 開催

(詳細は37頁)

最新の指導技術・ノウハウほか様々な情報を提供
「指導員研修」「レベルアップ研修」に319人が参加

「B&G指導員研修会」

全国160海洋センター・
2海洋クラブから 174人が参加



平成26年1月23日・24日
日本財団ビル2階会議室

— 実践で役立つ様々な講義・講演 —
基調講演：

「柔道と人間教育」

講義：

「水泳の安全指導」

「海洋性レクリエーションの教育効果」

「スポーツ事故におけるリスクマネジメント」

B&G指導員の資格取得後、資質向上のための研修会を開催。平成25年度は「B&G指導員研修会」「B&Gレベルアップ研修会」に合計319人のB&G指導員が参加、最新の知識・情報、指導技術などを学んだ。

「B&Gレベルアップ研修会」

カヌー／ヨット／水泳から
幼児運動プログラム／転倒・寝たきり予防プログラムまで
5種類の研修会に5ヵ所合計145人が参加



「海を守る植樹教育事業」

(詳細は12頁)

体験型環境学習を通じて“海を守り、人の命を守る 森づくり” 推進

平成25年度は全国22カ所（20海洋センター・2海洋クラブ）で実施

どんぐりから苗を育てて植樹する“体験型の環境学習”を通じて、日本の次代を担う子ども達に自然環境・防災教育を普及することが目的。その特徴は「宮脇方式」と呼ばれる“その土地本来の樹木による森づくり”で、津波や地震・火災などの自然災害に強い“海と人の命を守る森づくり”を推進すること。



石川県穴水町「植樹祭」

「植樹リーダー研修会」を開催し指導者を養成

平成25年5月8日～10日
神奈川県平塚市



横浜国立大学名誉教授
(公財)地球環境戦略研究機関
国際生態学センター長
宮脇 昭氏



事業を導入する海洋センター・海洋クラブ
から24人が参加、様々なノウハウを学んだ



沖縄県名護市「育苗活動」
どんぐりの蒔き付け

「地域の特色ある事業」への支援始まる

(詳細は52頁)

地域の活性化に向けた特色ある事業を支援

平成25年度は全27事業に578万円の共催金を交付

B&G財団では平成25年度から、全国の海洋センター・海洋クラブ、B&G指導員等のネットワークを活用し、地域の活性化につながる“特色ある事業”への支援を開始。平成25年度は、全国のプロック及び県連絡協議会や海洋クラブ、指導者会などが実施する全27事業に対し、5,780,054円の共催金を交付した。

県の枠を超えて指導者会が協力！ 「水辺の安全教室 in 栗橋小学校」

～B&G指導者会～
埼玉県 松伏町・久喜市栗橋
栃木県 下野市国分寺



小学生児童360人が着衣泳、ペットボトルによる救助法、ライフジャケット浮遊などを実施

ニュースポーツに挑戦！ 「北九州ブロック交流会」

～北九州ブロック連絡協議会～



北九州ブロック内の海洋センター・海洋クラブから45人が参加。「アジャタ」や「囲碁ボール」などのニュースポーツに挑戦

曇り空を吹っ飛ばせ！ 「どこでもOPキャラバンカー」

～兵庫県B&G伊丹海洋クラブ～



「少しでも多くの人にOPヨットの楽しさを広めたい」と伊丹海洋クラブが企画。キャラバンカーで大阪などのプールにOPヨットを運び出張教室を実施

「B&G 全国ジュニア水泳競技大会」開催

(詳細は20頁)



水泳の聖地「東京辰巳国際水泳場」で熱戦を展開
24道県から461人のジュニア選手が参加、7種目14の大会新記録が誕生

平成25年8月17日

東京辰巳国際水泳場（東京都江東区）

監督・選手・保護者など1,500人が来場

全国24道県66海洋センター
 選手総数461人が参加

埼玉県が優勝!!



総合優勝：埼玉県
 準優勝：兵庫県 3位：千葉県



シドニー五輪女子
 100m背泳ぎ銀メダ
 リスト 中村真衣氏が
 模範泳法を披露

前日に交流会を開催



大会前日の公式練習終了後、選手がブルサイドに集合。チーム紹介やスイムグッズの抽選会を実施し、交流を深めた。

「B&G杯 全国少年少女カヌー大会2013」開催

(詳細は21頁)



めざせ！富士山のふもとで小学生日本一!!
28府県から41チーム152人のジュニア選手が参加！

平成25年7月26日・27日

山梨県 富士河口湖町 精進湖

日本で唯一の小学生カヌーの全国大会

海洋センター・海洋クラブ
 から10チーム45人が参加



“カヌー体験会”や“水辺の安全教室”も開催



開会式では、鳥取県倉吉市関金B&G海洋センターイルカカヌークラブの谷田一真さんと山梨県上九一色カヌークラブの渡辺青空さんが元気に選手宣誓を行った



カヌー体験会にも
 多くの親子が参加



「水辺の安全教室」
 ではペットボトルを
 使った救助法も体験



今年も“日本元氣復活事業”
 としてチャリティー
 オークションを実施

「2013 B&G OP級ヨット大会」開催

(詳細は23頁)



初心者から上級者まで、ジュニアセーラーが熱戦を展開
東日本・西日本大会に20都府県から34クラブ208人が参加



東日本大会
平成25年7月13日・14日
愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー
参加者：12府県18クラブ、109人

国内最大規模の本大会に、トップレベルの選手から初心者までのジュニア選手が参加。東西の両大会合わせて208人のジュニアセーラーが熱戦を繰り広げた。また、初心者を対象にしたCクラスでは、港内や岸边近くの穏やかな水面でヨットレースを楽しんだほか、水辺の安全を学んだ。



西日本大会
平成25年7月14日・15日
大分県杵築市 住吉浜リゾートパーク
参加者：10都県17クラブ、99人



「水辺の安全教室」
ライフジャケット浮遊体験



初心者のCクラスは、波や風の穏やかな水面で、ヨットの楽しさを満喫した



“東日本大震災”復興支援として、チャリティ販売などの募金活動も実施

「2013 B&G広報大賞」

(詳細は53頁)

応募総数2,140件の中から広報大賞と優秀賞を決定
積極的な広報活動を実践している海洋センターや海洋クラブを表彰

11回目となる今回は、2,140件の応募の中から優秀賞として、5部門13センター、2クラブ、4人が受賞。その中から2013広報大賞に1カ所が選ばれた。

「2013B&G広報大賞」に輝いたのは
『島根県 雲南市加茂B&G海洋センター』（テレビの部）



第6回「B&G全国サミット」で表彰された雲南市加茂B&G海洋センター所在自治体の速水雄一市長(右)と岸 ユキ審査委員長(左)

海洋センター体育館で練習に励む「B&Gレスリング部」の活動を日本海テレビの「ニュースevery日本海」（2013年9月12日放映）が紹介。マットで汗を流す子供たちの様子が5分近くにわたりつぶさに描かれた点が高く評価された。



各分野の専門家により厳正な審査が行われた

受賞部門・受賞数

部 門	優秀賞	大賞
「テレビの部」	5カ所	1カ所
「新聞の部」	5カ所	
「地域広報の部」	2カ所	
ケーブルテレビ	(1カ所)	
地域広報誌	(1カ所)	
「ホームページの部」	3カ所	
「特派員の部」	4人	

※その他、特派員の部16人に「奨励賞」が贈られた

B&G全国指導者会 ブロック責任者会議 開催

(詳細は40頁)

未来を担う子供たちのため今後の事業推進を協議
平成26年度までに地域指導者会の100%設置を誓う！

平成25年10月10日・11日、B&G財団会議室で「B&G全国指導者会 ブロック責任者会議」が開催され、今後の事業推進を協議した。地域指導者会では、「日本の未来を担う子供たちのために“育てよう生きる力 届けよう笑顔と元気”」をスローガンに、“水辺の安全教室”をはじめ青少年育成のための様々な活動を展開。指導者会の数が年々増加する中、平成26年度までに全ての海洋センターに地域指導者会を設置することを誓った。



全国指導者会 会長 青森県南部町 工藤 祐直 町長（前列中央）
 〃 〃 副会長 徳島県阿南市 金久 博 氏（左から2人目）
 〃 〃 副会長 埼玉県久喜市 川島 正光 氏（右から2人目）

ブロック名	設置率	ブロック名	設置率
北海道	94.1%	近 畿	76.9%
東 北	83.3%	中 国	94.3%
関 東	73.3%	四 国	100.0%
北 陸	75.3%	北九州	83.3%
中 部	84.1%	南九州	69.2%
		合 計	83.7%

都内小学校で「水辺の安全教室」実施

(詳細は15頁)

1,000人を超える児童が参加！
学校のプールでカヌーを楽しみながら、身を守るための対処法を学ぶ

B&G財団では、都内の小学校のプールを活用して、“カヌー体験”や“ライフジャケット・ペットボトル浮遊体験”、“紙芝居”などによる「水辺の安全学習」を実施。平成25年度は都内12校で実施し、1,193人が参加した。



助けを待つ時は集まって肩を組んで待つ



プールでカヌー体験



着衣泳



ペットボトルを使った背浮き



紙芝居で海や川の安全を学ぶ

B&G海洋クラブの話題

(詳細は84頁)

世界に羽ばたけ、B&G海洋クラブ員大活躍!!

～2013年IODAアジア選手権大会～

平成25年8月、9年ぶりの日本開催となった標記大会が、神奈川県立葉山港ヨットハーバーで開催され、14ヵ国、105人のジュニアセーラーが参加。日本代表となった24人の精鋭がナショナルチームを結成する中、9人のB&G海洋クラブ員がチーム入りを果たした。

※2014年3～4月にバーレーンで開催された2014年IODAアジア選手権大会にもB&G海洋クラブから4人が出場し健闘した

※IODA：国際オブティミスト級ディンギー協会



9人のB&G海洋クラブ員がチームジャパンの一員として活躍した



～2014年IODA世界選手権大会の出場権獲得～

2014年ナショナルチームの最終選考会レースが昨年12月に別府市で行われ、B&G時津海洋クラブの尾道佳諭選手（中2）、B&G兵庫ジュニア海洋クラブの藤原達人選手（中2）が、10月にアルゼンチンで開催される“世界選手権大会”の出場権を獲得した。



B&G時津海洋クラブの
尾道佳諭選手



B&G兵庫ジュニア海洋
クラブの藤原達人選手

新たに海洋クラブ誕生!

「B&G慶應医学部ヨット部 海洋クラブ」(神奈川県)

(詳細は83頁)

慶應義塾大学医学部体育会ヨット部によるB&G海洋クラブ。470級主体のクラブで、家族や子供へのセーリング普及活動も行っている。

- クラブ員数：33人
- 活動場所：
神奈川県江の島ヨットハーバー

写真提供：青野康広氏(B&G松山海洋クラブ)

全国で年間延べ約1,011万人が利用

(詳細は68頁)

全施設合計で17万人減少、プールは6万人増加

平成25年度の総利用者人数は10,112,686人で、前年度より17万人(-1.7%)の減少となった。艇庫は主に荒天による影響が強く、前年度と比較して約1万9百人減少(-3.8%)。体育館についても大会やイベント等の中止が多く見られ、22万6千人(-3.8%)減少したが、プールについては6万2千人(+1.5%)増加した。

★★★ 施設利別用人数上位海洋センター (ベスト3) ★★★

艇庫：28万人(277,360人)
プール：412万人(4,121,320人)
体育館：571万人(5,714,006人)
総合計：1,011万人(10,112,686人)

施設名	第1位	第2位	第3位
艇庫	本部町(沖縄県)	滝川市(北海道)	豊後高田市真玉(大分県)
プール	芦屋市(兵庫県)	坂井市丸岡(福井県)	芳賀町(栃木県)
体育館	上郡町(兵庫県)	徳島市(徳島県)	久喜市栗橋(埼玉県)

青少年の健全育成に関する事業

自然体験の多い小・中学生ほど、道徳観や正義感が身に付く傾向にあり（注1）、自主性や自立心、社会性や学習意欲の向上にも良い影響がある（注2）ことが明らかになっている。B&G財団は“礼と節”を身につけた青少年の豊かな人間性を養うため、海や緑の自然体験の機会を提供するとともに、自分の命を自分で守る“自助意識”を高める「水の安全教育」を推進している。また、「B&Gプラン」を推進する全国の海洋センター・海洋クラブなどに対して、当財団が建設した施設の修繕や海洋性レクリエーション器材の配備などのハード、活動プログラムなどを提供するソフトの両面から様々な助成・支援を行っている。

（注1）独立行政法人国立青少年教育振興機構による調査

（注2）B&G財団「海洋教育事業 自然体験活動の効果に関する調査」

1. 自然体験・環境教育活動

（1）海を守る植樹教育（日本財団助成事業）

東日本大震災を契機として平成24年度にスタートしたこの事業は、日本の未来を担う子供たちに自然に対する畏れや重要な役割、素晴らしさを教え、自然を守り共に生きていく心を育むことを目的に「体験型の環境教育」事業として実施しているものである。前年度に引き続いてB&G植樹リーダーの養成を行うとともに、全国の海洋センター・海洋クラブ等で実施する育苗・植樹活動の支援等を行った。

ア. 植樹リーダー研修会

地域での育苗・植樹事業を推進するため研修会を実施し、指導者を養成した。

期 間：平成25年5月8日（水）～10日（金）

場 所：神奈川県平塚市

社会福祉法人進和学園「しんわルネッサンス」

参加者：24人

内 容：講 義



（敬称略）

講師名	所 属 等	内 容
宮脇 昭	（公財）地球環境戦略研究機関 国際生態学センター センター長	基調講演：「いのちを育むふるさとの森づくり」
石村 章子	NPO法人 地球の緑を育てる会 理事長	講義：「緑環境再生にむけての市民の力」
林 寿則	（公財）地球環境戦略研究機関 国際生態学センター 研究員	講義：「森の力について（環境教育）」 「事前調査結果について」

事例発表 岩手県普代村 B&G植樹リーダー 森田 陽 氏

実 習 どんぐりの育て方から植樹まで

植樹見学 会場建物周辺／万田ホーム／どんぐりハウス／国道脇 等



国際生態学センター
センター長 宮脇 昭 氏



地球の緑を育てる会
理事長 石村 章子 氏



国際生態学センター
研究員 林 寿則 氏



岩手県普代村
B&G植樹リーダー
森田 陽 氏

「B&G海を守る植樹教育」事業の特徴

「宮脇方式」といわれる、それぞれの土地本来の樹木（常緑広葉樹等）による“ふるさとの森づくり”が大きな特徴。常緑広葉樹等は、直根性で根が深く、水分を多く含んでおり、津波や地震、火災などの自然災害に大変強い。その土地本来の自然植生による多種類の常緑広葉樹等を密植・混植することで、継続的な維持管理が不要で多様性に富む安定した森（命の森）を短期間で再生することができる。

イ. 育苗の支援

育苗を実施した海洋センターおよび海洋クラブ20ヵ所に対し、事業経費の補助（1,580,919円）を行うとともに、情報提供などの協力を行った。

平成25年度「育苗」実施一覧

No.	道府県	センター・クラブ	育苗 実施回数	参加 延べ人数	運営員 延べ人数
1	北海道	鷹栖町海洋センター	1	15	3
2		遠別町海洋センター	2	32	9
3		美幌町海洋センター	1	28	4
4		B&G小樽海洋クラブ	1	11	3
5	岩手県	奥州市前沢海洋センター	1	11	6
6	埼玉県	久喜市栗橋海洋センター	1	29	2
7	石川県	穴水町海洋センター	1	14	3
8	静岡県	掛川市大東海洋センター	4	484	19
9		掛川市海洋センター	3	216	18
10		掛川市大須賀海洋センター	3	234	17
11	兵庫県	B&G家島海洋クラブ	1	32	4
12	島根県	雲南市加茂海洋センター	1	59	6
13	山口県	周防大島町海洋センター	1	43	6
14	徳島県	阿南市海洋センター	2	63	4
15	愛媛県	久万高原町久万海洋センター	4	163	44
16	高知県	津野町東津野海洋センター	1	32	5
17		香美市香北海洋センター	3	41	16
18	佐賀県	鹿島市海洋センター	1	53	9
19	沖縄県	伊江村海洋センター	3	162	19
20		名護市海洋センター	1	25	3
合 計			36	1,747	200



ドングリ拾い
(埼玉県久喜市)



ドングリを蒔き付け、
発芽後に鉢上げを行う
(沖縄県伊江村)



学習会
(島根県雲南市)

ウ. 植樹の支援

植樹を実施した海洋センター4ヵ所に対し、事業経費の補助（2,000,000円）を行うとともに、情報の提供、適正樹種決定のための専門家による植生調査等協力を行った。



穴水町植樹際

平成25年度「植樹」実施一覧

No.	道府県	センター・クラブ	植樹日	植樹本数	参加延べ人数	運営員延べ人数
1	北海道	せたな町海洋センター	5月24日(金)	904	98	46
2	岩手県	奥州市前沢海洋センター	9月7日(土)	3,400	250	30
3	石川県	穴水町海洋センター	8月25日(日)	600	130	10
4	鹿児島県	与論町海洋センター	12月23日(月)	2,357	288	35
合 計				7,261	766	121



せたな町植樹祭



奥州市前沢植樹祭



与論町植樹祭

エ. 植樹映像の制作

植樹教育事業の普及を目的とした映像を制作し、インターネット等で公開した。また、植樹ブログを通じて育苗・植樹情報を広く提供するとともに、植樹指導者との情報共有を行った。

「B&G海を守る植樹教育事業」普及用映像

NO	タイトル	時間
1	事業PR	8分31秒
2	森づくりの大切さを学ぶ（子供用）	10分28秒
3	苗の育て方を学ぶ（子供用）	6分
4	植樹の仕方を学ぶ（子供用）	6分16秒
5	「育苗」の実施方法（植樹リーダー用）	6分24秒
6	「植樹」の実施方法（植樹リーダー用）	8分 6秒



「海を守る植樹教育」事業PR用映像



映像：森づくりの大切さを学ぶ（子供用）



映像：苗の育て方を学ぶ（子供用）



映像：「育苗」の実施方法（植樹リーダー用）



映像：「植樹」の実施方法（植樹リーダー用）

「植樹ブログ」
（記事件数85件）



(2) 水の事故をゼロにするための周知活動の実施（日本財団助成事業）

幹事・パートナーと連携し、これまでの3年間の「水の事故ゼロ運動」の実績等をまとめ、今後の日本の社会に自然との共存や自助意識を根付かせるための事業を展開した。

ア. 安全教育事業

(ア) 全国の小学校等を対象にした「水辺の安全教室」などの開催支援

a. パートナー等が実施する「水辺の安全教室」への実施支援

パートナーが実施する「水辺の安全教室」参加者ならびに「水辺の安全教室」の実施団体、学校等に学習教材および安全器材等の配布・貸出を行った。

配布教材	水辺の安全対策「紙芝居」、水辺の安全手帳、水の安全教育映像（DVD）など
貸出器材	ライフジャケット、レスキューチューブ、スローバック、練習用AED、心肺蘇生練習機、ニッパーボードなど
支援団体数	152団体



秩父警察による子供対象の水辺の安全教室



北海道積丹町の水の安全対策

b. 「水辺の安全教育推進校」表示証の交付

「水辺の安全教室」実施校に対して、申請に基づき「水辺の安全教育推進校」の表示証を交付した。

交付数：48校（都内12校、地方36校）

c. 都内小学校における「水辺の安全教室」への協力

東京都区内の小学校またはPTAなど保護者の要請を受け、小学校プールを会場として小学生を対象に、カヌー体験などの海洋性レクリエーション活動とライフジャケット浮遊体験や落水時の対処法・水の安全紙芝居などの水辺の安全教育活動を実施した。

時期：6月～8月 実施日数13日

場所：都内小学校プール 12校

参加者：1,193人

内容：カヌー体験水辺の安全学習（浮き身・紙芝居・ロープワーク等）



学校のプールでカヌー体験



ライフジャケット浮遊体験



背浮きの練習



熱中症予防の学習
（協力：B&G慶應医学部ヨット部海洋クラブ）

《実施校》

No	実施日	小学校名	参加児童数	見学児童数	保護者教諭数	小計
1	6月25日(火)	江東区立 第二辰巳小学校	90人	5人	8人	103人
2	6月27日(木)	江東区立 第一大島小学校	102人	5人	14人	121人
3	7月 4日(木)	江戸川区立 南篠崎小学校	99人	7人	5人	111人
4	7月 9日(火)	中央区立 月島第三小学校	345人	27人	18人	390人
5	7月11日(木)	江戸川区立 大杉第二小学校	81人	11人	3人	95人
6	7月16日(火)	江戸川区立 一之江小学校	89人	13人	4人	106人
7	7月18日(木)	中央区立 月島第二小学校	56人	4人	4人	64人
8	7月19日(金)	江東区立 第二亀戸小学校	44人	1人	3人	48人
9	7月22日(月)	江戸川区立 清新第二小学校	47人	2人	16人	65人
10	8月24日(土)	杉並区立 四宮小学校	23人	1人	8人	32人
11	8月25日(日)	杉並区立 杉並第九小学校	12人	3人	12人	27人
		杉並区立 天沼小学校				
12	8月31日(土)	荒川区立 第七峡田小学校	23人	0人	8人	31人
			合計 1,193人			

(イ) パートナー等が開催する「水辺の安全講習会」等への講師の派遣および幹旋

1	南九州ブロックB&G指導者講習会	
	時期：5月24日(金) 場所：熊本県熊本市 人数：50人 内容：安全教室プログラムの内容、 実技の指導法について	
2	第2回愛南町いやしの郷トライアスロン大会	
	時期：6月29日(土) 場所：愛媛県愛南町 人数：1,200人(内競技参加者：312人) 内容：安全器材・教材の展示及びスイム競技救助	
3	B&G OP級ヨット大会(東日本)	
	期日：7月13日(土)・14日(日) 場所：愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー 人数：35人 内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助・ ライフジャケット浮遊体験	
4	B&G OP級ヨット大会(西日本)	
	期日：7月14日(日)・15日(月) 場所：大分県杵築市 住吉浜リゾートパーク 人数：40人 内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助	

5	2013 WSN 遠州ネット「水辺の安全講習会」	 
	時期：7月16日(火) 場所：静岡県浜松市 県立三ヶ日青年の家 人数：28人 内容：(講義) ・WSN3年間の活動について ・小型艇の安全性・小型船舶安全法の考え方と実態 (一般財団法人 舟艇協会) ・2013の夏を迎えるにあたって(御前崎海上保安署) ・ミニボート教室の運営指導について (実技) ・スタンドアップパドルボード (SUP) の安全指導方法について ・スモールボートの取り扱い方	
6	宮城県川崎町立富岡小学校「安全教室」	
	時期：7月16日(火) 場所：宮城県川崎町 人数：83人 (全校生徒) 内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助・ライフジャケットの正しい着用	
7	B&G杯全国少年少女カヌー大会	
	期日：7月26日(金)・27日(土) 場所：山梨県富士河口湖町 精進湖カヌー競技場 人数：39人 内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助体験	
8	群馬大学 水系スポーツ実習	
	時期：8月8日(木) 場所：群馬県前橋市 群馬大学屋外プール 人数：45人 内容：水の安全紙芝居・ペットボトルを活用した救助・ライフジャケットの正しい着用、カヌー実技、レスキューチューブ・ボードの使い方、ロープワークほか	
9	B&G全国ジュニア水泳競技大会	
	時期：8月17日(土) 場所：東京辰巳国際水泳場 人数：1,500人 内容：水の安全教育映像の放映	
10	芳賀町水中運動会	
	時期：12月1日(日) 場所：栃木県芳賀町B&G海洋センター 人数：100人 内容：ライフジャケットの正しい着用、ニッパーボード、水中レクリエーション ほか	

(ウ) 海外業務提携先との情報・意見交換

日本における水の事故ゼロ運動の3ヵ年の活動報告を行うために、水の安全教育国際会議へ参加した。

会 議 名：水の安全教育国際会議

主 催：ウォーターセーフティーニュージーランド、オーストスイム

会議期日：10月4日(金)～5日(土)

場 所：ニュージーランド クイーンズタウン市「リッジスレイクランドホテル」

出 席 者：300人

参 加 国：ニュージーランド、オーストラリア、アメリカ、イギリス、ドイツ、香港、日本（7カ国）

会議内容：・基調講演（アメリカ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド代表）

・分科会（実技もしくは講演 30分／1時間）…… WSN 30分講演

・表彰式

・展示会スペース

・AUSTSWIM指導講習

WSN発表内容（30分間）

・世界的に見た日本の水の事故の現状

・ウォーターセーフティーニッポンとB&G財団の活動紹介

・地域との連携について

官（警察）との連携（長瀬コースロープ設置）

水辺の安全教室（小学校）

防災教育（三重県志摩市、岩手県大船渡市の小学校）

啓発活動（海上保安庁、著名人活用、標語の募集など）



WSNの活動を発表



分科会「幼児プログラム」



優秀団体表彰

イ. 啓発・普及活動事業

(ア) 行政・地方自治体との連携強化（防災教育含む）

a. 積丹町「水の事故ゼロ運動」と巡視船クルーズ

時 期：6月30日(日)

場 所：北海道積丹町

参加人数：延べ4,130人

内 容：水の安全対策の説明と救助の実演



救助の実演（積丹町）

b. 自治体ケーブルテレビでの「水辺の安全教育映像」の放映推進

自治体または自治体から委託先が運営するケーブルテレビ（CATV）を通じて、「水の安全教育映像」が放映された。

放映自治体：15自治体

1	秋田県由利本荘市	6	兵庫県南あわじ市	11	岡山県津山市
2	石川県七尾市	7	兵庫県養父市	12	徳島県東みよし町
3	長野県白馬村	8	島根県松江市	13	愛媛県愛南町
4	長野県大町市	9	山口県長門市	14	佐賀県江北町
5	愛知県新城市	10	山口県周防大島町	15	熊本県あさぎり町

(イ) 安全防止対策の発信

CANPANブログ、メールマガジン、フェイスブックを活用し、水辺の安全に対する自助意識への啓発活動を実施した。



(ウ) 学校教育等と連携した水辺での体験プログラムの提供

ホームページ等でプログラムやマニュアルの提供を行うとともに、海洋センターや学校等の取り組み事例を紹介した。



(3) B&Gクリーンフェスティバル

海洋センター・海洋クラブによる海洋性レクリエーション普及イベントと併せて、日頃の活動水域での清掃やゴミ拾いなどのクリーン活動を推進し、環境保全への意識付けを行った。

また、平成25年度は、昨年に引き続き、「水辺の安全教室」を重点実施するとともに、海洋センター・海洋クラブの要望に応え、対象期間を通年とした。

期 間：平成25年4月1日～平成26年3月31日(通年)

実施数：61海洋センター、3海洋クラブ

人 数：合計8,695人(クリーン活動3,722人、海レク活動2,371人、水辺の安全教室2,602人)

クリーン活動成果：ゴミ回収量9,094kg



広島県呉市蒲刈
クリーンフェスティバルのポスター



鹿児島県いちき串木野市
「清掃活動」と合わせて
“カヌー体験”や“ライフジャケット
浮遊体験”を実施



クリーンフェスティバル
長崎県佐世保市小佐々海洋センター

2. 大会・交流活動

B&G全国スポーツ大会（日本財団助成事業）

海洋センター・海洋クラブの利用者を対象に、日頃の練習の成果発表と参加者の相互交流を図るため、海洋性レクリエーション等の全国大会を開催した。

ア.「2013 B&G全国ジュニア水泳競技大会」の開催

～ 24道県から461人のジュニアスイマーが参加 ～

小・中学生を対象に道府県別の団体対抗戦として、種目別・男女別の水泳競技大会を開催したほか、シドニーオリンピック競泳銀メダリスト中村真衣氏によるデモンストレーションを行った。（参加センター一覧は98頁）



水泳の聖地「東京辰巳国際水泳場」で熱戦を展開

期 日：平成25年8月17日（土）
（前日16日に公式練習会と交流会を開催）

場 所：東京辰巳国際水泳場

人 数：約1,500人（指導者・保護者等含む）
461人（競技会／全国24道県66海洋センター）
372人（公式練習会・交流会）

※「インターネット水泳記録会」の記録上位者、男女6人を本大会に招待した

種 目：年齢区分／小学3・4年生、小学5・6年生、中学生の3区分
競技種目／自由形、背泳ぎ、平泳ぎ、バタフライ、メドレーリレー、フリーリレーの6種目
距 離／50m、100m、200m（男女別）
種 目 数／個人26種目、リレー4種目 計30種目

（敬称略）

結 果：	総合順位	1位：埼玉県 2位：兵庫県 3位：千葉県
	男 子	1位：兵庫県 2位：千葉県 3位：富山県
	女 子	1位：埼玉県 2位：兵庫県 3位：高知県
最優秀選手		森田 遥大（小4・男子）兵庫県上郡町海洋センター 湯澤 胡桃（小3・女子）栃木県芳賀町海洋センター
優秀選手		武 快飛（小3・男子）群馬県玉村町海洋センター 小林 伸明（小5・男子）新潟県燕市海洋センター 阪本 祐也（中2・男子）三重県大紀町大内山海洋センター 和佐 楓（小4・女子）福岡県柳川市大和海洋センター 森中 優花（小6・女子）兵庫県上郡町海洋センター 千葉 美捺穂（中3・女子）埼玉県嵐山町海洋センター
大会記録更新数		7種目14個

後 援：（一社）共同通信社、読売新聞社、（公財）日本ゲートボール連合、
（公財）笹川スポーツ財団、（公財）日本海事科学振興財団、
（公社）日本トライアスロン連合、（NPO法人）日本ライフセービング協会、
B&G全国市長会議、B&G全国町村長会議、B&G全国教育長会議、
B&G全国指導者会

協 賛：大塚製薬（株）、BOAT RACE振興会、ミスノ（株）、江崎グリコ（株）

協 力：関東ブロック地域海洋センター連絡協議会
関東ブロック内地域指導者会



各道県の予選会を勝ち抜き、日本水泳連盟資格級1級の標準タイムをクリアした小・中学生が出場。14の大会新記録が出る白熱したレースが展開された

昨年優勝の兵庫県チーム
松本 隆之介 くん、榎谷 香花 さん
が選手宣誓



初の総合優勝 埼玉県チーム

中央左：シドニー五輪女子100m背泳ぎ銀メダリスト 中村 真衣 氏
中央右：B&G財団 菅原 悟志 専務理事



「子どもたちに笑顔を
日本元気復活事業」
東日本大震災復興支援のため、10万円を超える募金をいただいた

イ. B&G杯全国少年少女カヌー大会2013

小学生を対象とする日本で唯一の日本カヌー連盟公認カヌースプリント競技の全国大会で、全国の海洋センター・海洋クラブ、各地のカヌークラブ等で練習している子供たちの成果発表の場として開催。また、「カヌーの普及」と「水辺の安全教育」の推進を目的に、「カヌー体験会」および「水辺の安全教室」を行った。なお、今回は「JOCジュニアオリンピックカップ全国中学生カヌー大会」との同時開催となった。



B&G普及艇レースの部

期 日：平成25年7月26日(金)～7月27日(土)

場 所：精進湖カヌー競技場（山梨県 富士河口湖町）

人 数：約400人（指導者・保護者等含む）

152人（競技大会／28府県41チーム）

※海洋センター・海洋クラブからは10チーム45人が参加

39人（カヌー体験会・水辺の安全教室）

共 催：(公社) 日本カヌー連盟

種 目：4年生以下普及艇、5・6年生普及艇、K-1・K-2（各200m）、フラットスラローム

（敬称略）

結 果：

4年生以下 普及艇	男子	1位：ミンドラム マーカス 廣記（B&G飯塚穂波海洋クラブだいご支部） 2位：吉岡 和美（佐倉市カヌー協会） 3位：蒔田 遊士（湘南カヌースポーツクラブ）
	女子	1位：大戸 章花（戸田ドルフィンカヌースポーツ少年団） 2位：高橋 ひなた（この指とまれ☆NAWMAN'S） 3位：土田 華（石川県カヌー協会 かけはし海洋クラブ）

5・6年生 普及艇	男子	1位：斎藤 康祐（萌明幼児館カヌークラブ） 2位：ミンドラム ロバート 誠也（B&G飯塚穂波海洋クラブだいぶ支部） 3位：毛利 圭太（松戸市カヌー協会・エルフィンキッズ）
	女子	1位：村野 由奈（B&G飯塚穂波海洋クラブだいぶ支部） 2位：小島 はづき（萌明幼児館カヌークラブ） 3位：松本 彩（倉吉市関金B&G海洋センター イルカカヌークラブ）
カヤック シングル (K-1)	男子	1位：佐々木 絵（本荘ジュニアカヌークラブ） 2位：北嶋 優翔（本荘ジュニアカヌークラブ） 3位：安井 堅士朗（久美浜ジュニアカヌーチーム）
	女子	1位：柳堀 あいり（B&G香取市小見川海洋クラブ） 2位：平泉 真衣（河北カヌークラブ） 3位：野間 咲月（和知ジュニアカヌークラブ）
カヤック ペア (K-2)	男子	1位：佐々木 絵・北嶋 優翔（本荘ジュニアカヌークラブ） 2位：松川 瑛・阿部 智礼（本荘ジュニアカヌークラブ） 3位：安井 堅士朗・奥田 辰輝（久美浜ジュニアカヌーチーム）
	女子	1位：小出 菜々子・北條 明日香（佐倉市カヌー協会） 2位：野間 咲月・梅原 三和（和知ジュニアカヌークラブ） 3位：越田 彩華・土田 菜（石川県カヌー協会かけはし海洋クラブ）
フラット スラローム	男子	1位：斎藤 康祐（萌明幼児館カヌークラブ） 2位：田中 雄己（松戸市カヌー協会・エルフィンキッズ） 3位：中嶋 学人（松戸市カヌー協会・エルフィンキッズ）
	女子	1位：小島 はづき（萌明幼児館カヌークラブ） 2位：小出 菜々子（佐倉市カヌー協会） 3位：北條 明日香（佐倉市カヌー協会）



開会式・選手宣誓



スラローム競技



親子でカヌー体験会



「JOCジュニアオリンピックカップ全国中学生カヌー大会」と同時開催となった今回の大会。小・中学生の選手全員で記念撮影

ウ. 2013 B&G OP級ヨット大会

セーリングの普及と海洋センター・海洋クラブ間の交流を目的に、初心者から世界大会を目指す上級者まで、全ての青少年セーラーが参加可能なクラス別のOP級ヨットレースを「東日本大会」および「西日本大会」として開催し、併せて“水辺の安全教室”を実施した。

また、両大会のAクラス上位者各2名には「第45回日本オプティミストセーリング選手権大会」の出場権が与えられた。

(ア) 「2013 B&G OP級ヨット大会」 東日本大会

期 日：平成25年7月13日(土)・14日(日)

場 所：愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー

共 催：愛知県ヨット連盟、
名古屋市ヨット連盟、
B&Gなごや海洋クラブ

後 援：文部科学省、国土交通省、愛知県、
愛知県教育委員会、蒲郡市、
蒲郡市教育委員会、中日新聞社、
東海テレビ放送(株)

協 力：第四管区海上保安本部、日本OP協会、
(社)日本ジュニアヨットクラブ連盟、
中部ブロックB&G地域海洋センター連絡協議会、
愛知県B&G海洋センター連絡協議会、水の事故ゼロ運動推進協議会、
B&G全国指導者会

協 賛：大塚製薬(株)、(株)ノースセール・ジャパン、ハーケンジャパン(株)

人 数：約220人(指導者・保護者含む)

109人(競技大会／1府11県18クラブ)

(敬称略)

結 果：	クラス	1位	2位	3位
	A	玉山 義規(中1・男) 丸玉セーリングクラブ	神谷 仁(中2・男) 静岡県セーリング連盟 浜名湖ジュニアクラブ	藤原 達人(中2・男) B&G兵庫ジュニア海洋クラブ
	B	川島 武継(小4・男) B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	藤原 光希(小6・男) 琵琶湖ジュニアヨットクラブ	岩城 海聖(小6・男) 石川羽咋ジュニアセーリングクラブ
	C	鈴木 萌風(小6・女) 琵琶湖ジュニアヨットクラブ	佐々木 凱成(小2・男) 琵琶湖ジュニアヨットクラブ	蜂須賀 啓介(小3・男) B&Gなごや海洋クラブ



全力で帆走する選手たち



109人のジュニアセーラーが参加した東日本大会



Cクラスはレース前に
「水辺の安全教室」を実施



レース後はレセプションで
クラブ間の懇親を深めた

(イ)「2013 B&G OP級ヨット大会」西日本大会

期 日：平成25年7月14日(日)～15日(月・祝)

場 所：大分県杵築市 住吉浜リゾートパーク

共 催：大分県セーリング連盟、
B&G別府海洋クラブ

後 援：文部科学省、国土交通省、大分県、
大分県教育委員会、杵築市、
杵築市教育委員会、杵築市体育協会、
杵築市観光協会、杵築市商工会、
大分県漁業協同組合杵築支部、
住吉浜リゾートパーク、
杵築セーリング連盟、大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、
TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、FM大分

協 力：日本OP協会、(社)日本ジュニアヨットクラブ連盟、北九州ブロックB&G地域海洋センター連絡協議会、大分県B&G財団地域海洋センター連絡協議会、水の事故ゼロ運動推進協議会、B&G全国指導者会

協 賛：大塚製薬(株)、(株)ノースセール・ジャパン、ハーケンジャパン(株)

人 数：約200人(指導者・保護者等含む)

99人(競技大会／1都9県、18クラブ)

(敬称略)

結 果：	クラス	1位	2位	3位
	A	吉川 野乃香(小6・女) 広島セーリングスクール	前田 海陽(小6・男) 広島セーリングスクール	西澤 秀人(中3・男) 北九州Jr.ヨットクラブ
	B	黒田 浩渡(小4・男) B&G兵庫Jr.海洋クラブ	泉 創(中1・男) B&G新居浜海洋クラブ	幸野 翔太(小3・男) B&G別府海洋クラブ
	C	河野 大陸(小4・男) B&G別府海洋クラブ	廣田 海斗(小3・男) B&G別府海洋クラブ	下石 雅楽(小2・女) B&G別府海洋クラブ



Aクラスのレースは大激戦



99人のジュニアセーラーが参加した西日本大会



Cクラスのレースは
ビーチからスタート



夜のレセプションでは
ゲーム大会で盛り上がった



B&G OP級ヨット大会
(東日本大会)

「子どもたちに笑顔を 日本元気復活事業」

東日本大震災復興に向けた支援活動として、“B&G全国スポーツ大会”の各会場でチャリティ販売と募金活動を実施。参加者の皆さんの善意により集まった合計31万円の募金全額を日本財団「ROAD プロジェクト」に寄付しました。



B&G杯
全国少年少女カヌー大会

3. 助成・活動支援

(1) 地域海洋センター及び海洋クラブの施設整備（日本財団助成事業）

海洋センター建設後10年を経過し「海洋センター評価」が原則B評価以上で、施設の機能保全及び機能向上（バリアフリー化など）を目的とする修繕、および、東日本大震災（地震、台風等）により被害を受けた海洋センター施設の原状復帰修繕等に対し、助成金の交付を行った。

また、B&Gプランの趣旨に賛同し、地域に根付いた海洋性レクリエーション活動を組織的・継続的に実施する団体を「B&G海洋クラブ」として登録するとともに、海洋センター・海洋クラブに対して舟艇器材の「追加配備」及び「再配備」による活動支援を行った。

ア. 通常修繕に対する助成金の交付

平成25年度に通常修繕が完了した45施設に対して、総額478,500,000円の助成を行った。

修繕項目	市町村数	海洋センター数	施設数	助成金額
通常修繕	44	44	45	478,500,000円

☆☆☆ 決定書授与式を開催 ☆☆☆

平成25年度の修繕助成金額が1,000万円以上となる24ヵ所の自治体に対して、修繕助成金決定書授与式を実施。29社の新聞社と5社のテレビ局の取材を受け、ポートレースの収益金の有効活用と施設のリニューアルを住民に周知した。

また、『東日本大震災』により被害を受けた1ヵ所の自治体に対して、災害復旧助成金決定書授与式を行った。

決定書授与式実施 全国24自治体



B&G財団 菅原 専務理事(左)
鹿児島県湧水町 米満町長(右)



B&G財団 古山 常務理事(左)
岩手県洋野町 水上町長(右)



千葉県香取市山田B&G海洋センターのプールリニューアルオープンでは、シドニー五輪女子100m背泳ぎ銀メダリストの中村 真衣氏による水泳教室も開催された

リニューアルオープン式典開催

修繕助成により利便性や機能が向上した8ヶ所の海洋センターで、リニューアルオープン式典が行われた。



外壁全面塗装、照明自動昇降装置など、新しく生まれ変わった愛媛県愛南町御荘B&G海洋センター（左）と工事前の写真（右）



イ. 平成26年度修繕助成の決定

平成26年度に修繕を計画している30市町村、30海洋センター、31施設に対し、海洋センター施設整備委員会の審議を経て、総額561,100,000円の助成を決定した。

修繕項目	市町村数	海洋センター数	施設数	助成決定金額
通常修繕	30	30	31	561,100,000円



施設整備委員会

これまでの修繕助成金総額（H13～H25年度）

種 別	助成金額	種 別	助成金額
通常修繕	4,398,300,000円	災害復旧	274,290,000円
艇 庫	146,800,000円	艇庫特別施設整備	96,800,000円
プール	2,885,800,000円	特例修繕	56,600,000円
体育館	1,360,900,000円	特別施設整備	13,400,000円
グラウンド	4,800,000円	助成金額 総額	4,839,390,000円

ウ. 舟艇器材等の配備

（ア）舟艇器材追加・再配備

26海洋センター・19海洋クラブ 計45ヵ所からの申請を受け、活動状況等を審査し内31ヵ所（20センター11クラブ）に対し、救助艇やライフジャケット等431点の安全器材等を主体とする舟艇器材（約811万円相当）の配備に係る助成を行った。（詳細は93頁）

配備舟艇器材

ライフジャケット、救助艇、船外機、カヌーなど



（イ）海洋クラブ設立支援に係る舟艇器材の貸与

平成25年度におためし海洋クラブの登録を行った「三重県 亀山市関B&G海洋センター」に対し、下記の舟艇を貸与した。

舟艇の名称	数量	備 考
B&Gカヌー（1人乗り）	4	おためし海洋クラブとして設置をしていた新潟県南魚沼市大和B&G海洋センターが登録を断念したため、貸与していたカヌー等を亀山市に再貸与した。
B&Gカヌー（2人乗り）	2	
OPヨット	2	
セールボート	2	
救助艇+船外機	1	
ライフジャケット	30	

（ウ）海洋クラブ登録に係る舟艇器材の新規配備

平成25年度に登録された、1海洋クラブに対し、救助艇・船外機及びライフジャケット、約438万円相当（内財団助成額約247万円）を配備した。

新規海洋クラブ名	県名	主な新規配備舟艇類
B&G慶應医学部ヨット部 海洋クラブ（一般）	神奈川県	救助艇1艇、船外機1台、船台 ライフジャケット（大10着、小5着）

エ. 平成25年度 海洋センターの現状調査等

35ヵ所の海洋センターを対象に、市町村長や教育長との面談のほか、海洋センターの管理・運営状況および問題点等の確認を行った。

オ. 海洋センターの評価

海洋センターの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、財団が行う公正な支援活動の“指標”として、統一された評価基準による評価を実施。

また、評価結果を公表し優良海洋センターの表彰を行うとともに、改善点等の指導を行った。

海洋センター評価は、年間評価（対象期間：4月～3月）および中間評価（対象期間：4月～9月）の2回を実施し公表した。平成24年度の年間評価（H25年4月度評価）の結果は次のとおり。

なお、平成25年度年間評価（H26年4月度評価）の詳細は62頁に記載。



第6回「B&G全国サミット」において、「特A」181センターと「A」128センターを紹介し、10年連続「特A」となった青森県南部町と埼玉県久喜市が特別表彰された

評価別 海洋センター数（平成24年度実績）

特A	A	B	C	D	E
181	128	120	31	6	1

カ. 優良海洋センターの表彰（特A・A）

平成24年度の年間評価（H25年4月度評価）において、A評価以上の優良海洋センター309センターを「第6回B&G全国サミット」で表彰した。

ブロック名	表彰海洋センター名	
	特A	A
北海道 30センター	砂川市・小平町・厚岸町・せたな町・剣淵町・大樹町・鷹栖町・斜里町・愛別町・大空町東藻琴・下川町・名寄市風連・積丹町・美幌町・大空町女満別・石狩市・浦臼町・沼田町・苫前町・滝川市・古平町	遠別町・新篠津村・北竜町・枝幸町歌登・東神楽町・名寄市名寄・和寒町・芦別市・室蘭市
東北 38センター	青森県：弘前市・平川市尾上・南部町名川・六戸町 岩手県：久慈市山形・一関市東山・岩泉町・大船渡市三陸・普代村・奥州市前沢 宮城県：亘理町・川崎町・大郷町・蔵王町 秋田県：能代市・男鹿市・由利本荘市由利・にかほ市象潟 山形県：舟形町・酒田市平田 福島県：小野町	青森県：鶴田町・中泊町中里・弘前市岩木 岩手県：八幡平市松尾・一関市藤沢 宮城県：登米市中田・涌谷町・登米市米山・栗原市築館・仙台市泉・登米市迫 秋田県：湯上市天王・大仙市神岡・大湯村 福島県：柳津町・本宮市白沢・田村市滝根
関東 31センター	茨城県：北茨城市・行方市玉造・石岡市・五霞町・常陸太田市水府 栃木県：下野市国分寺・那須烏山市南那須・芳賀町 群馬県：明和町・玉村町 埼玉県：吉見町・久喜市栗橋・松伏町・白岡市 千葉県：横芝光町横芝・香取市小見川・大多喜町・南房総市千倉・鋸南町・横芝光町光	茨城県：かすみがうら市千代田・小美玉市小川 栃木県：鹿沼市粟野・那須塩原市塩原 埼玉県：鶴ヶ島市・嵐山町 千葉県：いすみ市岬・香取市栗源・長南町・成田市大栄・香取市山田
北陸 25センター	新潟県：胎内市中条・佐渡市小木・燕市・阿賀野市安田・佐渡市羽茂 富山県：砺波市・南砺市福野・高岡市福岡 石川県：穴水町・七尾市・志賀町富来・白山市鶴来 福井県：あわら市金津・大野市	新潟県：阿賀町三川・阿賀町津川・長岡市和島・上越市頸城・糸魚川市能生 富山県：上市町・富山市八尾 福井県：高浜町・勝山市・若狭町三方・美浜町

ブロック名	表彰海洋センター名	
	特A	A
中部 54センター	山梨県：山梨市牧丘・南アルプス市白根・甲斐市敷島・甲斐市双葉・甲州市塩山 長野県：大町市・白馬村・飯綱町三水・松本市波田 岐阜県：可児市・川辺町・八百津町・恵那市山岡・御嵩町・富加町・中津川市加子母・中津川市付知 静岡県：掛川市大東・掛川市・川根本町本川根・牧之原市相良・掛川市大須賀・袋井市袋井 愛知県：新城市作手・東栄町・西尾市一色・豊川市小坂井 三重県：いなべ市大安・桑名市長島・菰野町・熊野市紀和・伊賀市大山田・亀山市関	山梨県：中央市玉穂 長野県：下條村・飯綱町牟礼・飯島町・山形村 岐阜県：恵那市明智・高山市国府・中津川市福岡・高山市清見 静岡県：磐田市竜洋・松崎町・御前崎市・浜松市三ヶ日・浜松市天竜 愛知県：清須市春日 三重県：大台町・伊勢市御園・松阪市飯高・志摩市志摩・伊賀市阿山・志摩市浜島
近畿 27センター	滋賀県：野洲市中主・米原市山東・米原市伊吹・高島市今津・甲賀市甲賀 大阪府：堺市美原・千早赤阪村 兵庫県：南あわじ市南淡・養父市おおや・上郡町・香美町香住・姫路市家島・芦屋市・猪名川町 和歌山県：串本町	滋賀県：日野町・高島市高島・長浜市浅井 京都府：南丹市八木・京丹波町和知 兵庫県：新温泉町浜坂・豊岡市出石・市川町・豊岡市竹野・宍粟市波賀 奈良県：曽爾村 和歌山県：広川町
中国 36センター	鳥取県：鳥取市・北栄町北条・伯耆町岸本 島根県：松江市松江・江津市桜江・浜田市三隅・雲南市加茂 岡山県：備前市吉永・井原市美星・津山市加茂・井原市井原・奈義町・瀬戸内市長船・瀬戸内市邑久・矢掛町・鏡野町・赤磐市吉井 広島県：府中市・東広島市黒瀬・北広島町芸北・東広島市安芸津 山口県：周防大島町・岩国市美和	鳥取県：鳥取市佐治・倉吉市関金・鳥取市気高 島根県：美郷町邑智 岡山県：岡山市建部・真庭市蒜山・笠岡市・新見市哲多・浅口市寄島・浅口市鴨方・和気町佐伯・新見市大佐 広島県：呉市蒲刈
四国 23センター	徳島県：徳島市・牟岐町・美波町由岐・那賀町鷺敷 香川県：小豆島町内海 愛媛県：久万高原町久万・松山市中島・愛南町御荘 高知県：津野町東津野・香美市香北・四万十町窪川	徳島県：阿南市・東みよし町三加茂・海陽町海南 香川県：さぬき市寒川・三豊市高瀬・高松市国分寺・三豊市財田・三木町 愛媛県：今治市古海・今治市大三島・鬼北町広見・今治市朝倉
北九州 23センター	福岡県：久留米市三瀬・みやま市瀬高・朝倉市甘木 佐賀県：神埼市・江北町 長崎県：佐世保市小佐々・五島市岐宿・時津町 大分県：杵築市・中津市耶馬溪	福岡県：みやこ町犀川・築上町築城・川崎町・福岡町金田・築上町椎田 佐賀県：太良町・鹿島市 長崎県：南島原市加津佐・平戸市生月 大分県：日田市大山・由布市湯布院・宇佐市安心院・玖珠町
南九州 22センター	熊本県：長洲町・津奈木町・湯前町・宇城市三角 鹿児島県：いちき串木野市・長島町・阿久根市・さつま町・日置市東市来・天城町・与論町 沖縄県：伊江村・名護市	熊本県：美里町砥用・熊本市城南 鹿児島県：霧島市牧園・鹿屋市串良・湧水町栗野・志布志市有明・南さつま市坊津・奄美市笠利 沖縄県：本部町

キ. 海洋センター運営等に係る協議

海洋センター評価に基づき、2年連続でC評価以下となった海洋センターに対し、自治体執行部（首長・副首長等）と財団役員による海洋センターの運営や存続等に関する協議・指導を行った。

(2) 「東日本大震災」施設復旧に対する災害復旧修繕及び舟艇配備 (日本財団助成事業)

東日本大震災で被災した岩手県洋野町種市B&G海洋センターの艇庫に対し、災害復旧修繕として1,000万円を助成するとともに、海洋性レクリエーション活動の再開に必要な舟艇器材等400万円相当を配備した。

災害復旧修繕 対象施設	助成および配備内容
洋野町種市B&G海洋センター 艇庫	艇庫再建費用 10,000,000円
	救助艇1艇、船外機1台、カヌー12艇、ヨット4艇 ローボート3艇、ライフジャケット70着 可動式ラック3台、水上遊具2式 ほか

(3) 海洋クラブ登録等 (日本財団助成事業)

ア. 海洋クラブの登録及び活動促進

(ア) 海洋クラブの登録

新たに神奈川県藤沢市の慶應大学医学部のヨット部を「B&G海洋クラブ」として登録した。
※新規海洋クラブの詳細は83頁

登録No	名 称	登録日	クラブ員数
1353	B&G慶應医学部ヨット部海洋クラブ (神奈川県藤沢市)	平成25年6月18日(火)	33人

(イ) 海洋センターへの海洋クラブ設立支援

B&G海洋クラブの設立を希望する三重県亀山市関B&G海洋センターに対し、試験的な活動ができる“おためし海洋クラブ”の設置を行った。

イ. 海洋クラブの評価

海洋クラブの管理・運営面での現状を把握し、今後の活動の活性化に役立てるとともに、財団が行う公正な支援活動の“指標”として、統一された評価基準による海洋クラブの評価を行った。
平成24年度（H24年4月～H25年3月）の活動実績を基に「平成25年度 海洋クラブ評価」をまとめ公表した。

なお、平成26年度「海洋クラブ評価」（H25年度実績）の詳細は80頁に記載。

平成25年度 B&G海洋クラブ評価 地区別一覧（平成24年度活動実績）

評価	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州
特A (29)	新冠 瀬棚 鷹栖	平田 舟形	江の島 葉山 香取市小見川	ななお 砺波 あわら	なごや	伊丹 和歌浦 兵庫ジュニア	瀬戸内 浅口(寄島) 奈義 松江	池田 高松 松山 御荘	福岡Jr 別府 津屋崎 神埼	宮崎シーライオン 津奈木
A (39)	滝川 小平 美幌	弘前 尾上 塙 小野 能代		かけはし(小松) 富来 上市	飯網 やまなし 竜洋 小島(狐野)	家島 今津	建部 美星 吉永 三隅 矢掛 大島 桜江 邑智	内海 中島 大三島	虹の松原 湯布院 時津 徳波 豊津	鹿屋 川内 湯前 志布志(有明) 伊江 蔵之元(長島)

評価	北海道	東北	関東	北陸	中部	近畿	中国	四国	北九州	南九州
B (108)	熊石 小樽 女満別 大樹 古平 剣淵 芦別 愛別 新篠津 積丹 室蘭 砂川	東北 鶴田 米山 中新田 亘理 中田 大内 天王	山北 がすみがうら 玉造 南那須 幸手 千倉 横芝光 茨城八千代	新潟 金沢 松任はまなす たいない 能生 ワシマ 佐渡(小木) 福野 三方 勝山 若狭美浜	黄金崎 旭 大町 川辺 八百津 相良 作手 松崎 掛川 大安 春日 御園	あいおい サントピア 中主 浅井 香住 八木 美原 上郡 山添	鳥取 加茂(津山) 島根平田 白石島(笠岡) 美作(作東) 井原 北房 八千代 黒瀬 大佐 坂	YASU 土庄 吉海 三木 津田 那賀町(驚敷) 香川国分寺 寒川 由岐 高瀬 広見	ハウステンボス 犀川 太良 佐世保 大山 直入 甘木 真玉 生月 加津佐 天瀬 浜 杵築	根占 南関 岱明 砥用 佐多 宇土三角 与論 串良 勝連 本部 新和 浜渡(長島) 南郷
C (30)	有珠(伊達)	大蔵 市浦 迫 雄和 田瀬湖(東和) 八郎潟	吉井 栗橋 長南	大崎 三川 頸城 穴水	清水三保 飯島 河津 芝川 大山田	高島 和知 竹野	福山 琴ヶ浜 佐伯 向島		みやま 国見 福智(金田) 鯛生金山	
D (5)		岩崎	三宅島			やしろ		ゆげ		西方
休部 E (40)	風連	山形 森古 金浦 西目	岡部 玉里 鶴ヶ島 岩間	津川	熱海 御前崎 阿山 岐阜福岡 浜島	神崎 浜坂	宇部 江津 西ノ島 瀬戸田 蒜山 日置	那賀川	鹿町 塩田 大野川 勝本 鶴見 上浦 浦江 弥生 武蔵	与那国 坊津 知覧 伊良部 天城 泗水 薩摩
(251)	(20)	(26)	(19)	(22)	(27)	(20)	(33)	(20)	(35)	(29)

ウ. 海洋クラブの現況調査

優良海洋クラブ、新規登録した海洋クラブの活動状況確認および登録に向けた現地調査を実施するとともに、活動が不振な海洋クラブに対して、運営上の問題点等の確認や運営継続に関する協議・改善指導を行った。

No	クラブ名（道府県・市町村）	調査日	調査目的
1	慶應医学部ヨット部 （神奈川県藤沢市）	6月6日(木)	H25新規海洋クラブの登録調査
2	山 北 （神奈川県山北町）	7月15日(祝)	丹沢湖カヌーマラソン大会視察に併せた活動低迷海洋クラブの現況調査
3	恵 那 （岐阜県恵那市）	8月9日(金)～10日(土)	舟艇器材器材配備式と併せたH24新規海洋クラブの現況調査
4	新居浜 （愛媛県新居浜市）	8月30日(金)～31日(土)	舟艇器材器材配備式と併せたH24新規海洋クラブの現況調査
5	なごや （愛知県名古屋市）	11月4日(祝)～5日(火)	OP全日本選手権閉会式出席に併せた優良海洋クラブの現況調査
6	宮崎シーライオン （宮城県宮崎市）	11月16日(土)～17日(日)	特色のある事業視察に併せた優良海洋クラブの現況調査
7	南アルプス白根 ※H26予定 （山梨県南アルプス市）	12月4日(水)～5日(木)	調査研究事業の実施に併せたH26新規登録予定海洋クラブの視察
8	御 蘭 （三重県伊勢市）	H26年1月24日(金)	おためし海洋クラブ登録調査(亀山市)に併せた活動低迷海洋クラブ現況調査
9	亀 山 （三重県亀山市）	H26年1月25日(土)	おためし海洋クラブの登録調査
10	栗 橋 （埼玉県久喜市）	H26年2月7日(金)	活動低迷海洋クラブの現況調査
11	幸 手 （埼玉県幸手市）	H26年2月7日(金)	活動低迷海洋クラブの現況調査



B&G恵那海洋クラブ
カヌー体験会視察



B&G宮崎シーライオン海洋クラブ
カヌーアスロン大会視察



B&G栗橋海洋クラブ
活動水面の確認

(4) その他支援

ア. マリンスポーツ技能認定

海洋センター利用者および海洋クラブ員に対しカヌー、ヨット、水泳の技術を認定する技能認定テストを海洋センター・海洋クラブに委託して実施した。

平成25年度は、全国24ヵ所の海洋センター・海洋クラブで実施され、3,148人の技能認定書が交付された。

技能認定種類	概 要
カヌー	技術レベルに応じて1級から5級を認定
OPヨット	
水 泳	〃 〃 1級から10級を認定
総 合	全種目の総合的な技術レベルとして1級から5級を認定



イ. 会長賞・賞状等の交付

海洋センター・海洋クラブが開催する「B&G財団会長賞」（大会）、ブロックおよび道府県連絡協議会で開催する「マリンスポーツ大会」に賞状を交付した。

H25年度 交付数

種 別	交付対象事業数	交付数（賞状）
B&G財団会長賞	84海洋センター 140事業	2,124枚
マリンスポーツ大会	21道府県および2ブロック連絡協議会23事業	2,538枚



B&Gスポーツ大会島根県大会



秋田県能代市B&G海洋センター

指導者の養成に関する事業

青少年の健全育成をはじめ、幼児から高齢者まで、地域住民の健康づくりを推進するには優れた指導員が不可欠である。B&G財団では、積極的に海洋性レクリエーション指導員の養成に取り組むとともに、これまでに養成した指導員の貴重な人的資源を有効に活用するため、ボランティアによる指導者組織「B&G地域指導者会」を海洋センターに設置し、活動を促進している。

1. 海洋性レクリエーション指導員の養成と活用(日本財団助成事業)

(1) アドバンスト・インストラクター養成

主として、海洋性レクリエーションの実践活動に携わり、海洋教育および海洋性レクリエーションの普及に努める指導員を養成した。これまでの養成者総数は2,089人。

期 間：平成25年5月30日(木)～7月3日(水) 35日間

場 所：沖縄県 本部町B&G海洋センター（マリニピアザ オキナワ）

対 象：地方自治体または財団が認める団体等から推薦された20歳以上の者

人 数：35人（35海洋センター）

内 容：海洋性レクリエーション活動に係わる総合的な知識・技能および安全管理を中心とした研修。

B&G財団概要、指導員概要、海洋性レクリエーション理論・実技・実習、水泳実技、運動生理学、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等



規律正しい合宿研修で心身を練磨



海洋性レクリエーションを代表する“ヨット”と“カヌー”の基本を学ぶ



安全講習（CPR講習）



着衣泳講習



環境学習



新たに誕生した35人の アドバンスト・インストラクター

主な講師

《実技》

(敬称略)

講師名	所 属・役 職	科 目
小松 一憲	B&G財団 テクニカルアドバイザー	ヨット学科・実技
濱本 徹夫	大分県B&G別府海洋クラブ 代表	ヨット学科・実技
谷川 真理	(株)アチーブメント、マラソンランナー、 流通経済大学客員教授	ウォーキング・ジョギング
中村 真衣 木尾 克己	(株)JSS スイミングアドバイザー (株)JSS ゼネラルアドバイザー	水泳理論・実技

《講義》

(敬称略)

講師名	所 属・役 職	科 目
水越 祐一	NPO法人気象キャスターネットワーク 気象予報士	気象・海象
椿本 昇三	筑波大学 教授	着衣泳
柳 敏晴	神戸常盤大学 教授	海洋性レクリエーション総論
小峯 力	中央大学 教授 NPO法人日本ライフセービング協会 理事長	海洋性レクリエーション活動と安全
海野 義明	NPO法人オーシャンファミリー 代表理事 神奈川県B&G葉山海洋クラブ 代表	海洋教育と海洋環境

《講習》

(敬称略)

講師名	所 属・役 職	科 目
古瀬 浩史	(株)自然教育研究センター 取締役	インタープリテーション
中村 淳美 渡辺 未知	(株)自然教育研究センター	
上野 真宏 尾辻 章 兵後 有亮 横倉 厚 篠崎 充洋	NPO法人日本ライフセービング協会 公認インストラクター	心肺蘇生法（CPR）講習会 （日本ライフセービング協会認定）

《講話》

(敬称略)

氏 名	所 属・役 職	科 目
工藤 祐直	B&G全国指導者会 会長 青森県南部町 町長	町長講話「指導者の重要性」

《修了記念講話特別講師》

(敬称略)

氏 名	所 属・役 職	科 目
善岡 雅文	北海道砂川市 市長	アドバンスト・インストラクター養成研修 修了記念講話

《指導者会講話》

(敬称略)

氏 名	所 属・役 職	科 目
川島 正光	B&G全国指導者会 副会長 埼玉県久喜市	アドバンスト・インストラクター養成研修 指導者会講話

講師名	所 属・役 職	科 目
荻野 治美	福島県 小野町海洋センター (アドバンスト/アクア・インストラクター)	先輩指導者講話、マリン実技
濱岡 邦之	愛媛県 愛南町御荘海洋センター (アドバンスト・インストラクター)	カヌー実技
中村 大悟	大分県 中津市耶馬溪海洋センター (アクア・インストラクター)	水泳実技、転プロ実技
古崎 敏雄	山口県 周防大島町海洋センター (アドバンスト/アクア・インストラクター)	カヌー実技

(2) アクア・インストラクター養成

主として、プールの運営・実践活動に携わり、海洋性レクリエーションの普及に努める指導員を養成した。これまでの養成者総数は1,414人。

期 間：平成25年5月30日(木)～6月21日(金) 23日間

場 所：沖縄県 本部町B&G海洋センター (マリニピアザ オキナワ)

対 象：地方自治体または財団が認める団体等から推薦された20歳以上の者

人 数：43人 (40海洋センター)

内 容：海洋性レクリエーション活動の基礎となる水泳の知識・技能および安全管理を中心とした研修。B&G財団概要、指導員概要、水泳理論・実技・実習、海洋性レクリエーション理論・実技、運動生理学、安全管理、海洋センター管理・運営、健康増進プログラム、環境教育、心肺蘇生法等



水泳の基礎を習得



幼児のアクアリズム運動プログラム実習



「着衣泳」の講義と実技



中村氏による直接指導



プールでカヌー体験



CPR講習



新たに誕生した43人の アクア・インストラクター

主な講師

《実技》

(敬称略)

講師名	所 属・役 職	科 目
谷川 真理	(株)アチーブメント、マラソンランナー、 流通経済大学客員教授	ウォーキング・ジョギング
中村 真衣 木尾 克己	(株)JSS スイミングアドバイザー (株)JSS ゼネラルアドバイザー	水泳理論・実技

《講義》

(敬称略)

講師名	所 属・役 職	科 目
水越 祐一	NPO法人気象キャスターネットワーク 気象予報士	気象・海象
椿本 昇三	筑波大学 教授	着衣泳
柳 敏晴	神戸常盤大学 教授	海洋性レクリエーション総論
小峯 力	中央大学 教授 NPO法人日本ライフセービング協会 理事長	海洋性レクリエーション活動と安全
海野 義明	NPO法人オーシャンファミリー 代表理事 神奈川県B&G葉山海洋クラブ 代表	海洋教育と海洋環境

《講習》

(敬称略)

講師名	所 属・役 職	科 目
古瀬 浩史	(株)自然教育研究センター 取締役	インタープリテーション
中村 淳美 渡辺 未知	(株)自然教育研究センター	
上野 真宏 尾辻 章 兵後 有亮 横倉 厚 篠崎 充洋	NPO法人日本ライフセービング協会 公認インストラクター	心肺蘇生法(CPR)講習会 (日本ライフセービング協会認定)

《講話》

(敬称略)

氏 名	所 属・役 職	科 目
工藤 祐直	B&G全国指導者会 会長 青森県南部町 町長	町長講話「指導者の重要性」

《修了記念講話特別講師》

(敬称略)

氏 名	所 属・役 職	科 目
佐藤 光宏	岐阜県川辺町 町長	アクア・インストラクター養成研修 修了記念講話

《指導者会講話》

(敬称略)

氏 名	所 属・役 職	科 目
金久 博	B&G全国指導者会 副会長 徳島県阿南市	アクア・インストラクター養成研修 指導者会講話

《サポートスタッフ》

(敬称略)

氏 名	所 属・役 職	科 目
谷場 宣彦	石川県 志賀町富来海洋センター (アクア・インストラクター)	水泳実技
藤田 昌伸	高知県 四万十町窪川海洋センター (アドバンスト/アクア・インストラクター)	水泳実技
竹内 浩子	高知県 四万十町窪川海洋センター (アクア・インストラクター)	幼児アクアリズム
小森田 弘憲	鹿児島県 日置市東市来海洋センター (アクア・インストラクター)	水泳実技

充実した講師陣 アドバンスト／アクア・インストラクター養成研修



気象・海象

NPO法人気象キャスターネットワーク
気象予報士

水越 祐一 氏



ライフセービング

NPO法人
日本ライフセービング協会 理事長
中央大学 教授
B&G財団評議員

小峯 力 氏



ウォーキング実技

マラソンランナー
流通経済大学 客員教授
B&G財団評議員

谷川 真理 氏



水泳実技

シドニー五輪 女子100m
背泳ぎ銀メダリスト

中村 真衣 氏



ヨット実技

ロンドン五輪 ヨット日本代表コーチ
B&G財団テクニカルアドバイザー

小松 一憲 氏

修了記念講話特別講師



アドバンスト・インストラクター養成研修
北海道砂川市
善岡 雅文 市長



アクア・インストラクター養成研修
岐阜県川辺町
佐藤 光宏 町長

(3) リーダーおよびジュニアリーダー養成委託

アドバンスト／アクア・インストラクターの実技指導等を補佐するボランティア指導者として、リーダーおよびジュニアリーダーの養成を海洋センター等へ委託するとともに、同資格失効者の再登録研修を委託実施した。これまでの養成者総数は13,859人。

期 間：3～4日間（28時間）（随時）

場 所：全国の海洋センター・海洋クラブ

対 象：海洋センター・海洋クラブ等において、海洋性レクリエーションまたは水泳指導に携わる者（リーダーは20歳以上、ジュニアリーダーは13歳以上20歳未満）

人 数：新規養成201人、内ジュニアリーダー15人（33海洋センター、7連絡協議会、1クラブ）
再登録4人（3海洋センター）

内 容：海洋性レクリエーションまたは水泳の基礎的な理論および実技・安全管理等

開催件数および参加者数：

項 目	開催件数		参加者数
リーダー・アクアリーダー 及びジュニアリーダー研修	道府県連絡協議会	7件	201人
	海洋センター	33件	
項 目	開催件数		参加者数
リーダー及びインストラクター 再登録研修	海洋センター	3件	4人

B&G指導者資格の概要と養成人数

資格名	研修期間	対象者	養成人数
アドバンスト・インストラクター	約35日間	地方公共団体または財団が認める団体の推薦があった20歳以上	2,089人
アクア・インストラクター	約23日間		1,414人
インストラクター	約10日間	20歳以上	729人
リーダー、アクアリーダー	28時間		13,859人
ジュニアリーダー	28時間	13歳以上20歳未満	
合 計			18,091人

2. 指導員の資質向上（日本財団助成事業）

B&G指導員の資質向上のため、海洋性レクリエーションに関する事業プログラムや安全管理等の最新の知識・情報等を提供する研修会を実施し、指導員の資質向上を図ると共に指導員のネットワークづくりを推進する。

（1）指導員研修会

新しいプログラムや情報の提供、安全管理等を中心とした研修会を開催するとともに、全国の指導者の相互交流、情報交換を行った。

期 日：平成26年1月23日(木)～24日(金)
場 所：日本財団ビル2階会議室
対 象：指導員資格登録者、資格失効者および
海洋センター担当者
人 数：174人（160センター・2クラブ）
講 師：



（敬称略）

講 師 名	内 容
北田 典子（公財）全日本柔道連盟 理事	基調講演「柔道と人間教育」
野口 智博 日本大学文理学部体育学科 教授	講義「水泳の安全指導」
千足 耕一 東京海洋大学海洋学部 准教授	講義「海洋性レクリエーションの教育効果」
森川 貞夫 市民スポーツ&文化研究所 代表	講義「スポーツ事故におけるリスクマネジメント」



北田 典子 氏



野口 智弘 氏



千足 耕一 氏



森川 貞夫 氏

事例紹介

「施設の維持管理」



山梨県南アルプス市白根
橋本 篤幸 氏

「海洋センターの運営と集客」



愛媛県愛南町御荘
濱岡 邦之 氏

「海洋クラブの運営」



長崎県平戸市生月
村川 安亨 氏

(2) レベルアップ研修会

B&G指導員等を対象に、指導員の指導技術の向上と新しいプログラムや情報の提供、安全管理等を中心とした各種プログラムの実技を主体とした研修会を行った。

ア. 幼児運動プログラム

期 日：平成26年2月20日(木)～21日(金)
場 所：東京都 日本財団ビルほか
対 象：B&G指導員およびセンター担当者
人 数：アクア、フロア合計43人
講 師：今野純氏（アクアダイナミクス 代表）
柊澤弘樹氏（運動保育士会 代表）
遠藤智弘氏（深川VIP体操クラブ 代表）
藤井初美氏（深川VIP体操クラブ）



イ. 転倒・寝たきり予防プログラム

期 日：平成26年3月4日(火)～5日(水)
場 所：東京都 日本財団ビル
対 象：B&G指導員およびセンター担当者
人 数：46人
講 師：岡田真平氏（身体教育医学研究所所長）
高橋紀子氏（ルナ・イ・ソル代表）
横田くる美氏（フリーランスヨガインストラクター）



ウ. カヌー

期 日：平成25年9月29日(日)～30日(月)
場 所：宮崎県B&G宮崎シーライオン海洋クラブ
対 象：B&G指導員およびセンター担当者
人 数：21人
講 師：持田 雅誠（財団職員・人材バンク特別講師）



エ. 水 泳

期 日：平成25年10月7日(月)～8日(火)
場 所：静岡県浜松市天竜B&G海洋センター
対 象：B&G指導員およびセンター担当者
人 数：18人
講 師：野口 智博氏（日本大学文理学部教授
B&G人材バンク特別講師）



オ. ヨット

期 日：平成25年11月5日(火)～6日(水)
場 所：岡山県瀬戸内市邑久B&G海洋センター・海洋クラブ
対 象：アドバンスト・インストラクターほか
人 数：17人
講 師：小松 一憲氏（ロンドン五輪ヨット日本代表
コーチ・B&G財団テクニカルアドバイザー）



3. B&G指導者会の登録および活動促進（日本財団助成事業）

ブロックおよび道府県連絡協議会、海洋センター・海洋クラブの活動の活性化を図るため、「B&G海洋性レクリエーション指導員」を中心とするボランティア組織「B&G指導者会」の組織化を推進するとともに、平成21年度に設立した「B&G全国指導者会」の各ブロック責任者を対象とする会議を開催し、指導者会活動の強化を図った。

(1) 地域指導者会の登録推進

平成25年度に新たに38海洋センターを登録し、地域指導者会の設置総数は392ヵ所（全センターの約83%）となった。

H26. 3. 31現在

NO	県名	センター名	NO	県名	センター名
1	北海道	秩父別町	20	広島	安芸高田市高宮
2		長万部町	21	岡山	新見市哲多
3		岩見沢市栗沢	22		新見市大佐
4	青森	十和田市	23	山口	萩市むつみ
5	秋田	大潟村	24	福岡	柳川市大和
6		大仙市神岡	25		大任町
7	岩手	一関市藤沢	26	佐賀	神崎市
8		軽米町	27	長崎	壱岐市勝本
9	茨城	かすがうら市千代田	28	大分	佐伯市鶴見
10	新潟	阿賀町三川	29		佐伯市弥生
11		阿賀町上川	30		佐伯市宇目
12		阿賀町津川	31		佐伯市直川
13	福井	坂井市春江	32		佐伯市上浦
14		坂井市丸岡	33		佐伯市蒲江
15	長野	中野市豊田	34		玖珠町
16	富山	富山市大山	35		宇佐市安心院
17	三重	伊賀市阿山	36		由布市湯布院
18	兵庫	姫路市安富	37		由布市挾間
19	広島	坂町	38	宮崎	宮崎市田野

☆☆☆ 道府県別「B&G指導者会」登録数 ☆☆☆

H26. 3. 31現在

ブロック	道府県名	センター数	登録数	登録率	未登録数	ブロック	道府県名	センター数	登録数	登録率	未登録数
北海道	北海道	36	34	94%	2	近畿	京都府	6	5	83%	1
東北	青森県	12	12	100%	0		大阪府	3	3	100%	0
	岩手県	16	14	88%	2		兵庫県	19	14	74%	5
	宮城県	14	11	79%	3		奈良県	2	2	100%	0
	秋田県	16	12	75%	4		和歌山県	4	2	50%	2
	山形県	2	2	100%	0	中国	鳥取県	7	7	100%	0
関東	福島県	7	5	71%	2		島根県	8	8	100%	0
	茨城県	10	10	100%	0		岡山県	20	20	100%	0
	栃木県	6	3	50%	3		広島県	14	12	86%	2
	群馬県	4	3	75%	1		山口県	5	5	100%	0
	埼玉県	9	6	67%	3	四国	徳島県	8	8	100%	0
	千葉県	12	11	92%	1		香川県	8	8	100%	0
北陸	新潟県	17	15	88%	2		愛媛県	8	8	100%	0
	富山県	7	5	71%	2		高知県	4	4	100%	0
	石川県	4	4	100%	0	北九州	福岡県	16	14	88%	2
	福井県	12	7	58%	5		佐賀県	5	4	80%	1
中部	山梨県	10	8	80%	2		長崎県	8	7	88%	1
	長野県	19	11	58%	8	南九州	大分県	19	15	79%	4
	岐阜県	12	12	100%	0		熊本県	13	10	77%	3
	静岡県	15	10	67%	5		宮崎県	2	1	50%	1
	愛知県	5	5	100%	0		鹿児島県	18	14	78%	4
	三重県	13	13	100%	0		沖縄県	6	2	33%	4
近畿	滋賀県	11	6	55%	5	合 計		472	392	83%	80

(2) 第4回「B&G全国指導者会」ブロック責任者会議

B&G全国指導者会の正副会長と全国10ブロックの責任者を対象に会議を開催した。

会議では、指導者会の運営・活動状況や問題点、次年度事業計画、指導者会設置100%に向けた各ブロックの取り組み、広報展開や今後への展望など、活発な意見が交わされた。



期 日	平成25年10月10日(木)～11日(金)
場 所	B&G 財団会議室（東京都港区）
内 容	【1日目】 1.平成24年度事業報告、決算 2.全国指導者会規則改正 3.平成25年度事業計画・予算 4.全国指導者会の事業推進 【2日目】 1.第2回全国指導者会 総会について 2.今後3ヵ年の活動基本方針について 3.正副会長・ブロック責任者の選任 4.「かわら版」の作成
参加者	全国指導者会 正副会長3人、 ブロック責任者10人 合計13人

ブロック責任者 (敬称略)

ブロック名	責任者
北海道	丹場 康雄（北海道積丹町）
東北	千葉 桂志（宮城県登米市）
関東	白戸 重行（茨城県石岡市）
北陸	多田 朗（石川県七尾市）
中部	赤塚 誠（岐阜県八百津町）
近畿	種継 武（兵庫県上郡町）
中国	古崎 敏雄（山口県周防大島町）
四国	藤原 元久（愛媛県今治市）
北九州	古賀 博隆（福岡県朝倉市）
南九州	柳田 孝志（鹿児島県与論町）

(3) 「B&G全国指導者会」正副会長会議

平成25年度は、「B&G全国指導者会」の正副会長による会議を3回開催し、当該年度実績報告および次年度の活動計画・予算、設置状況の意見交換等を行った。

	開催日・開催場所	議題・審議事項等
第1回	平成25年4月26日(金)～27日(土) (青森県南部町)	➤H25年度 事業計画・予算計画について ➤本会の3年間の活動方針・活動目標について ➤財団重点事業と連携・協働について他
第2回	平成25年10月9日(水)～10日(木) (B&G財団会議室)	➤H24年度事業報告・決算及びH25年度事業計画・予算の確認について ➤本会事業推進に係る方策、指導者会設立の動向、今後のかわら版製作、広報委員会の開催について他
第3回	平成26年2月12日(水)～13日(木) (B&G財団会議室)	➤H25年度事業報告、決算及びH26年度事業計画・予算の確認について ➤指導者会啓発冊子の内容、指導者会会長賞、B&Gコンパスの活用他



B&G全国指導者会 会長
青森県南部町
工藤 祐直 町長



B&G全国指導者会 副会長
埼玉県久喜市
川島 正光 氏



徳島県阿南市
金久 博 氏



(4) 周知活動

B&G全国指導者会「かわら版」発行

平成23年度から、全国指導者会の情報紙として「かわら版」を発行。地域の活動や情報などを発信している。



「B&G全国指導者会」ポスター
活動方針・活動目標 (H25年～H27年)

4. 最新技能・知識の調査研究（日本財団助成事業）

海洋性レクリエーションを主とした各種プログラムに関わる最新技能・知識の調査研究を行った。

（1）ボランティア指導員の増員を図るための先進事例の調査

ア. YMCA阿南国際海洋センター視察

期 日：平成25年8月19日(月)～21日(水)
場 所：徳島県阿南市
内 容：ユースボランティアリーダーの研修プログラムの視察、YMCAキャンププログラムの指導法、器材、教材、安全管理等
視察者：坂倉 一寿・山口 雄介（B&G財団職員）



イ. BSCウォータースポーツセンター

期 日：平成25年11月6日(水)～8日(金)
場 所：滋賀県大津市 BSCウォータースポーツセンター
内 容：国際セイリング公認スクールのプログラムと指導法の体験
視察者：細井 正幸・中島 博臣・木村 康幸（B&G財団職員）



（2）「指導者用教本」の作成

専門指導者の協力のもと、最新の技術や指導法を盛り込んだOP級ヨット・水泳の指導用教本を作成した。今後、指導者養成研修での活用ほか、海洋センター・海洋クラブ指導員に周知し、海洋性レクリエーションの普及に努める。

ア. OP級ヨット指導教本

内 容：初心者が安全にOPヨットを操船できる5回コースのプログラム
協 力：大分県B&G別府海洋クラブ 代表 濱本 徹夫 氏



イ. 水泳指導教本

内 容：育成・選手コース指導教本（中・上級者向け）
協 力：（株）ルネサンス スイミング シニアエグゼクティブ アドバイザー 木尾 克己 氏



ネットワーク構築と調査研究事業

少子・高齢化をはじめ経済・行政・教育・情報など、地域社会を取り巻く環境は目まぐるしく変化している。B&G財団は、常に世の中の変化に対応し、多様化する地域住民や自治体のニーズに合った事業の推進に努めている。全国にはりめぐらされた“ネットワーク”を通じてノウハウを共有するとともに、自治体の首長や教育長を対象とする「B&G全国サミット」などの全国会議を開催し、地域の要望を事業に反映した公益性の高い事業を提供している。また、「B&Gプラン」の推進に係る様々な情報をインターネットを通じて広く社会に発信している。

1. ネットワーク構築

(1) 情報ネットワークに係る活動

ア. 情報ネットワークの強化

(ア) 情報ネットワークシステムの安定運用

全国の海洋センター・海洋クラブ、海洋センター所在自治体等との連携強化と財団事業の効果的な展開を図るため、内部ネットワークの安定した運用に努めた。

(イ) インターネットを利用した大会の提供

主に海洋センター利用者を対象に、日々の練習や活動の成果を競う場として、インターネットを活用した大会を開催した。なお、大会参加者数の増加を図るため、夏の期間に「サマーチャレンジ」賞を設定し開催した。

大会等名称	申請件数
インターネット水泳記録会	9,542件
ウォーターマラソン（サマーチャレンジ）	6,180件（1,039件）

(ウ) 業務用パソコンの更新

業務用パソコンの基幹システムがセキュリティサポートの期限を迎えることから、安全性を保つため機器及びソフトウェアを更新した。

イ. 海洋センターとの情報共有の推進を図るネットワーク構築（日本財団助成事業）

財団事業を効率的、効果的に全国に普及・展開するため、全国の海洋センター・海洋クラブ、指導者と情報・ノウハウを共有する情報ネットワークシステム「B&Gコンパス」の再開発を行った。

主な機能

- メッセージ機能
- 海洋センター・海洋クラブ・市町村データベース機能
- インフォメーション機能
- 利用者人数集計機能
- 指導者情報機能
- ダウンロード集管理機能
- 活動情報機能
- メールマガジン機能
- アンケート機能



(2) 人的ネットワークを推進する会議等の実施（日本財団助成事業）

ア. 第6回「B&G全国サミット」の開催

体験活動で健やかな子供の成長を ～B&Gネットワークの活動事例から～
360自治体から213人の首長をはじめ副首長・教育長など760人が出席

B&G全国サミットは、全国の海洋センター所在自治体の首長と教育長を対象に開催するもので、当財団と自治体、自治体間相互の情報を共有しながら連携を強化し、一丸となって地域住民の「スポーツ・健康・人づくり」を推進することを目的として開催している。

6回目となる今回は「体験活動で健やかな子供の成長を～B&Gネットワークの活動事例から～」をテーマに開催し、全390市町村の92%にあたる、360自治体から213人の首長をはじめ副首長や教育長など660人が出席（前回比114%）。来賓やボートレース関係者、マスコミ関係者を含め、合計760人が来場した。

当日は、日本財団 笹川 陽平 会長による特別基調講演をはじめ、各地で取り組まれている子供たちの様々な体験活動について事例発表いただくとともに、B&G財団の事業計画を発表し、最後に、「環境・防災・水辺の安全教育の推進」を盛り込んだ新たな共同宣言が採択された。

また、会議終了後には“優良海洋センターの表彰”や“2013広報大賞の表彰”などが行われた。



主催者挨拶

「B&G財団は設立40周年を迎え
新たな一歩を踏み出しました」

B&G財団 会長 梶田 功



「海洋センター所在自治体の皆様と連携を強化しながら、日本の未来を担う子供たちの健全育成や地域の健康・人づくり事業を推進していきたい」

特別基調講演

「日本人としての誇り」

日本財団 笹川 陽平 会長



「権威と権力が分離した普遍的な政治体制がある国は、日本を除いてほとんどありません。自信と誇りを持って、このすばらしい伝統や文化、歴史を次の世代に伝えていただきたい」

日 時	平成26年1月30日(木) 14:00～17:00		
場 所	笹川記念会館国際会議場（東京都港区三田）		
参加者	海洋センター関係	現職首長	213人
		副首長	42人
		教育長	195人
		代理	43人
		随行者	167人
	来賓	ボートレース関係者 関連団体等	40人
	報道	マスコミ関係者	60人
合 計			760人



「B&G財団の生い立ち」(VTR) を見る参加者

＝ 正・副会長の選任・挨拶 ＝

今回で任期満了となった「B&G全国市長会議」正副会長の選任を行った。

会 長	新潟県胎内市 吉田 和夫 市長
副会長	千葉県香取市 宇井 成一 市長
	静岡県掛川市 松井 三郎 市長
	青森県南部町 工藤 祐直 町長
	徳島県海陽町 五軒家 憲次 町長



左から：松井 副会長、宇井 副会長、吉田 会長
工藤 副会長、五軒家 副会長

青少年の健全育成推進計画（5ヵ年）

2023年の財団設立50周年を見据え、5力年計画として新たに策定した「青少年の健全育成推進計画について」説明。自然体験活動の機会創出など、今後の重点方針についても述べた。



B&G財団 専務理事
菅原 悟志

B&Gネットワークの活動事例

「体験活動で健やかな子供の成長を～B&Gネットワークの活動事例から～」をテーマに、各地で取り組まれている様々な子供の体験活動について事例発表を行った。

＝ 健やかな子供の成長を願い ＝

福井県大野市 岡田 高大 市長



子供たちの健やかな成長を育み、豊かな郷土愛を育てていくことをめざし、学校・家庭・地域社会・行政が一体となって、歴史と伝統に基づいた「ふるさと教育」を進めています。

＝いのちを守る『希望の森づくり』プロジェクト＝

静岡県掛川市 松井 三郎 市長



行政・企業・市民等の協働による市民主体のまちづくりの中で、どんぐりから苗を育て植樹する「体験型環境学習」を行いながら、健やかな子供たちの育成を進めています。

＝ 香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン ＝

兵庫県香美町 浜上 勇人 町長



生徒数の少ない小規模校同士が連携し、一緒に授業を行うことを研究、実践しており、子供たちの「生きる力の育成」や「確かな学力の定着」などの面に効果が表れています。

＝少年自然の家を活用した通学合宿プロジェクト＝

広島県安芸高田市 浜田 一義 市長



通学合宿による集団生活によってコミュニケーション力や連帯感が養われ、カヌーや乗馬などの体験活動を行うことで、自然の偉大さ、生命の尊さへの気づきが生まれます。

「共同宣言」確認

吉田会長の進行により、今後も財団事業を活用し地域活性化に取り組むとともに、「環境・防災・水辺の安全教育の推進」を盛り込んだ新たな共同宣言が採択された。



第6回B&G全国サミット共同宣言

- 一. 海洋センターとの連携
- 一. 施設の運営と管理
- 一. 積極的な事業の推進
- 一. 情報・ノウハウの共有
- 一. 環境・防災・水辺の安全教育の推進
- 一. 「東日本大震災」の復旧・復興

★★★ 優良海洋センター表彰 ★★★

平成25年度4月評価（H24年度年間評価）で「特A」評価となった181海洋センターおよび「A」評価となった128海洋センターを紹介。青森県南部町名川海洋センター、埼玉県久喜市栗橋海洋センターが10年連続「特A評価」となり、表彰された。



左から：南部町工藤町長、B&G財団梶田会長
久喜市田中市長

★★「2013B&G広報大賞」表彰★★

大賞に選ばれた島根県雲南市加茂海洋センターの速水市長には、審査委員長の岸ユキ氏より賞状と賞品目録が贈られた。



岸 審査委員長(左)から雲南市速水市長に
賞状と賞品目録が手渡された

次 第

テーマ：体験活動で健やかな子供の成長を
～ B&Gネットワークの活動事例から ～

第1部

1. 主催者挨拶 …………… B&G財団 会長 梶田 功
2. 来賓紹介
3. 特別基調講演「日本人としての誇り」 日本財団 笹川 陽平 会長

第2部（議事）

4. 正副会長の紹介・挨拶
5. B&G財団の事業説明 …………… B&G財団 専務理事 菅原 悟志
6. B&Gネットワークの活動事例
 - 健やかな子供の成長を願い …… 福井県大野市 岡田 高大 市長
 - いのちを守る「希望の森づくり」プロジェクト …… 静岡県掛川市 松井 三郎 市長
 - 香美町学校間スーパー連携チャレンジプラン …… 兵庫県香美町 浜上 勇人 町長
 - 少年自然の家を活用した通学合宿プロジェクト …… 広島県安芸高田市 浜田 一義 市長
7. 第6回B&G全国サミット共同宣言の確認

第3部

8. 2013B&G広報大賞表彰
9. 優良海洋センター表彰

交流会 17:00～

交 流 会

会議終了後には“交流会”が開かれ、各自治体や海洋センターの活動など様々な情報交換が行われ、交流を深めた。
また、B&G財団評議員の谷川真理氏やサミット会長の吉田会長が挨拶を行った。



B&G財団評議員
谷川 真理 氏



B&G財団評議員
B&G全国サミット
会長 吉田 和夫 氏



イ. 第10回「B&G全国教育長会議」～ブロック幹事・道府県代表者～開催

45人の教育長を含む85人が出席！！

テーマは“子供たちの健やかな成長を目指して～学校・地域・家庭の連携を考える～”

平成25年11月26日(火)、27日(水)の両日、東京都港区の日本財団ビルにて、「子供たちの健やかな成長を目指して～学校・地域・家庭の連携を考える～」をテーマに、「第10回B&G全国教育長会議」を開催。全国44道府県から45人の教育長を含む85人が出席。

会議では、初日に明星大学の高橋史朗教授による基調講演「教育再生は家庭・家族の再生から」や、4人の教育長による各自治体における学校・地域の連携事例の発表などを実施。

2日目には全国10ブロックでの各種ブロック事業の発表や、自由討議「子供たちの生きる力を育む『体験活動』の推進について」などを行い全日程を終えた。



主催者挨拶

B&G財団 会長 梶田 功



「社会全体で意識を共有しながら子供の成長を支える体制づくりが求められています。地域コミュニティの拠点になっている海洋センターの役割は、ますます重要になっていくと思います」

基調講演

～教育再生は家庭・家族の再生から～
明星大学 教授 高橋 史朗 氏



「教育を学校の先生方だけに委ねるだけでは、無理があります。教育の3本柱である、家庭・学校・地域社会が手を組んで子育てをするという基本を取り戻さないと、日本の教育の根が枯れてしまいます」

来賓挨拶

B&G財団 評議員
岸 ユキ 氏



「未来を担う子供たちには、より良い体験をさせてあげたいものです。全国の教育長の皆様には、子供を育てるお立場で手を組んでいただき、すばらしい日本を創生していただきたいと思います」

正副会長挨拶

「本会議は今年で10回目を数えることになりました。2日間にわたる会議で、皆様と活発に意見を交換したいと思います」



(中) 会長：栃木県那須烏山市 池澤 進 教育長
(右) 副会長：高知県津野町 川上一郎 教育長
(左) 副会長：岩手県普代村 熊坂伸子 教育長

日 時	平成25年11月26日(火) 14:00～17:30 ～27日(水) 9:00～11:30		
場 所	日本財団ビル2F会議室（東京都港区）		
参加者	海洋センター 関係	教育長	45人
		代理	7人
		担当者・随行者	22人
	来賓・報道		11人
合 計			85人

教育長事例発表

地域の特徴を活かした学校・地域の連携事例について事例発表を行った。

= まちぐるみで子どもを守り育てる社会教育の推進 =

北海道砂川市 井上 克也 教育長



「親の多忙化や核家族化が進む現状を踏まえ、砂川市家庭教育サポート企業制度を導入。地元企業も参画しながら、地域ぐるみで家庭教育への支援を行うようになりました」

= 地域ぐるみで育てる心豊かな子どもたち =

福島県柳津町 目黒 健一郎 教育長



「昭和54年の開設以来、海洋センターは町民のスポーツ拠点として機能。スポーツ少年団の活動も盛んで、現在、地元の指導者のもとで200人の団員が各競技の練習に励んでいます」

= 地域とともにある学校づくり =

山梨県甲斐市 加々美 英 教育長



「市立双葉西小学校では、文部科学省のコミュニティ・スクール（C・S）研究指定を経て、現在も甲斐市教育委員会指定C・Sとして、地域が一体となって学校づくりを進めています」

= 学校とB&Gの連携が育む生きる力 =

愛媛県久万高原町 松岡 廣 教育長



「各学校が海洋センターと連携し、山の町ながら『少年の海洋体験』を積極的に展開。最近では、『久万山いのちの森づくり協議会』を結成して育苗活動にも力を入れています」

次 第

テーマ：子どもたちの健やかな成長を目指して
～学校・地域・家庭の連携を考える～

〔1日目〕11月26日（火）14:00～

第1部

1. 主催者挨拶……………B&G財団 会長 梶田 功
2. 来賓挨拶・来賓紹介
3. 基調講演……………明星大学 教授 高橋 史朗 氏
「教育再生は、家庭・家族の再生から」

第2部

4. 正副会長挨拶
5. B&G財団からの報告
6. 教育長事例発表
 - まちぐるみで子どもを守り育てる社会教育の推進
……………北海道砂川市 井上 克也 教育長
 - 地域ぐるみで育てる心豊かな子どもたち
……………福島県柳津町 目黒 健一郎 教育長
 - 地域とともにある学校づくり
……………山梨県甲斐市 加々美 英 教育長
 - 学校とB&Gの連携が育む生きる力
……………愛媛県久万高原町 松岡 廣 教育長

交流会 17:15～

〔2日目〕11月27日（水）9:00～

7. ブロック事業の報告
8. 自由討議「子どもたちの生きる力を育む『体験活動』の推進」
9. B&G全国教育長会議「提言」

交 流 会

第1日目の会議終了後には
交流会が開催され、参加者相互による情報交換を行いながら親睦が図られた。



ブロック連絡協議会事例発表

全国10ブロック連絡協議会において、平成25年度に実施した地域の特色を活かした事業について報告を行った。

関東ブロック



群馬県玉村町
和田 光彰 氏



中国ブロック



山口県長門市日置
今津 一志 氏

自由討議：「子供たちの生きる力を育む『体験活動』の推進について」

会議に参加した教育長が標題の件について意見を交換。最後にB&G財団古山常務理事が、「改めて体験活動の重要性を再確認するとともに、体験活動の実施には苦労を伴うが、各海洋センターが手を取り合いながら多くの子供たちに体験活動を提供していくべきである」と総括した。



「B&G全国教育長会議」提言の採択

会議2日目のディスカッションおよび全体発表後、池澤会長の進行により、「B&G全国教育長会議」の提言が参加者一同の賛同を得て採択された。



「B&G全国教育長会議」提言

- 一. 自然体験活動を実践する「指導員の養成」と「B&G指導者会の設立」推進
- 一. 地域と学校との連携強化
- 一. 海洋性レクリエーション事業の推進
- 一. 親子・家族の絆の推進
- 一. 海洋センター・クラブの活用
- 一. 環境・防災・水辺の安全教育の推進



ウ.「海洋センターブロック連絡協議会」総会への出席

海洋センターブロック連絡協議会および海洋センター道府県連絡協議会の活動促進を図るため、全国10ブロック連絡協議会が主催する総会に、財団の役員およびブロック担当職員が出席した。

No	ブロック	開催地	開催日	出席センター・クラブ数および人数
1	北海道	北海道 砂川市	4月25日(木)	36海洋センター・1海洋クラブ 72人(含:首長4人、副首長8人、教育長17人)
2	東北	秋田県 大湯村	4月25日(木)	61海洋センター 87人(含:首長4人、教育長5人)
3	関東	東京都 港区	4月19日(金)	40海洋センター 70人(含:首長13人、副首長7人、教育長5人)
4	北陸	富山県 富山市	5月8日(水)	40海洋センター 68人(含:首長2人、副首長1人、教育長8人)
5	中部	静岡県 掛川市	5月13日(月)	72海洋センター 148人(含:首長12人、副首長6人、教育長15人)
6	近畿	京都府 京都市	5月23日(木)	44海洋センター 77人(含:首長1人、教育長10人)
7	中国	山口県 山口市	5月21日(火)	52海洋センター 79人(含:首長2人、副首長2人、教育長10人)
8	四国	高知県 高知市	5月16日(木)	28海洋センター・2海洋クラブ 81人(含:首長8人、副首長3人、教育長11人)
9	北九州	福岡県 大任町	5月28日(火)	40海洋センター 65人(含:首長3人、副首長3人、教育長4人)
10	南九州	宮崎県 宮崎市	5月23日(木)	38海洋センター 83人(含:首長3人、副首長6人、教育長12人)
合 計				451海洋センター・3海洋クラブ 830人(含:首長52人、副首長36人、教育長97人)

次 第

1. 主催者挨拶 … ブロック連絡協議会 会長
2. 来賓挨拶 …………… B&G財団 役員
3. 議 事
 - 議案第1号 平成24年度事業報告について
 - 議案第2号 平成24年度決算報告について
【監査報告・ブロック内活動事例報告】
 - 議案第3号 平成25年度事業計画(案)について
 - 議案第4号 平成25年度予算(案)について
 - 報告事項 B&G特派員の推薦について
 - 報告事項 第9回B&G全国教育長会議について
4. 平成25年度B&G財団事業説明
5. B&G全国指導者会の活動について
6. センター表彰
 - 利用状況の優良海洋センター表彰(施設別ベスト30)
 - 広報大賞の表彰
 - 特派員奨励賞の表彰

「海洋センターブロック連絡協議会」総会では、平成24年度の“施設別利用者ベスト30”の表彰も行われた。(写真は関東ブロック)

(体育館)



表彰者左から
埼玉県鶴ヶ島市、埼玉県久喜市栗橋
埼玉県松伏町、千葉県いすみ市岬

(温水プール)



表彰者左から
埼玉県白岡市、栃木県芳賀町
群馬県玉村町、群馬県明和町
千葉県横芝光町



「関東ブロック総会」には、20人の首長・副首長が出席



上屋付プール第5位の
千葉県南房総市千倉

平成25年度「ブロック連絡協議会」幹事センターおよび会長

No	ブロック名	海洋センター名	会長名
1	北海道	北海道 砂川市	砂川市 善岡 雅文 市長
2	東北	青森県 十和田市	十和田市 小山田 久 市長
3	関東	群馬県 玉村町	玉村町 貫井 孝道 町長
4	北陸	石川県 七尾市	七尾市 不嶋 豊和 市長
5	中部	静岡県 掛川市掛川	掛川市 松井 三郎 市長
6	近畿	京都府 京丹波町瑞穂	京丹波町 寺尾 豊爾 町長
7	中国	山口県 長門市日置	長門市 大西 倉雄 市長
8	四国	高知県 東洋町	東洋町 松延 宏幸 町長
9	北九州	福岡県 大任町	大任町 永原 譲二 町長
10	南九州	宮崎県 宮崎市田野	宮崎市 戸敷 正 市長

エ. B&G財団職員の自治体への派遣研修

各担当ブロック内の受け入れ自治体において、当財団職員が海洋センターや担当部署にて勤務する研修（2ヵ月間）を実施。自治体や海洋センターの職務体験・視察を通じて問題点を学ぶほか、人事交流を促進した。平成17年度から延べ22人を派遣。

平成25年度 財団職員派遣者

氏 名	期 間	勤務地
小野田 智子	平成26年2月1日～3月31日	静岡県掛川市 教育委員会 社会教育課 スポーツ振興係

オ. 自治体職員のB&G財団への派遣研修

海洋センター所在市町村から職員を受け入れ、当財団事業への参画や“アドバンスト・インストラクター養成研修”をはじめ各種研修に参加し、財団への理解促進および自治体相互の協力体制の強化を図った。平成15年度からこれまでに33人を受け入れた。（詳細は103頁）

平成25年度 自治体派遣研修参加者

（敬称略）

氏 名	自治体名	期 間
門間 瑛司	宮城県大郷町	平成25年4月1日 ～平成26年3月31日
岡本 祐子	山口県周防大島町	
大崎 あや	高知県津野町	



自治体派遣職員（敬称略）
左から 岡本 祐子
大崎 あや
門間 瑛司

2. 調査研究等の活動

B&G財団事業および海洋センター・海洋クラブの活動成果を取りまとめ、その活動の重要性や効果を検証し、B&Gプランの推進に係る調査研究を行った。

(1) 事業成果の分析・評価

平成24年度の財団事業および海洋センター・海洋クラブ活動状況の詳細について分析し検証を行うとともに、全体を取りまとめた「B&G財団活動実績報告書」を作成・発行し、情報の公開を行った。

時 期：平成25年7月1日発行

配付先：地域海洋センター所在市町村長・教育長、地域海洋センター・海洋クラブ、ボートレース関係者ほか

仕 様：A4版、160頁



(2) 戦略的な事業展開のための調査研究（日本財団助成事業）

新たな事業展開を図るために、4テーマによるプロジェクトチームを立ち上げ、新規事業の方向性および継続事業の新たな普及展開方法の検討に係る調査を行った。

プロジェクトテーマ	調査内容
サマースクール	地域活性化につながる“宿泊体験型活動”の調査
転倒・寝たきり予防プログラム 幼児運動プログラム	地域住民に求められているプログラム把握のため、自治体が取り組む“健康づくり事業”の現状調査
海洋クラブ	海洋クラブの活性化につながる支援策等の調査
海洋教育	新たな海洋教育事業創設のための先進事例調査

(3) 地域の特色ある事業への協力（日本財団助成事業）

B&GネットワークとB&G指導員の特性を活かし、親子や異年齢間における海や自然に親しむ体験活動をはじめ、子どもたちの「生きる力」の育成、地域の活性化を目的とする下記28事業に対し、経費の一部補助として5,780,054円の共催金を交付した。（詳細は95頁）

対 象	事業数	事業費	共催金交付額
海洋センターブロック連絡協議会	10	3,079,023円	1,965,393円
海洋センター道府県連絡協議会	1	532,639円	300,000円
海洋クラブ	5	1,626,663円	1,200,138円
指導者会	12	2,661,291円	2,314,523円
合 計	28	7,899,616円	5,780,054円



B&G宮崎シーライオンクラブ
「第一回サンピーチーツ葉カヌーアスロン大会」



松伏町指導者会
「H25年度 カヌー&水辺の安全教室」

3. 広報活動

青少年の健全育成や地域住民の「健康づくり・人づくり」の推進など、当財団と全国の海洋センター・海洋クラブが取組む事業や活動を広く一般に周知するため、マスメディアによる広報をはじめとする各種の広報活動を積極的に展開するとともに、情報の提供を行った。

(1) 広報活動

ア. マスメディアによる広報

新聞、テレビ等へのパブリシティ広報活動を積極的に行った結果、テレビ21局で放映されたほか、新聞140紙、雑誌6誌に記事が掲載された。

イ. 「B&G広報大賞」の選出と表彰

「B&G広報大賞」は、海洋センター・海洋クラブの活動を広く周知するため、積極的な広報活動を展開し、B&Gプランの普及に努めた海洋センター・海洋クラブを表彰することを目的に実施している。

審査部門は、「テレビの部」・「新聞の部」・「ホームページの部」・「地域広報の部」の4部門で、「2013B&G広報大賞」への応募件数は2,140件。広報大賞審査委員8人による審査委員会で、各審査部門から優秀賞を選出し、その中から最高の栄誉となる広報大賞が選ばれた。

また、20人のB&G特派員の中からも、活動が顕著で他の模範となる4人を優秀賞とした。

なお、広報大賞は、平成26年1月30日に笹川記念会館国際会議場で開催した「第6回B&G全国サミット」で表彰した。優秀賞と審査員特別賞については、平成26年度の各ブロック総会で表彰した。



審査委員会

「2013B&G広報大賞審査委員会」

時 期：平成26年1月17日(金)

場 所：B&G財団会議室

出席者：B&G広報大賞審査員8人（審査員については55～57頁のコメント頁参照）

★★★★★★★★★★★★★ 2013 B&G広報大賞 ★★★★★★★★★★★★★★

B&G広報大賞

島根県雲南市加茂B&G海洋センターが受賞！
全部門入賞の快挙！！

今回、広報大賞に輝いたのは、「テレビの部」で優秀賞に選ばれた、島根県雲南市加茂B&G海洋センター。その内容は、センター体育館で練習に励む「加茂B&Gレスリング部」の活動を日本海テレビの「ニュースevery日本海」（2013年9月12日放映）が紹介したもので、マットで汗を流す子供たちの様子が5分近くにわたってつぶさに描かれた点が高い評価を獲得した。

同海洋センターは、「テレビの部」のみならず、全部門で優秀賞に選出。その幅広い広報活動自体にも賞賛が寄せられた。



「加茂B&Gレスリング部」の活動が、日本海テレビの「ニュースevery日本海」で紹介された

受賞の感想

雲南市加茂B&G海洋センター 担当：大谷 麻美 氏



今回の広報大賞受賞は、とても光栄で感謝しております。このような素晴らしい賞をいただけたのも、決して自分たちだけの力ではなく、皆様のご指導、サポートがあってからこそこの事だと思います。

特に、職員お手製の「加茂海洋センター新聞」は、昭和62年から発行しており、歴代の先輩方から引継ぎ、積み重ねてきたもので、それを高く評価していただき、本当にうれしく思います。今後も、島根県雲南市という小さな町から、多くのものを発信していきたいと思っています。

優 秀 賞

「テレビの部」 テレビに出るのなら、B&Gのシャツやキャップを活用して見た目にこだわろう！

1	B&G飯綱海洋クラブ (長野県)	日頃から町の広報誌などで町内外に活動情報を発信。それを受けて、60人以上の親子連れがカヌー・ヨット体験試乗会に参加した様子が報道された。
2	B&G和歌浦海洋クラブ (和歌山県)	昨年度、大賞を受賞した番組の今年版で再登場。海洋クラブの活動の様子を子供たちが交代で解説。B&Gのフラッグやキャップも活用して積極的なPRを行った。
3	美作市作東海洋センター (岡山県)	市内で実施した「海を守る植樹教育事業 植樹祭」の様子をNHK（地区番組）が報道。同センターは、特徴的な事業を行う際には常にプレスリリースの発信に努めている。
4	雲南市加茂海洋センター (島根県)	今年度の大賞に輝いた作品。このほかにも、朝ズバやNHKおはよう日本（全国版）など12本の番組（作品）を応募して、広報活動の充実度をアピールした。
5	いちき串木野市串木野海洋 センター（鹿児島県）	小学生がプールでカヌーやヨットを体験する様子をNHK（地区番組）が取材。積極的にプレスリリースを配信しており、番組を見た住民から声を掛けられることを励みにしている。

「新聞の部」 ありきたりの情報発信だけでなく、人物に焦点を合わせるなど読ませる工夫も考えたい！

1	滝川市海洋センター (北海道)	事業前に各報道機関に取材依頼を発信。ダイレクトに記者に依頼をかけることもあり、年間を通じて多数の記事に各事業が紹介されている。
2	掛川市海洋センター (静岡県)	県紙を中心に、水辺の安全教室やマリンスポーツ体験会を積極的に紹介。応募記事全てにカラー写真が掲載されており、その高い注目度に評価が集まった。
3	熊野市紀和海洋センター (三重県)	事業のたびにプレスリリースを積極的に配信しており、取材の都合がつかないときは、自らレポートと写真を用意して掲載を依頼。その結果、多数の記事が掲載されている。
4	香美町香住海洋センター (兵庫県)	日頃から新聞社の記者とコミュニケーションを取っており、プールのリニューアルオープンをはじめ、さまざまな事業がカラー写真入りで紹介されている。
5	雲南市加茂海洋センター (島根県)	常に19社の新聞にプレスリリースを配信。地方紙を中心に、年間を通じてコンスタントにセンター事業が紹介されており、地域住民の注目度も高い。

「地域広報の部」 地域のメディアで紹介されるのは選手の大きな励み。丹念に広報していくことが大切!

ケーブルテレビの部

久留米市三潨海洋センター
(福岡県)

プールのリニューアルオープン記念式典と中村真衣氏による泳ぎ初めの様子を3分にわたって紹介。アナウンスやテロップなどでB&Gのロゴやネームが数多く露出された。

地域広報誌の部

雲南市加茂海洋センター
(島根県)

市の広報誌に積極的に事業内容を発信するとともに、「海洋センター新聞」や「号外B&Gスポーツ」を自ら発行して活動をアピール。こうした努力の積み重ねが高い評価を得た。

「ホームページの部」 作者の気持ちをストレートに伝えることができるメディアであることに注目しよう!

1

袋井市袋井海洋センター
(静岡県)

ブログの更新が定期的に行われており、情報量も多い。各教室の様子を映像(YouTube)で見ることができる。

2

米原市山東海洋センター
(滋賀県)

週に一度は担当者が内容をチェック。水泳教室の合格者や各種インフォメーションを掲載した広報誌をダウンロードできるように配慮している(毎月更新)。

3

雲南市加茂海洋センター
(島根県)

サイトがリニューアルされ、海洋センターの名称が目立つようになり、情報量も多い。フェイスブックを活用してレスリングクラブの周知に努めている。

(敬称略)

「特派員の部」

1

関東ブロック特派員

群馬県明和町B&G海洋センター 島田 聡

2

中部ブロック特派員

山梨県甲斐市双葉B&G海洋センター 石井 誠

3

四国ブロック特派員

愛媛県愛南町御荘B&G海洋センター 濱岡 邦之

4

南九州ブロック特派員

鹿児島県南さつま市坊津B&G海洋センター 現王園 仁志

※その他、特派員の部16人に「奨励賞」が贈られた

審査員のコメント

審査委員長

岸 ユキ 氏

女優、B&G財団 評議員



広報大賞も11年を過ぎ、応募作品に様々な努力が垣間見られるようになりました。今年4部門で優秀賞を受賞した島根県の雲南市加茂は、新聞掲載の数の多さに加え、地域広報誌では独自の海洋センター新聞を毎月発行するなど、広報活動が楽しくて仕方がないという担当者の顔が見えるようでした。マスメディアとのコミュニケーションや指導する側とされる側などの良い関係が根底にあるのでしょうか。

一方で、応募したいけれど、応募はしたものの、広報大賞はハードルが高すぎるという人もいます。そのような人達には、受賞者の良いところを大いに参考にしてもらいながら、自分なりに広報の仕方を工夫してほしいと思います。そんな努力をB&Gのスタッフや審査員は見逃しません。海洋センターの活動は、多くの人に知ってもらってこそ、さらに育っていくものだと思います。

田久保 雅己 氏 (株)舵社 常務取締役、B&G財団 施設整備委員



毎年、新しい驚きや発見がある広報大賞。今年はなんと全部門に入賞して、そのうえ大賞まで獲得した雲南市加茂B&G海洋センター。海洋センターにレスリングクラブがあったという新しい発見もありました。小野正之助君（小4）と妹のこなみさん（小1）の全国レベルでの活躍ぶりは強烈なインパクトがあり、特にテレビ番組で紹介された奮闘ぶりは画面に引きつけられました。両君の日ごろの鍛錬はもちろんのこと、指導者や広報の努力と情熱がさまざまなメディアに伝わった結果だと思います。おめでとうございます。

中井 一平 氏 (株)読売新聞東京本社 常務取締役



2020年の東京五輪開催が決まり、さらにレスリングが五輪競技への復活を果たした年の広報大賞に、主宰するレスリングクラブの活動ぶりを大々的にテレビであつかわせた雲南市加茂海洋センターが輝いた。そのタイムリーさに驚くとともに、B&Gの活動の裾野の広がりにも感嘆する。同センターは受賞の常連であり、今回は全部門受賞（優秀賞）を達成した。日ごろの地道な広報活動の積み重ねの上に今回の大賞はあり、心から敬意を表したい。

山下 勲 氏 (公社)日本写真家協会 会員、B&G財団フォトアドバイザー



大賞に選ばれたテレビ部門「ラプレスリング」は話題性、タイミング（東京オリンピック開催決定）の良さでも好評を得た。私はもう一面、子供達がレスリングのトレーニングをしながら、生きるために大切であると元・特捜検事の堀田力氏が説いた「困難を乗り越える“人間力”」が育まれている行動を目にして感動した。与えられ、教えてもらえる事がすべてでなく、目標に向かって自分で考え、仲間と一緒に考える体験学習や活動をもっと広めていって欲しいと思う。

加藤 雅章 氏 (株)ロボット 執行役員 ウェブ・コミュニケーション部 部長



ウェブサイト上での広報活動が重要になって数年が経ち、施設利用の利便性はもちろん、活動を報告し地域との密接なコミュニケーションの場として機能し始めているサイトも多くみられ、楽しく審査させていただきました。審査の際にディスカッションになったのは、インフォメーション機能だけでなく担当職員の方の熱意や想いが伝わるような内容も、「今後は重要な審査のポイントになる」という事でした。まさに顔が見える広報の時代が来たのだと思います。

小谷 和彦 氏 (株)TBSテレビ 編成制作本部制作局
バラエティ制作センター担当部長 マネージメントプロデューサー



雲南市加茂の広報活動は、大賞のテレビだけでなく、殆どどのジャンルで優秀賞を獲得される素晴らしい成果を残されました。もちろん、スタッフの皆様の気概がこの大きな柱ではありますが、何にもましてメディアが興味を持ってくれるような毎日の素晴らしい活動があったからこそその結果ではないかと思います。広報関係者だけでなく、全てのスタッフの方と、ご参加、ご協力いただいた地域全ての皆様に、審査員として深く敬意と感謝を伝えたいと思います。おめでとうございます！

谷川 真理 氏



マラソンランナー、流通経済大学 客員教授、B&G財団 評議員

広報大賞となった雲南市のテレビ部門を見て、初めてレスリングの指導をされている事を知り、子供たちの礼儀正しく取り組んでいる姿が印象に残りました。2001年からスタートして1年目は1人もいなかった子供たちも今では20人になったという事で、指導者の方は大事だと思いました。兄妹のような、小さなスター選手が出る事で町は活気づきます。また、活躍の様子が新聞などに掲載される事で選手の励みにつながりますし、一人でも多くの方に活動を知って頂くことで底辺の拡大にもつながります。そのためには、地道な広報活動がとても大事だと感じます。

前岡 良徹 氏



(株)日本レジャーチャンネル 代表取締役社長

今回、初めて大賞審査に参加いたしました。大賞総数2,140件にビックリです。広報大賞に選出された「加茂B&Gレスリング部」は、取り上げた題材の良さと号外として地域広報誌で記事にするなど、テレビ、新聞と共に総合的にすばらしい広報活動でした。しかしながら、テレビカメラ等の取材において「B&G」のカンバン等をもっと活用できるのではないかと感じました。頑張ってください。

ウ. 広報誌「アンドリーニュース」の発行

財団の活動等を広く一般に周知するため、年2回発行し、海洋センター・海洋クラブほか関係団体等に配付した。



エ. オリジナルグッズの製作・販売

「海の日Tシャツ」などのオリジナルグッズを作成し、海洋センター・海洋クラブに提供した。



オ. B&G壁新聞「アンドリーニュース」発行

平成25年度は全19号を発行し、“B&Gコンパス”を通じて全国の海洋センター・海洋クラブに発信した。



(2) インターネットを活用した情報の発信・提供

財団公式ホームページを運用し、各種事業の報告をはじめ、海洋センター・海洋クラブの活動や財団事業関係者などを紹介する「注目の人」、プレスリリースなどの情報発信を行った。

また、事業のインターネットライブ中継ほか、スポーツ大会参加者用のフォトアルバムを実施した。

〈インターネットライブ中継〉

UstreamやYoutubeLiveを活用して事業のライブ中継を行った。

- 指導者養成研修開講式 視聴者数：72件
- B&G全国ジュニア水泳競技大会 視聴者数：1,616件
- 第6回B&G全国サミット 視聴者数：1,209件



Youtubeを利用して
第6回B&G全国サミットを中継

(3) 地域情報発信強化のための人材育成事業（日本財団助成事業）

ア. 「B&G特派員」による情報発信

ブロック連絡協議会および道府県連絡協議会、海洋センター・海洋クラブの活動内容等を積極的に広報するため、毎年、全国10ブロックにそれぞれ1人の「B&G特派員」（任期2年）を委嘱。

平成25年度は、20人のB&G特派員が日本財団の「CANPANブログ」を活用し、215件の情報発信を行った。

なお、本事業は「地域情報発信強化のための人材育成事業」として日本財団助成事業として実施した。

(ア) 「B&G特派員」研修会

B&G特派員の役割や業務内容、広報活動等について理解を深めるとともに、ブロック内の広報リーダーとしてのスキルアップを図るため、研修会を開催した。

期 日：平成25年4月15日(月)～16日(火)

場 所：日本財団会議室（第1・2）

対 象：ブロック連絡協議会から推薦された、B&G指導員有資格者または海洋センター・海洋クラブの担当者

人 数：20人

内 容：特派員の役割・意義、業務内容、広報活動について、記事の書き方、写真の撮り方、映像の撮影について、ディスカッションほか

講 師：

(敬称略)



講師名	所 属 等	内 容
小谷 和彦	(株)TBSテレビ 編成制作本部制作局 バラエティ制作センター担当部長 マネージメントプロデューサー	「テレビメディアと攻める広報について」
山下 勲	日本写真家協会会員 B&G財団フォトアドバイザー	「写真の撮り方」(基礎編・応用編)
市川 和彦	マリンジャーナリスト B&G財団特約ライター	「記事の書き方」(基礎編・応用編)
千葉 好則	フリー報道カメラマン B&G財団オフィシャルカメラマン	「映像の撮影について」

平成25年度B&G特派員

NO.	ブロック	県	センター名	特派員名	任期(2年)		NO.	ブロック	県	センター名	特派員名	任期(2年)	
					H25 H26	H24 H25						H25 H26	H24 H25
1	北海道	北海道	厚岸町	森下 高		○	11	近畿	滋賀県	野洲市中主	中野 良博		○
2		北海道	沼田町	岩井 俊直	○		12		京都府	京丹波町和知	川野 雅夫	○	
3	東北	岩手県	盛岡市玉山	鈴木 学		○	13	中国	岡山県	井原市美星	田邊 裕章		○
4		秋田県	男鹿市	大洲 辰臣	○		14		山口県	田布施町	松田 翔	○	
5	関東	茨城県	行方市玉造	野原 嘉典		○	15	四国	愛媛県	愛南町御荘	濱岡 邦之		○
6		群馬県	明和町	島田 聡	○		16		高知県	香美市香北	大石 康人	○	
7	北陸	石川県	穴水町	和田出 勝則		○	17	北九州	長崎県	佐世保市小佐々	藤田 幸一郎		○
8		富山県	上市町	山本 英希	○		18		福岡県	大任町	岩下 啓一	○	
9	中部	静岡県	掛川市大須賀	河原崎 貴広		○	19	南九州	沖縄県	伊江村	万寿 祥久		○
10		山梨県	甲斐市双葉	石井 誠	○		20		鹿児島県	南さつま市坊津	現王園 仁志	○	

H19年度からスタートした「B&G特派員制度」により、全国の海洋センターや海洋クラブの活動を取材、これまでに合計1,176件の情報が発信された。

年度	情報提供	年度	情報提供
19	57件	23	206件
20	103件	24	198件
21	139件	25	215件
22	258件	合計	1,176件



平成25年度は「B&G特派員」から215件の記事が寄せられた

(イ)「B&G特派員」フォトコンテスト

特派員制度の周知や写真撮影技術の向上を目的に、特派員20人と特派員アドバイザー（OB）9人によるフォトコンテストを実施した。写真のテーマを「元気」とし、Webおよび指導員研修会で投票を行い、264件の投票を得た。

（敬称略）

金賞	四国ブロック	愛媛県愛南町御荘B&G海洋センター 濱岡 邦之
銀賞	中部ブロック	静岡県掛川市大須賀B&G海洋センター 河原崎 貴広
銅賞	関東ブロック	群馬県明和町B&G海洋センター 島田 聡



金賞



銀賞



銅賞

海洋センターの運営・活動状況

1. 海洋センターの活動状況

平成25年度末の海洋センター所在自治体数は、218市、159町、13村で390自治体、472海洋センターとなった。海洋センター建設当初と比較すると、市の数が4.3倍に増え、海洋センター所在人口も760万人から2,630万人と約3.5倍に増加した。

また、B&G財団と海洋センター所在自治体との連携を強化し、各地域の実情にあった事業を提供するため、海洋センター所在市町村の首長や教育長を対象とする「B&G全国サミット」、「B&G全国教育長会議」を開催。また、「ブロック連絡協議会総会」（同連協主催）に財団役職員が出席し、今後の財団の活動について説明を行ったほか、自治体との「人事交流」を継続して実施するなど、自治体との連携・協力体制がより強固になりつつある。

海洋センターの活動状況では、“指導者の適正配置”や“効率的な管理・運営”、さらに“財団ソフト事業の積極的な活用”などにより利用促進が図られている。海洋センターの管理・運営状況の指標となる“海洋センター評価”では、評価「B」以上のセンターが全体の94%（前年度92%）を占めるとともに、その評価を維持している海洋センターも増加するなど、海洋センターの評価が高いレベルで安定している状況である。

平成25年度の海洋センターの利用者人数は、記録的な豪雨・豪雪などの自然災害による影響を受け、昨年度を17万人下回る1,011万人となった。

一方、「B&G全国サミット」や「B&G全国教育長会議」「ブロック総会」などの主要会議を通じて、B&G財団と自治体執行部との相互理解が一層深まったことにより、B&Gネットワークを活用した“海洋センター所在自治体間での交流事業”が徐々に増加しつつあり、今後もこうした傾向がますます強くなると思われる。

なお、「東日本大震災」により、施設全壊の甚大な被害を受けた7海洋センター・11施設のうち、岩手県洋野町種市B&G海洋センター「艇庫」が復旧し、地域住民の利用が開始された。B&G財団は同施設に対して災害復旧修繕1,000万円を助成するとともに、400万円相当の舟艇器材等を配備した。

ブロック連絡協議会の活動について

B&G財団では、平成の大合併を機に、財団と自治体相互の理解促進および連携を強化するため、県やブロックの全国組織づくりに着手。以後、北海道を皮切りに各ブロックが立ち上がり、平成18年度に10ブロックの連絡協議会が設立され、全国のネットワークが完成した。

現在では、自治体の合併による広域圏での情報交換はもとより、各ブロック傘下の県連絡協議会をはじめ海洋センター・海洋クラブとの連携によるブロックスポーツ大会や各種交流事業、指導者研修会、さらには財団が推進する各種ソフト事業を自主開催するなど、「B&Gプラン」推進の中枢となる組織として重要な役割を担っている。

ブロック連絡協議会の活動の活性化と発展には、特に、市町村長や教育長など行政（教育行政）のトップの理解が重要である。平成25年度の「ブロック連絡協議会総会」（同連協主催）には、自治体執行部である首長をはじめ副首長や教育長が、全10ブロック合わせて、前年度を大きく上回る185人（前年度：152人）が出席するなど、ブロック連絡協議会の重要性が自治体や海洋センターに深く浸透されていることが伺われる。

B&G財団は、第6回「B&G全国サミット」で発表した“青少年の健全育成推進計画（5ヵ年）”に基づき、平成25年度から各種のプロジェクトを立ち上げ検討を開始したところである。今後、「B&Gプラン」推進の要となる“ブロック連絡協議会”をはじめ、各県の連絡協議会、全国の地域海洋センター・海洋クラブとの連携・協力体制を更に強め、「心身を鍛えこれからの時代を生き抜く力」を持つ新たな青少年の健全育成に取り組んでいく計画である。

2. 海洋センター評価

本評価は、「B&Gプラン」推進拠点である全国の地域海洋センターが、管理・運営面での現状を把握し、今後の更なる活動の活性化をはかるための“指標”であり、評価に応じた海洋センターへの公正な支援を行うためのものである。平成15年度から「海洋センター評価」を導入し、平成19年度から評価基準とともに結果の公表を行っている。

評価方法は、海洋センターから提出される“運営状況報告書”等のほか、指導員の配置状況、財団事業の活用・参加状況などの評価基準に基づき評価を行っている。

評価対象期間

年間評価	当該年度（4月～3月）の評価を翌年度はじめに各海洋センターに公表する
中間評価	各海洋センターが年間評価向上への対策を講じることができるよう、当該年度の上期（4月～9月）の評価を同年度下期はじめに公表する

評価の種類と財団支援等

評価	点数範囲（50点満点）	財団支援・指導等
特A	40点以上	修繕助成の対象となり、評価に応じた助成率が得られる。その他、評価ランクに応じた支援を行う
A	32点～39点	
B	20点～31点	
C	12点～19点	原則として、Cランク以下は修繕助成の対象外となる。上位ランクとなるよう改善に向けた指導を行う
D	0点～11点	運営指導を行う。改善が見られない場合は首長を含めた協議を行う
E	施設休止	

海洋センター評価基準（概略）

評価項目と配点		評価の対象
1.指導員関係（計10点）	①指導員配置状況（7点）	配置基準による配置状況
	②指導者会設置状況（3点）	指導者会の登録および活動の有無
2.海洋センター運営関係（計15点）	①利用人数（5点）	年間利用者人数状況（「増加率」および「ランキング」による）
	②施設維持管理（5点）	財団修繕助成実績および自主修繕実績
	③大会・教室開催（5点）	大会・教室の開催状況
3.財団事業関係（上限10点）	①財団事業の活用（上限7点）	財団事業（26事業）の実施・参加状況
	②会議等への出席（6点）	各種会議への出席状況
4.情報提供関係（計5点）	①B&Gコンパスの活用（2点）	B&Gコンパスへの情報提供およびメッセージの未読状況
	②日報サービスの活用（3点）	利用者数の入力状況
5.特別加点（上限10点）	17項目（計57点）	財団事業「B&Gプラン」推進への協力状況
合計（50点）		

（表 彰）

年間評価が「特A」、「A」ランクの優良海洋センターの表彰を行っている。

平成25年度は、「平成24年度 年間評価」（平成25年4月度評価）の優良海洋センター309センターを表彰した。



第6回B&G全国サミットで「特A」181センターと「A」128センターを紹介し表彰したほか、10年連続「特A」センターとして青森県南部町名川および埼玉県久喜市栗橋の2海洋センターを表彰した

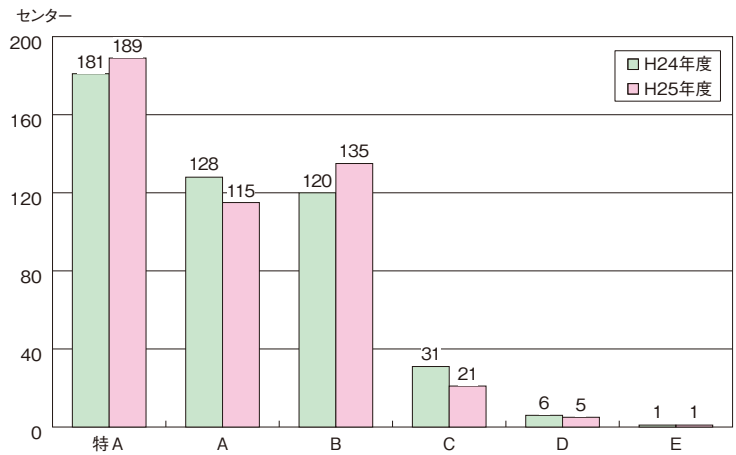
(1) 平成25年度「年間評価」(前年度対比)

平成25年度の年間評価は、前年度に対して「A」「C」「D」評価センターが減少し「特A」「B」評価センターが増加した。評価の構成率で見ると、「A」評価が2.7%減少したものの、「C」「D」評価が減少し「B」評価以上の構成率が2.4%増加するなど、全体として評価が向上したと言える。

評価別海洋センター数（前年度比較）

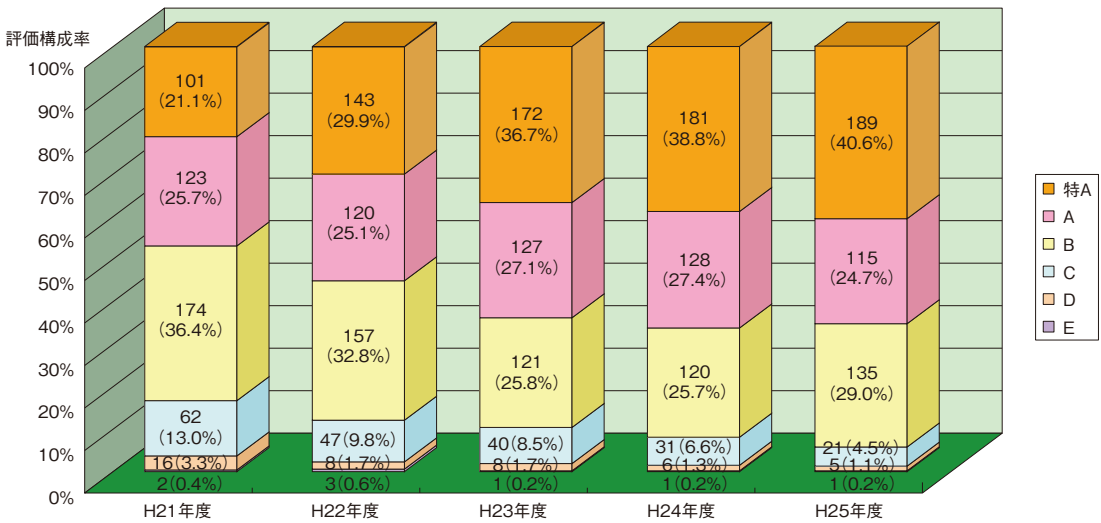
年 度		特A	A	B	C	D	E	合計
H24	センター数	181	128	120	31	6	1	467
	(構成率)	(38.8%)	(27.4%)	(25.7%)	(6.6%)	(1.3%)	(0.2%)	(100%)
H25	センター数	189	115	135	21	5	1	466
	(構成率)	(40.6%)	(24.7%)	(29.0%)	(4.5%)	(1.1%)	(0.2%)	(100%)
増減数	センター数	8	-13	15	-10	-1	0	0
	(構成率差)	(1.8%)	(-2.7%)	(3.3%)	(-2.1%)	(-0.2%)	(0%)	(0%)

海洋センター評価（前年度比較）



(2) 海洋センター年間評価5ヵ年の推移

過去5年間の評価の推移（構成率）を見ると、「A」評価以上の優良海洋センターの構成率はH21年度が46.8%に対してH25年度が65.3%と18.5%増加。年平均で3.7%増加しており、年々評価が向上していることが分かる。



(3) 平成25年度「年間評価」(ブロック別傾向)

ア. 各評価の構成比率の傾向

各評価の割合(構成比率)をブロック別に見ると、優良海洋センター(A評価以上)の構成比率が高い上位ブロックは、北海道(83%)、四国(82%)、関東(74%)となっている。

ブロック別・評価別 一覧(平成25年4月度評価)

※ %はブロック内の評価割合

ブロック名	特A	評価 比率	A	評価 比率	B	評価 比率	C	評価 比率	D	評価 比率	E	評価 比率	合計
北海道	20	56%	9	25%	7	19%	0	0%	0	0%	0	0%	36
東 北	22	36%	19	31%	17	28%	2	3%	1	2%	0	0%	61
関 東	23	56%	7	17%	11	27%	0	0%	0	0%	0	0%	41
北 陸	11	28%	13	33%	14	35%	2	5%	0	0%	0	0%	40
中 部	35	47%	17	23%	18	24%	4	5%	0	0%	0	0%	74
近 畿	13	29%	14	31%	13	29%	4	9%	1	2%	0	0%	45
中 国	23	43%	14	26%	16	30%	1	2%	0	0%	0	0%	54
四 国	16	57%	4	14%	7	25%	1	4%	0	0%	0	0%	28
北九州	10	21%	10	21%	22	46%	4	8%	1	2%	1	2%	48
南九州	16	41%	8	21%	10	26%	3	8%	2	5%	0	0%	39
合 計	189	41%	115	25%	135	29%	21	5%	5	1%	1	0%	466

大震災被災センター7カ所を除く

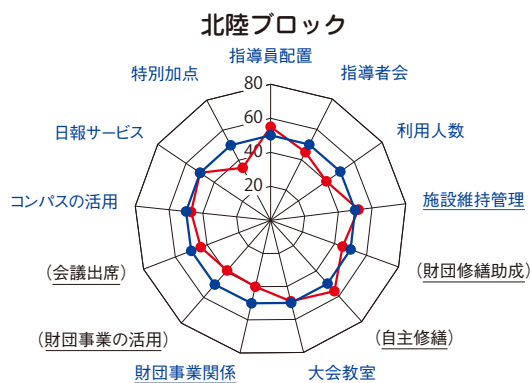
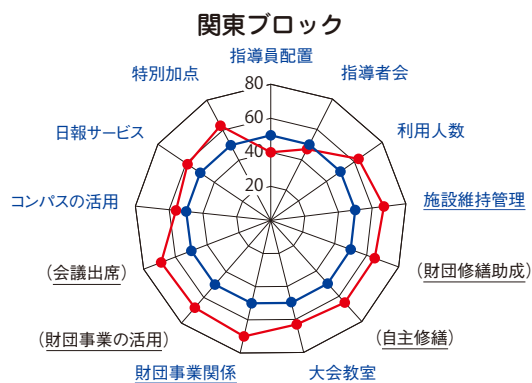
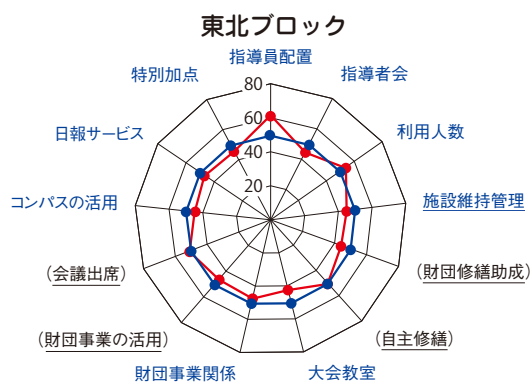
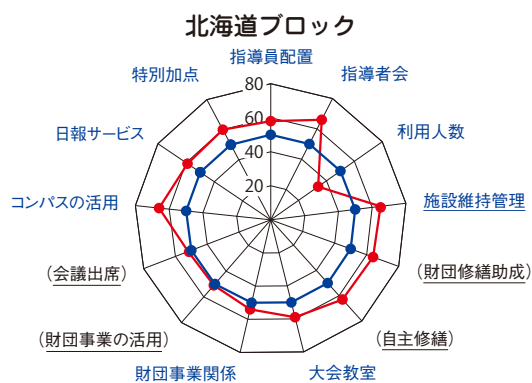


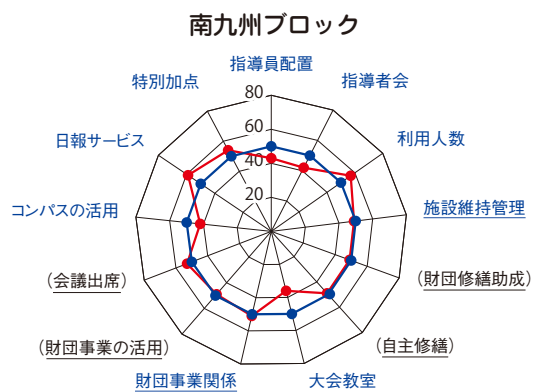
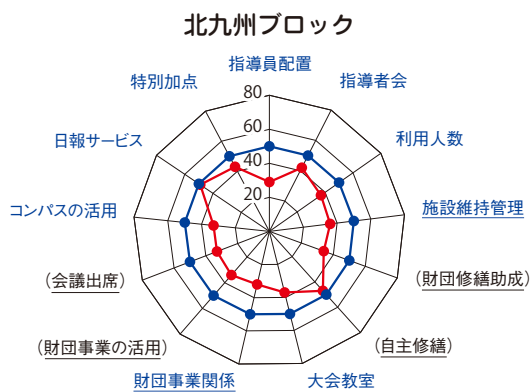
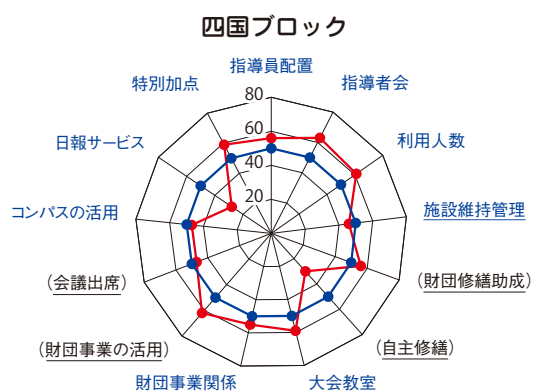
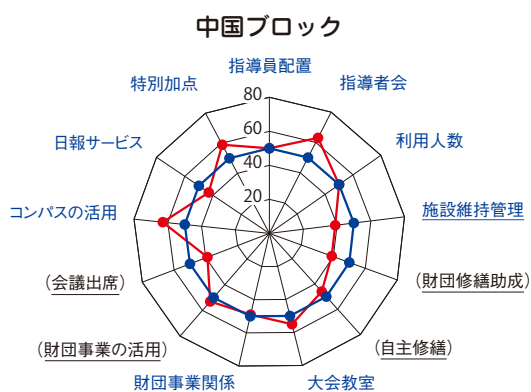
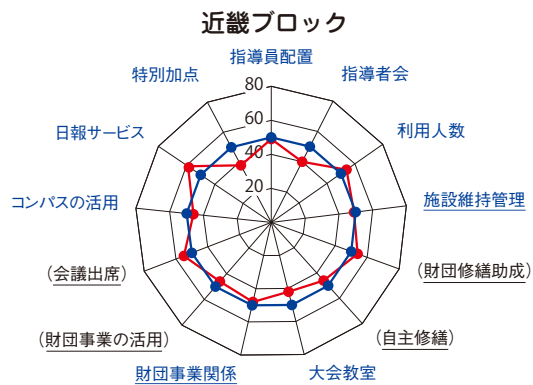
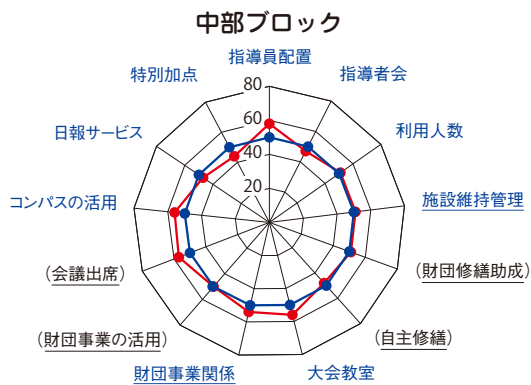
イ. 評価項目の傾向（レーダーチャート）

次のグラフ（レーダーチャート）は、“ブロック内海洋センターの各評価点の平均値”を“当該ブロックの各評価点”として、“全海洋センターの各評価点の平均値”との偏差を表したもので、青線が全海洋センターの平均値（50）、赤線が各ブロックの偏差値を示している。

なお、グラフ上の「施設維持管理」の評価内訳として“財団修繕助成”と“自主修繕”を、また「財団事業関係」の評価内訳として“財団事業の活用”と“会議出席”の偏差値を参考に記載した。

評価項目	評価値の上位3ブロック（H25）			評価値の上位3ブロック（H24）		
全評価項目の合計	関 東	北海道	四 国	北海道	関 東	四 国
指導員配置	東 北	北海道	中 部	北海道	東 北	四 国
指導者会	北海道	四 国	中 国	北海道	四 国	中 国
利用人数	関 東	四 国	南九州	関 東	東 北	四 国
施設維持管理	関 東	北海道	北 陸	四 国	関 東	北海道
大会教室	関 東	四 国	北海道	北海道	四 国	中 部
財団事業関係	関 東	四 国	中 部	関 東	四 国	北海道
B&Gコンパスの活用	北海道	中 国	中 部	中 国	中 部	関 東
日報サービス	南九州	北海道 関東・近畿	北 陸	北海道	中 国	関 東
特別加点	関 東	北海道	四 国	関 東	北海道	四 国





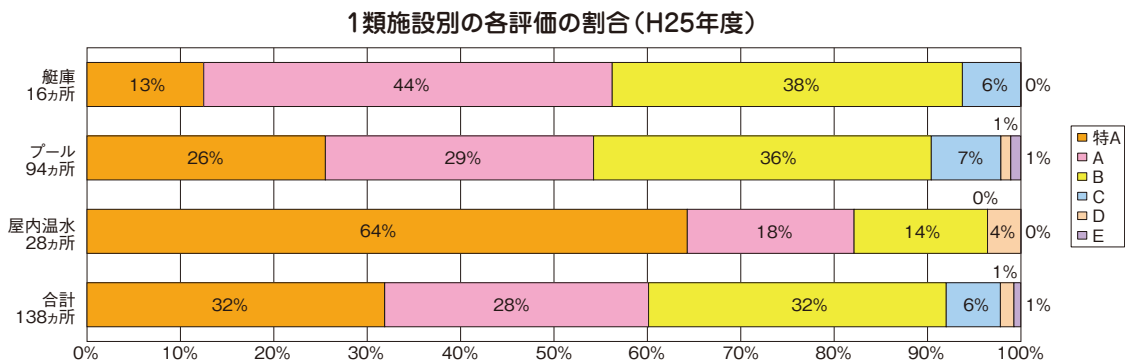
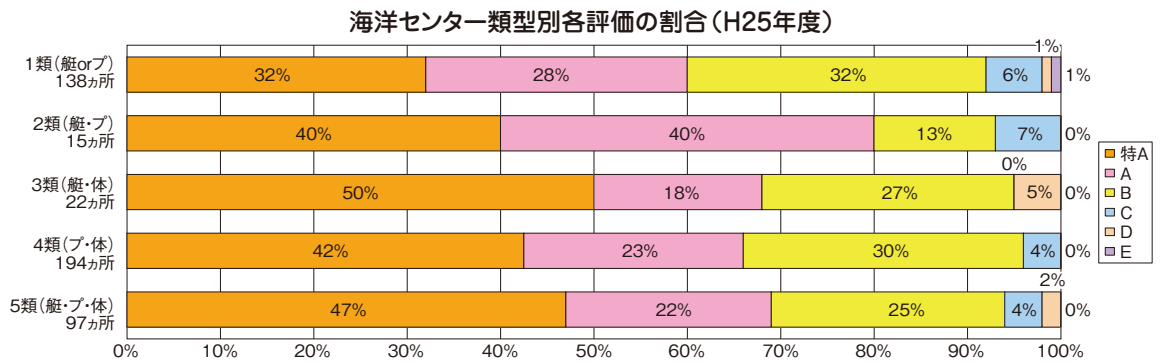
(4) 平成25年度「年間評価」(類型別)

各評価の割合(構成比率)を施設(類型)別に見ると、優良海洋センター(A評価以上)の構成比率が最も高い類型は「2類(プール・艇庫):80%」で、次に「5類(艇庫・プール・体育館):69%」「3類(艇庫・体育館):68%」「4類(プール・体育館):65%」と続く。また、1類(艇庫orプール)施設の中では、「1類(屋内温水プール):82%」が最も優良海洋センターの割合が高い。

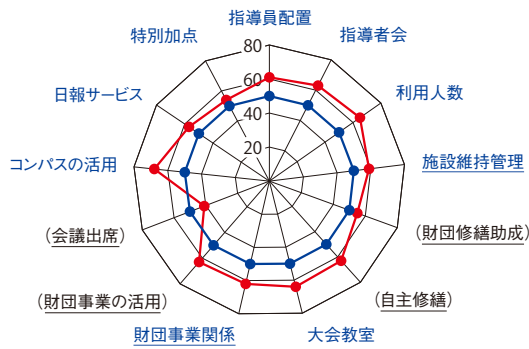
次頁のレーダーチャートは、“類型別の海洋センター評価点の平均値”を当該類型の評価点として、“全海洋センターの各評価点の平均値”との偏差を表したものの。青線が全海洋センターの平均値(50)、赤線が各類型の偏差値を示している。

類型別 評価別 一覧 (H25年度 年間評価)															H26年4月度評価	
類型	施設名	特A	評価比率	A	評価比率	B	評価比率	C	評価比率	D	評価比率	E	評価比率	合計		
1類	艇庫 (16ヵ所)	2	13%	7	44%	6	38%	1	6%	0	0%	0	0%	16		
	プール (95ヵ所)	24	26%	27	29%	34	36%	7	7%	1	1%	1	1%	94		
	屋内温水プール (27ヵ所)	18	64%	5	18%	4	14%	0	0%	1	4%	0	0%	28		
	1類合計 (138ヵ所)	44	32%	39	28%	44	32%	8	6%	2	1%	1	1%	138		
2類	プール 艇庫 (15ヵ所)	6	40%	6	40%	2	13%	1	7%	0	0%	0	0%	15		
3類	体育館 艇庫 (22ヵ所)	11	50%	4	18%	6	27%	0	0%	1	5%	0	0%	22		
4類	体育館 プール (195ヵ所)	82	42%	45	23%	59	30%	8	4%	0	0%	0	0%	194		
5類	体育館 プール 艇庫 (97ヵ所)	46	47%	21	22%	24	25%	4	4%	2	2%	0	0%	97		
合計	合計 467ヵ所	189	41%	115	25%	135	29%	21	5%	5	1%	1	0.2%	466		

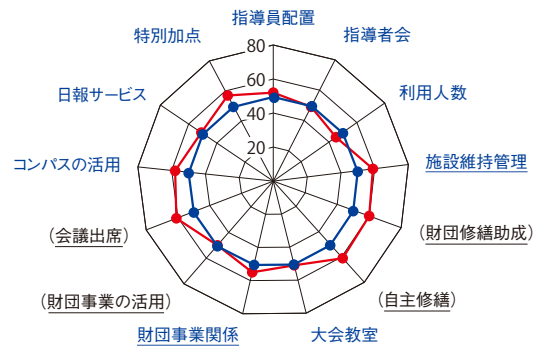
※用途変更等の海洋センター修繕により、現行の施設類型に該当しない海洋センターを除く



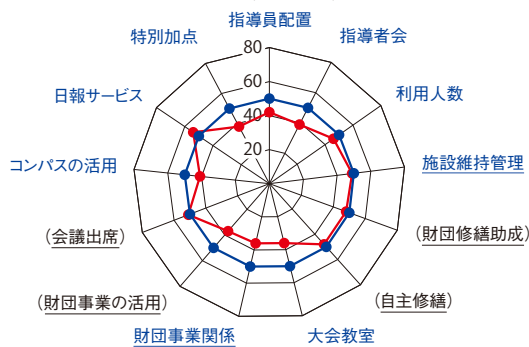
1 類（屋内温水プール）



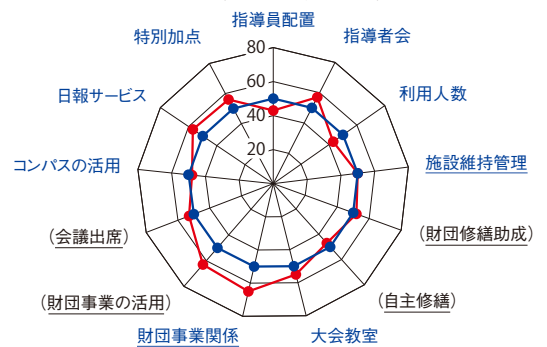
2 類（プール・艇庫）



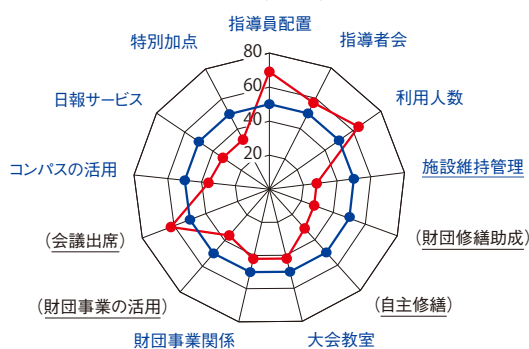
1 類（プール）



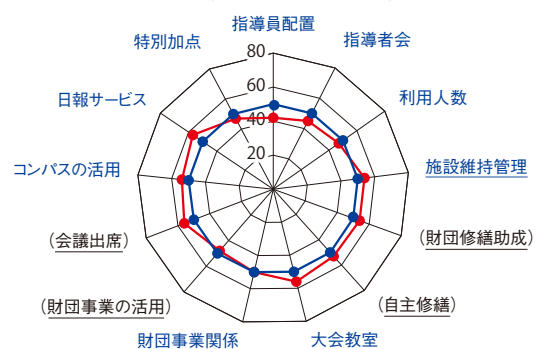
3 類（艇庫・体育館）



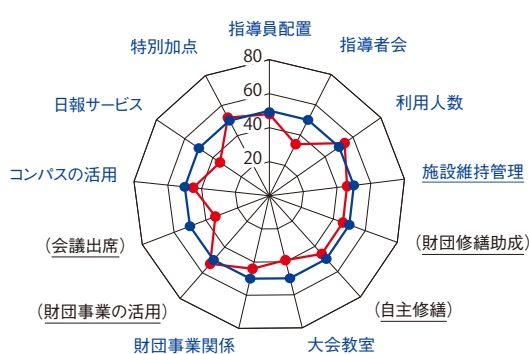
1 類（艇庫）



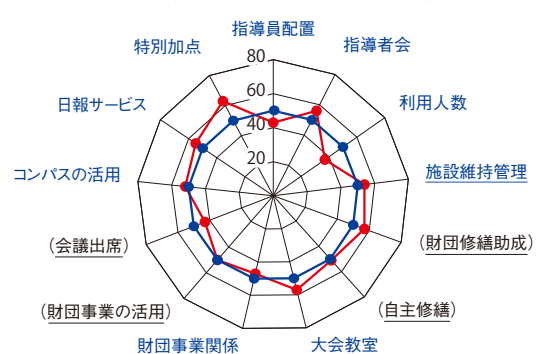
4 類（プール・体育館）



1 類合計



5 類（艇庫・プール・体育館）



3. 利用者人数

(1) 海洋センター利用者数（施設別傾向）

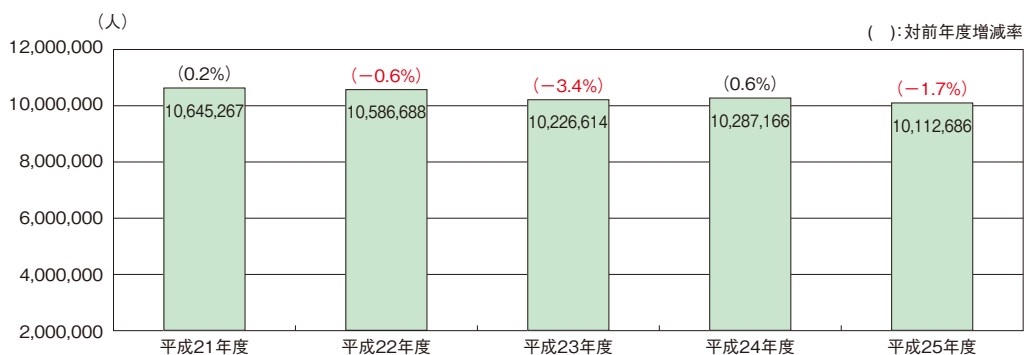
ア. 施設全体

平成25年度は前年度より約17万4千人（－1.7％）の減少となった。平成25年度の利用状況を総括すると、悪天候の影響により、艇庫及び体育館の利用者人数は減少したが、プールの利用者人数は昨年を大幅に上回った。

★★★ 総利用者人数の推移 ★★★

（平成26年4月25日集計）

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用者人数	10,645,267	10,586,688	10,226,614	10,287,166	10,112,686
増減数 （率）	23,445 (0.2%)	－58,579 (－0.6%)	－360,074 (－3.4%)	60,552 (0.6%)	－174,480 (－1.7%)

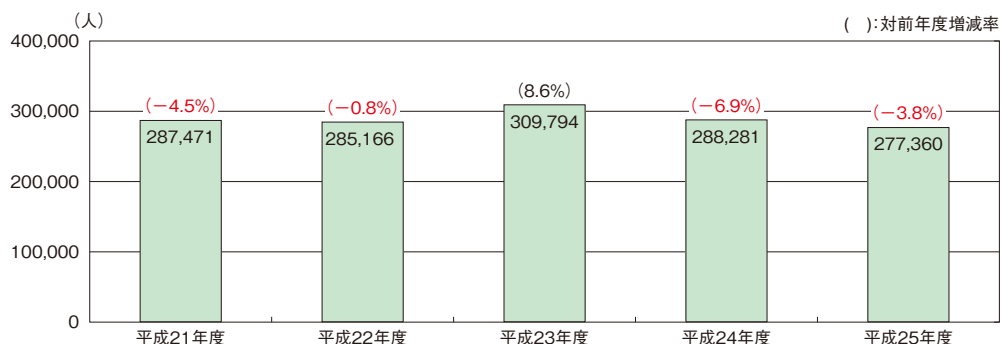


イ. 艇庫

平成25年度は前年度より約1万1千人（－3.8％）の減少となった。全国の海洋センターでは、平成21年度からライフジャケット浮遊体験等の“水辺の安全教室”を実施しており、年々同教室への参加者数が増加しているが、悪天候等の影響による大会・イベントの中止等が艇庫利用の減少につながったものと思われる。

★★★ 艇庫利用人数の推移 ★★★

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用者人数	287,471	285,166	309,794	288,281	277,360
増減数 （率）	－13,630 (－4.5%)	－2,305 (－0.8%)	24,628 (8.6%)	－21,513 (－6.9%)	－10,921 (－3.8%)



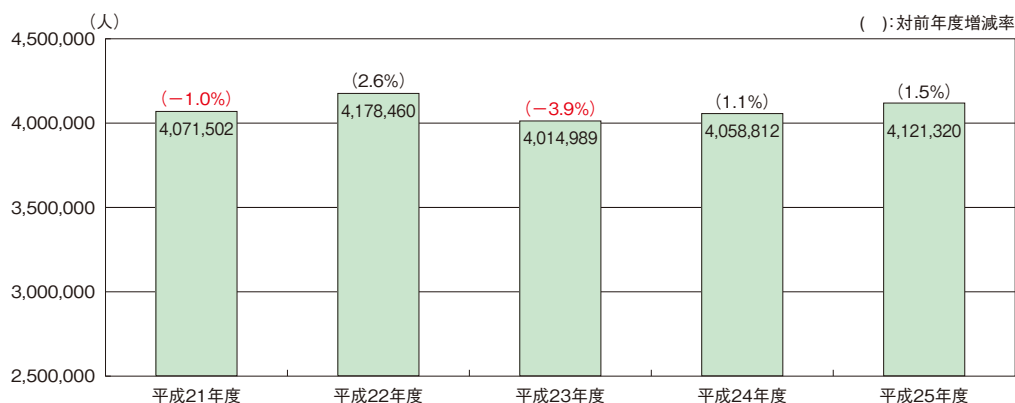
ウ. プール

平成25年度は前年度を約6万3千人（+1.5%）上回り、増加となった。

この大きな要因は、鹿児島県・長野県及び兵庫県の一般利用者人数が合計で約7万6千人増加したことなどが挙げられる。

★★★ プール利用人数の推移 ★★★

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用者人数	4,071,502	4,178,460	4,014,989	4,058,812	4,121,320
増減数 (率)	-39,688 (-1.0%)	106,958 (2.6%)	-163,471 (-3.9%)	43,823 (1.1%)	62,508 (1.5%)



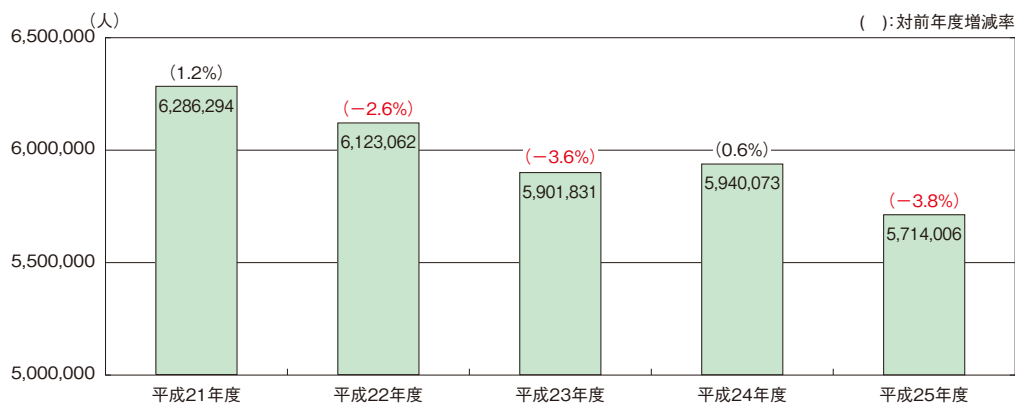
エ. 体育館

平成25年度は前年度を約22万6千人（-3.8%）の減少となった。

要因としては、大会、教室の利用が北海道・広島県・福岡県の3県合計で11万4千人減少したことが挙げられる。

★★★ 体育館利用人数の推移 ★★★

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
利用者人数	6,286,294	6,123,062	5,901,831	5,940,073	5,714,006
増減数 (率)	76,763 (1.2%)	-163,232 (-2.6%)	-221,231 (-3.6%)	38,242 (0.6%)	-226,067 (-3.8%)



(2) 海洋センター利用者数（ブロック別傾向）

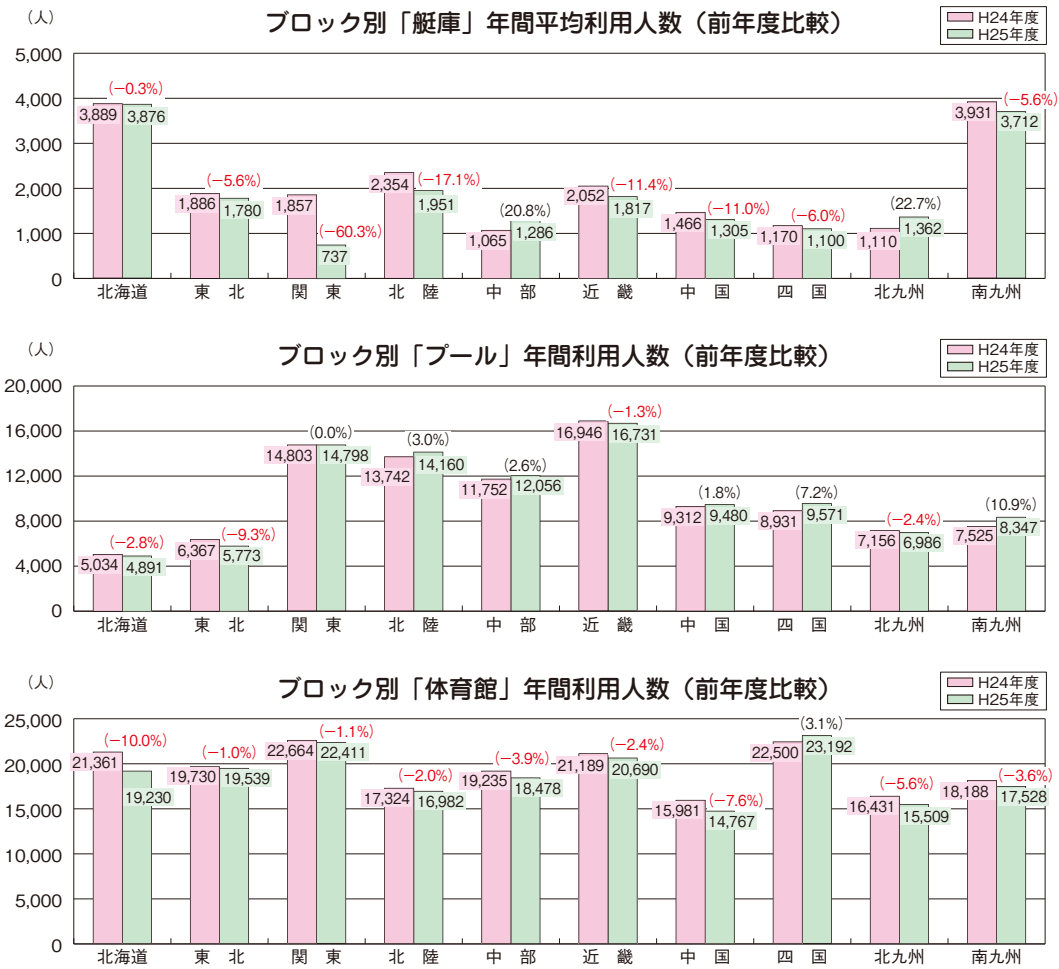
平成25年度の海洋センター利用人数について、施設別の年間平均利用人数の高い上位ブロックは次のとおり。

“年間平均利用人数” および “対前年度増加率” 上位3ブロック

施 設	年間平均利用人数			対前年度増減率		
艇 庫	南九州	北海道	北 陸	中 部	近 畿	北海道
プ ール	近 畿	関 東	北 陸	北九州	南九州	北 陸
体育館	関 東	四 国	北海道	東 北	南九州	関 東

※数値は1施設の年間平均
ブロック別 施設別 年間平均利用人数（前年度比較）

ブロック	艇 庫			プ ール			体育館		
	利用人数		増減率	利用人数		増減率	利用人数		増減率
	H24年度	H25年度		H24年度	H25年度		H24年度	H25年度	
北海道	3,889	3,876	-0.3%	5,034	4,891	-2.8%	21,361	19,230	-10.0%
東 北	1,886	1,780	-5.6%	6,367	5,773	-9.3%	19,730	19,539	-1.0%
関 東	1,857	737	-60.3%	14,803	14,798	0.0%	22,664	22,411	-1.1%
北 陸	2,354	1,951	-17.1%	13,742	14,160	3.0%	17,324	16,982	-2.0%
中 部	1,065	1,286	20.8%	11,752	12,056	2.6%	19,235	18,478	-3.9%
近 畿	2,052	1,817	-11.4%	16,946	16,731	-1.3%	21,189	20,690	-2.4%
中 国	1,466	1,305	-11.0%	9,312	9,480	1.8%	15,981	14,767	-7.6%
四 国	1,170	1,100	-6.0%	8,931	9,571	7.2%	22,500	23,192	3.1%
北九州	1,110	1,362	22.7%	7,156	6,986	-2.4%	16,431	15,509	-5.6%
南九州	3,931	3,712	-5.6%	7,525	8,347	10.9%	18,188	17,528	-3.6%
全国平均	2,016	1,913	-5.1%	10,275	10,407	1.3%	19,162	18,492	-3.5%



4. 利用者数の各種統計データ（詳細）

（1）平成25年度 施設別・道府県別 年間利用者数（前年度比較）

※H26年4月25日集計（単位：人）

ブロック・道府県	人口	艇庫			プール			体育館			合計		
		24年度	25年度	増減	24年度	25年度	増減	24年度	25年度	増減	24年度	25年度	増減
北海道	545,772	38,885	38,764	-121	145,993	141,833	-4,160	469,945	403,840	-66,105	654,823	584,437	-70,386
北海道ブロック	545,772	38,885	38,764	-121	145,993	141,833	-4,160	469,945	403,840	-66,105	654,823	584,437	-70,386
青森県	444,339	1,701	2,587	886	42,025	40,705	-1,320	101,626	121,883	20,257	145,352	165,175	19,823
岩手県	851,246	13,430	12,872	-558	74,880	68,499	-6,381	88,537	75,357	-13,180	176,847	156,728	-20,119
宮城県	1,608,142	11,905	10,256	-1,649	38,073	35,465	-2,608	224,133	219,251	-4,882	274,111	264,972	-9,139
秋田県	821,064	1,621	1,275	-346	101,813	96,298	-5,515	132,234	126,133	-6,101	235,668	223,706	-11,962
山形県	116,062	1,083	1,344	261	3,829	3,606	-223	30,578	31,276	698	35,490	36,226	736
福島県	178,552	435	141	-294	38,650	32,548	-6,102	73,971	70,874	-3,097	113,056	103,563	-9,493
東北ブロック	4,019,405	30,175	28,475	-1,700	299,270	277,121	-22,149	651,079	644,774	-6,305	980,524	950,370	-30,154
茨城県	430,959	101	102	1	54,362	49,423	-4,939	138,705	133,100	-5,605	193,168	182,625	-10,543
栃木県	370,684	0	0	0	128,820	138,990	10,170	28,284	38,354	10,070	157,104	177,344	20,240
群馬県	85,567	178	171	-7	142,616	155,103	12,487	25,282	24,270	-1,012	168,076	179,544	11,468
埼玉県	561,405	0	0	0	96,702	91,539	-5,163	289,628	279,304	-10,324	386,330	370,843	-15,487
千葉県	365,691	7,150	4,149	-3,001	125,205	127,265	2,060	198,018	197,292	-726	330,373	328,706	-1,667
関東ブロック	1,814,306	7,429	4,422	-3,007	547,705	562,320	14,615	679,917	672,320	-7,597	1,235,051	1,239,062	4,011
新潟県	1,631,004	17,663	14,187	-3,476	120,400	119,588	-812	124,564	119,589	-4,975	262,627	253,364	-9,263
富山県	776,755	2,803	2,676	-127	102,065	100,959	-1,106	132,367	129,396	-2,971	237,235	233,031	-4,204
石川県	202,874	4,576	3,574	-1,002	122,736	121,006	-1,730	31,335	31,125	-210	158,647	155,705	-2,942
福井県	537,175	5,566	4,925	-641	135,753	139,886	4,133	144,838	144,440	-398	286,157	289,251	3,094
北陸ブロック	3,147,808	30,608	25,362	-5,246	480,954	481,439	485	433,104	424,550	-8,554	944,666	931,351	-13,315
山梨県	326,015	0	0	0	106,731	102,432	-4,299	69,623	62,130	-7,493	176,354	164,562	-11,792
長野県	975,425	1,485	929	-556	78,282	106,732	28,450	195,237	182,922	-12,315	275,004	290,583	15,579
岐阜県	377,716	5,868	8,788	2,920	85,476	87,219	1,743	269,774	257,198	-12,576	361,118	353,205	-7,913
静岡県	1,637,772	2,342	3,182	840	282,918	271,212	-11,706	156,180	154,053	-2,127	441,440	428,447	-12,993
愛知県	474,606	683	56	-627	117,323	118,754	1,431	77,971	79,932	1,961	195,977	198,742	2,765
三重県	773,460	5,602	5,055	-547	104,931	109,366	4,435	231,449	224,635	-6,814	341,982	339,056	-2,926
中部ブロック	4,564,994	15,980	18,010	2,030	775,661	795,715	20,054	1,000,234	960,870	-39,364	1,791,875	1,774,595	-17,280
滋賀県	473,156	10,007	10,219	212	236,064	234,233	-1,831	115,558	105,898	-9,660	361,629	350,350	-11,279
京都府	74,728	16,485	11,307	-5,178	16,200	13,728	-2,472	62,235	58,759	-3,476	94,920	83,794	-11,126
大阪府	866,945	272	478	206	27,678	29,964	2,286	62,324	59,071	-3,253	90,274	89,513	-761
兵庫県	1,139,776	2,803	4,191	1,388	293,327	312,071	18,744	306,862	310,856	3,994	602,992	627,118	24,126
奈良県	5,805	1,067	873	-194	3,722	3,468	-254	0	0	0	4,789	4,341	-448
和歌山県	124,279	142	187	45	49,999	59,045	9,046	25,128	24,034	-1,094	75,269	83,266	7,997
近畿ブロック	2,684,689	30,776	27,255	-3,521	626,990	652,509	25,519	572,107	558,618	-13,489	1,229,873	1,238,382	8,509
鳥取県	271,230	5,090	5,824	734	24,400	22,766	-1,634	85,836	82,362	-3,474	115,326	110,952	-4,374
島根県	515,348	12,915	10,912	-2,003	71,600	69,782	-1,818	77,943	82,289	4,346	162,458	162,983	525
岡山県	1,226,996	5,623	3,770	-1,853	182,662	186,610	3,948	185,863	173,731	-12,132	374,148	364,111	-10,037
広島県	832,205	7,643	7,418	-225	108,295	112,786	4,491	209,033	184,547	-24,486	324,971	304,751	-20,220
山口県	269,685	2,439	2,090	-349	13,445	6,211	-7,234	80,555	67,755	-12,800	96,439	76,056	-20,383
中国ブロック	3,115,464	33,710	30,014	-3,696	400,402	398,155	-2,247	639,230	590,684	-48,546	1,073,342	1,018,853	-54,489
徳島県	383,077	2,636	2,689	53	64,820	62,119	-2,701	118,597	121,223	2,626	186,053	186,031	-22
香川県	619,914	6,222	5,752	-470	38,515	37,193	-1,322	180,178	191,385	11,207	224,915	234,330	9,415
愛媛県	845,556	2,837	2,558	-279	96,194	107,972	11,778	118,627	127,718	9,091	217,658	238,248	20,590
高知県	55,899	0	0	0	32,676	32,001	-675	32,599	23,519	-9,080	65,275	55,520	-9,755
四国ブロック	1,904,446	11,695	10,999	-696	232,205	239,285	7,080	450,001	463,845	13,844	693,901	714,129	20,228
福岡県	890,114	3,291	2,847	-444	125,879	116,359	-9,520	248,705	224,964	-23,741	377,875	344,170	-33,705
佐賀県	109,820	7,024	6,449	-575	40,288	37,691	-2,597	50,003	58,608	8,605	97,315	102,748	5,433
長崎県	448,152	4,346	3,921	-425	28,405	28,322	-83	120,659	112,323	-8,336	153,410	144,566	-8,844
大分県	457,717	7,539	14,028	6,489	91,674	90,066	-1,608	188,575	177,928	-10,647	287,788	282,022	-5,766
北九州ブロック	1,905,803	22,200	27,245	5,045	286,246	272,438	-13,808	607,942	573,823	-34,119	916,388	873,506	-42,882
熊本県	1,080,052	3,163	3,742	579	66,654	74,150	7,496	210,196	196,658	-13,538	280,013	274,550	-5,463
宮崎県	462,030	105	193	88	7,678	8,186	508	19,301	18,577	-724	27,084	26,956	-128
鹿児島県	700,833	7,508	9,716	2,208	132,120	161,215	29,095	163,117	170,551	7,434	302,745	341,482	38,737
沖縄県	262,887	56,047	53,163	-2,884	56,934	56,954	20	43,900	34,896	-9,004	156,881	145,013	-11,868
南九州ブロック	2,505,802	66,823	66,814	-9	263,386	300,505	37,119	436,514	420,682	-15,832	766,723	788,001	21,278
合 計	26,208,489	288,281	277,360	-10,921	4,058,812	4,121,320	62,508	5,940,073	5,714,006	-226,067	10,287,166	10,112,686	-174,480

※プール利用人数は多目的フロア利用を含む人数

(2) 平成25年度 海洋センター施設別利用者数（ベスト50）

平成26年4月3日集計

施設数は閉鎖を除く（単位：人）

艇 庫 144ヵ所				通年型温水プール（屋内・上屋加温）108ヵ所				期間限定プール（上屋・屋外）287ヵ所				体育館 322ヵ所			
順位	センター名	県名	利用人数	順位	センター名	道府県名	利用人数	順位	センター名	道府県名	利用人数	順位	センター名	道府県名	利用人数
1	本部町	沖縄県	52,931	1	芦屋市	兵庫県	129,101	1	磐田市竜洋	静岡県	27,743	1	上郡町	兵庫県	89,938
2	滝川市	北海道	18,004	2	坂井市丸岡	福井県	123,476	2	堺市美原	大阪府	23,761	2	徳島市	徳島県	82,459
3	豊後高田市真玉	大分県	13,538	3	芳賀町	栃木県	110,636	3	南房総市千倉	千葉県	11,713	3	久喜市栗橋	埼玉県	76,337
4	花巻市東和	岩手県	12,872	4	袋井市袋井	静岡県	89,733	4	亶理町	宮城県	11,215	4	可児市	岐阜県	68,240
5	宮津市	京都府	10,777	5	玉村町	群馬県	86,830	5	あさぎり町免田	熊本県	11,199	5	鶴ヶ島市	埼玉県	60,117
6	室蘭市	北海道	9,463	6	猪名川町	兵庫県	84,528	6	高山市国府	岐阜県	10,882	6	高松市国分寺	香川県	56,156
7	阿賀町津川	新潟県	8,655	7	白山市鶴来	石川県	81,505	7	徳島市	徳島県	10,857	7	石狩市	北海道	51,137
8	八百津町	岐阜県	8,067	8	豊川市小坂井	愛知県	75,759	8	御嵩町	岐阜県	10,436	8	菰野町	三重県	50,784
9	加美町中新田	宮城県	7,758	9	白岡市	埼玉県	72,168	9	いちき串木野市	鹿児島県	10,271	9	松伏町	埼玉県	45,691
10	砂川市	北海道	6,038	10	富山市八尾	富山県	71,346	10	新潟市新津	新潟県	10,211	10	柳川市大和	福岡県	45,451
11	近江八幡市安土	滋賀県	5,675	11	日置市東市来	鹿児島県	70,042	11	熊本市城南	熊本県	9,990	11	白馬村	長野県	42,788
12	美浜町	福井県	4,699	12	浜松市天竜	静岡県	68,313	12	田村市滝根	福島県	9,834	12	弘前市	青森県	42,542
13	胎内市中条	新潟県	4,674	13	井原市井原	岡山県	68,221	13	斜里町	北海道	9,781	13	時津町	長崎県	42,234
14	神埼市	佐賀県	4,333	14	高島市高島	滋賀県	65,390	14	小野町	福島県	9,753	14	野洲市中主	滋賀県	41,950
15	呉市蒲刈	広島県	4,196	15	明和町	群馬県	59,683	15	浅口市寄島	岡山県	9,723	15	愛南町御荘	愛媛県	41,616
16	三豊市高瀬	香川県	4,192	16	松本市波田	長野県	56,808	16	久留米市三瀬	福岡県	9,719	16	香美町香住	兵庫県	41,557
17	松江市松江	島根県	3,935	17	府中市	広島県	51,747	17	川辺町	岐阜県	9,688	17	小野町	福島県	39,673
18	野洲市中主	滋賀県	3,769	18	高島市今津	滋賀県	50,891	18	湯前町	熊本県	9,410	18	能代市	秋田県	39,576
19	与論町	鹿児島県	3,763	19	朝倉市甘木	福岡県	48,836	19	信濃山形村	長野県	9,213	19	いちき串木野市	鹿児島県	38,668
20	香取市小見川	千葉県	3,656	20	松江市穴道	島根県	47,882	20	雲南市加茂	島根県	9,148	20	玉名市岱明	熊本県	38,533
21	七尾市	石川県	3,531	21	横芝光町光	千葉県	47,107	21	軽米町	岩手県	9,009	21	長島町	鹿児島県	38,416
22	大台町	三重県	3,520	22	甲賀市甲賀	滋賀県	43,403	22	瀬戸内市長船	岡山県	8,926	22	牧之原市相良	静岡県	37,549
23	美郷町邑智	島根県	3,508	23	にかほ市象潟	秋田県	41,100	23	みやま市瀬高	福岡県	8,835	23	日置市東市来	鹿児島県	36,676
24	鳥取市	鳥取県	3,043	24	名護市	沖縄県	38,053	24	浅口市鶴方	岡山県	8,754	24	南アルプス市白根	山梨県	35,933
25	新温泉町浜坂	兵庫県	2,812	25	志賀町富来	石川県	36,977	25	佐世保市小佐々	長崎県	8,678	25	熊本市城南	熊本県	35,830
26	倉吉市関金	鳥取県	2,781	26	矢掛町	岡山県	36,463	26	三原市久井	広島県	8,450	26	高岡市福岡	富山県	35,546
27	砺波市	富山県	2,566	27	串本町	和歌山県	34,396	27	長浜市浅井	滋賀県	8,391	27	南砺市福野	富山県	35,304
28	佐世保市小佐々	長崎県	2,403	28	西条市丹原	愛媛県	34,076	28	甲斐市敷島	山梨県	8,258	28	東川町	北海道	34,498
29	小平町	北海道	2,361	29	愛南町御荘	愛媛県	33,053	29	可児市	岐阜県	8,192	29	北栄町北条	鳥取県	34,490
30	西ノ島町	島根県	2,149	30	西尾市一色	愛知県	31,750	30	高山市清見	岐阜県	8,154	30	西尾市一色	愛知県	34,131
31	太良町	佐賀県	2,097	31	燕市	新潟県	31,733	31	鬼北町広見	愛媛県	8,118	31	雲南市加茂	島根県	33,567
32	周防大島町	山口県	2,064	32	海陽町海南	徳島県	31,680	32	蔵王町	宮城県	7,765	32	いすみ市岬	千葉県	33,360
33	掛川市	静岡県	1,999	33	由布市挾間	大分県	31,636	33	時津町	長崎県	7,678	33	久万高原町久万	愛媛県	33,226
34	長島町	鹿児島県	1,865	34	浜松市三ヶ日	静岡県	31,356	34	菊池市泗水	熊本県	7,595	34	鳥取市	鳥取県	32,698
35	今治市大三島	愛媛県	1,807	35	上郡町	兵庫県	31,237	35	南関町	熊本県	7,568	35	今治市朝倉	愛媛県	32,425
36	尾道市向島	広島県	1,520	36	桑名市長島	三重県	30,932	36	十和田市	青森県	7,360	36	石岡市	茨城県	32,236
37	那賀町驚敷	徳島県	1,346	37	みやき町北茂安	佐賀県	29,833	37	志布志市有明	鹿児島県	7,324	37	淡路市東浦	兵庫県	31,972
38	酒田市平田	山形県	1,344	38	南アルプス市白根	山梨県	26,300	38	みやま市高田	福岡県	7,221	38	松江市松江	島根県	31,813
39	長洲町	熊本県	1,340	39	甲州市塩山	山梨県	25,386	39	奥州市前沢	岩手県	7,214	39	川崎町	宮城県	31,628
40	南さつま市坊津	鹿児島県	1,298	40	米原市山東	滋賀県	23,963	40	北栄町北条	鳥取県	7,100	40	穴水町	石川県	31,125
41	瀬戸内市邑久	岡山県	1,203	41	四万十町窪川	高知県	22,390	41	八郎潟町	秋田県	7,070	41	みやこ町豊津	福岡県	30,918
42	徳島市	徳島県	1,188	42	上越市頸城	新潟県	21,209	42	瀬戸内市邑久	岡山県	6,841	42	弘前市岩木	青森県	30,808
43	登米市中田	宮城県	1,136	43	鋸南町	千葉県	20,788	43	伊賀市大山田	三重県	6,821	43	御代田町	長野県	30,640
44	津奈木町	熊本県	1,128	44	一関市藤沢	岩手県	20,763	44	石狩市	北海道	6,790	44	仙台市泉	宮城県	30,391
45	鶴田町	青森県	1,067	45	高岡市福岡	富山県	19,571	45	さぬき市寒川	香川県	6,644	45	大野市	福井県	30,305
46	厚岸町	北海道	1,038	46	与論町	鹿児島県	18,099	46	一関市東山	岩手県	6,641	46	田布施町	山口県	30,064
47	阿久根市	鹿児島県	1,034	47	松崎町	静岡県	17,715	47	薩摩川内市樋脇	鹿児島県	6,606	47	坂井市春江	福井県	29,888
48	登米市迫	宮城県	994	48	亀山市関	三重県	17,630	48	宮津市	京都府	6,567	48	御前崎市	静岡県	29,311
49	磐田市竜洋	静岡県	920	49	阿久根市	鹿児島県	16,856	49	香取市山田	千葉県	6,462	49	富加町	岐阜県	29,172
50	時津町	長崎県	905	50	東広島市安芸津	広島県	16,316	50	牟岐町	徳島県	6,459	50	蔵王町	宮城県	28,502

(3) 海洋センター利用者数（利用形態別傾向）

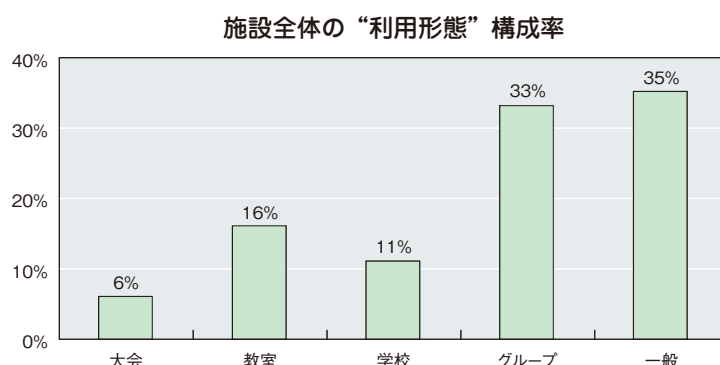
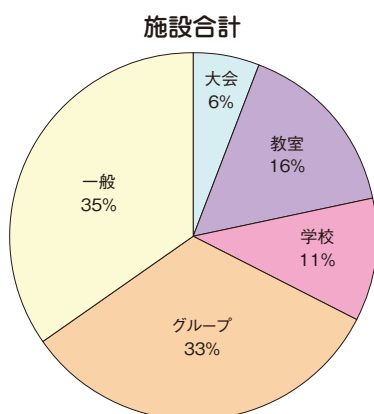
海洋センター利用者の傾向を“利用形態”別に見ると、「艇庫」は“学校利用”が多く、「温水プール」は“教室”と“一般利用”、「プール（温水以外）」は“学校”と“一般利用”、「体育館」では“グループ”の利用が多いなど、施設ごとの特徴が見られる。

また、各利用形態で最も利用構成率の高い施設は、「大会利用」が「体育館」、「教室利用」が「温水プール」、「学校利用」が「艇庫」、「グループ利用」が「体育館」、「一般利用」が「プール（温水以外）」となっており、例年同じ傾向が見られる。

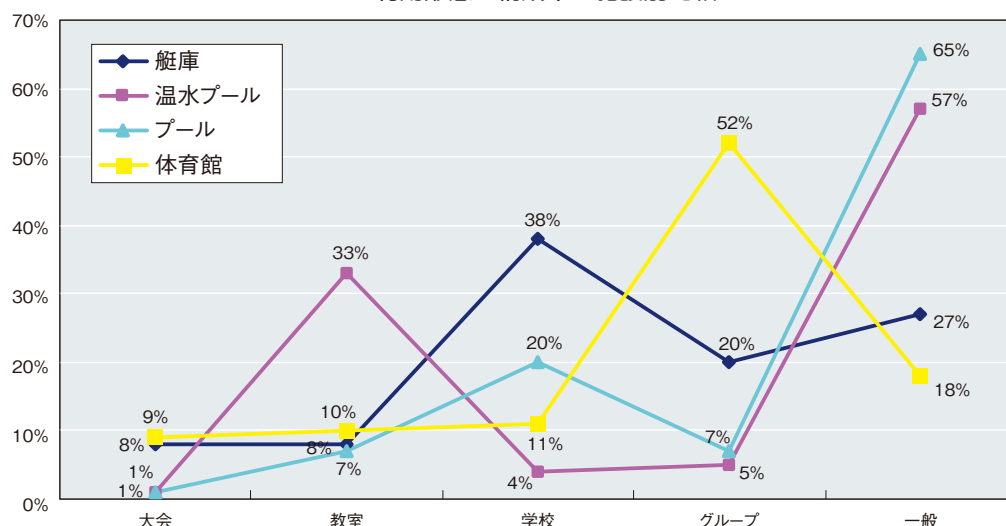
		大会	教室	学校	グループ	一般	合計
艇庫	人数	24,375	24,717	122,566	64,639	88,540	324,837
	比率	8%	8%	38%	20%	27%	100%
温水プール	人数	17,903	943,493	115,671	131,062	1,618,564	2,826,693
	比率	1%	33%	4%	5%	57%	100%
プール	人数	16,764	90,686	241,633	81,761	806,084	1,236,928
	比率	1%	7%	20%	7%	65%	100%
体育館	人数	506,862	547,342	636,203	3,021,739	1,047,713	5,759,859
	比率	9%	10%	11%	52%	18%	100%
合計	人数	565,904	1,606,238	1,116,073	3,299,201	3,560,901	10,148,317
	比率	6%	16%	11%	33%	35%	100%

※利用形態データ：プール多目的フロアの利用データを体育館に含め集計しているため、施設別利用人数と数値が異なる

☆☆☆☆☆☆ 施設別利用形態グラフ ☆☆☆☆☆☆



“利用形態”構成率の施設別比較



(4) 海洋センター利用形態（ブロック別傾向）

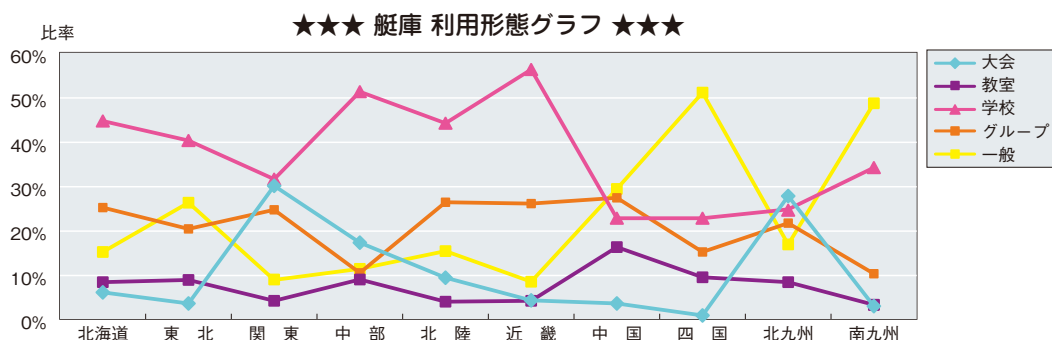
平成25年度の海洋センター利用人数について、施設ごとの各利用形態で最も高い利用傾向にあるブロックは次のとおり。

施設別・利用形態別“利用比率”の最も高いブロック

施設	大会	教室	学校	グループ	一般
艇庫	関東(30.2%)	中国(16.4%)	近畿(56.4%)	中国(27.5%)	四国(51.2%)
温水プール	南九州(1.8%)	近畿(45.8%)	北海道(21.3%)	北海道(21.8%)	四国(70.8%)
プール	中国(2.3%)	近畿(9.4%)	東北(31.9%)	南九州(12.0%)	南九州(71.6%)
体育館	北海道・東北(13.7%)	近畿(18.8%)	北九州(17.7%)	四国(59.8%)	関東(24.4%)

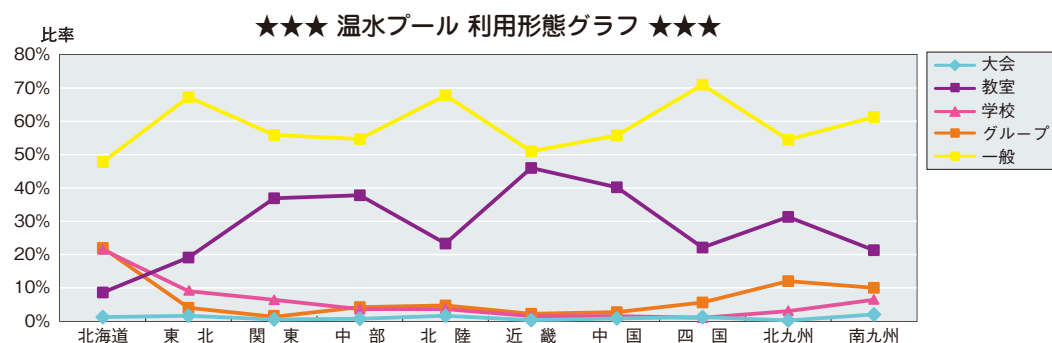
ア. 艇庫

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般	合計
北海道	6.2%	8.5%	44.8%	25.3%	15.3%	100%
東北	3.7%	9.0%	40.4%	20.5%	26.4%	100%
関東	30.2%	4.3%	31.7%	24.8%	9.0%	100%
中部	17.4%	9.1%	51.4%	10.6%	11.5%	100%
北陸	9.5%	4.1%	44.3%	26.5%	15.5%	100%
近畿	4.4%	4.3%	56.4%	26.2%	8.6%	100%
中国	3.7%	16.4%	22.9%	27.5%	29.5%	100%
四国	1.0%	9.6%	22.9%	15.3%	51.2%	100%
北九州	27.9%	8.5%	24.9%	21.8%	17.0%	100%
南九州	3.1%	3.4%	34.3%	10.4%	48.8%	100%
合計	7.5%	7.6%	37.7%	19.9%	27.3%	100%



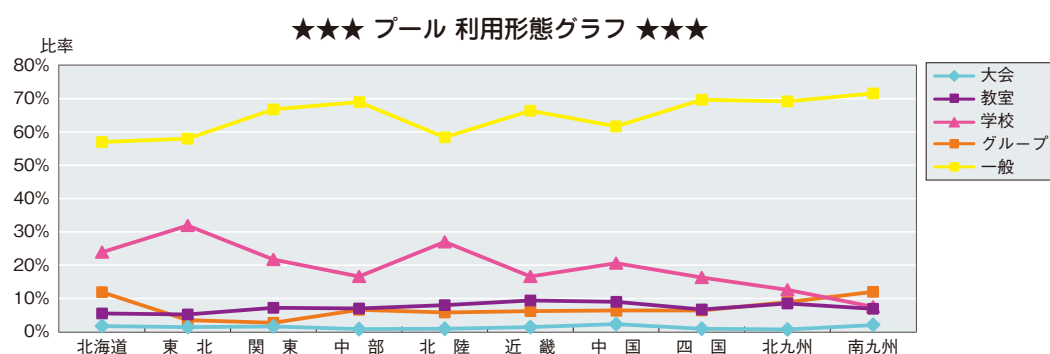
イ. 温水プール

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般	合計
北海道	1.0%	8.4%	21.3%	21.8%	47.6%	100%
東北	1.4%	18.9%	8.8%	3.8%	67.1%	100%
関東	0.3%	36.7%	6.2%	1.1%	55.7%	100%
中部	0.5%	37.6%	3.4%	4.0%	54.5%	100%
北陸	1.4%	23.1%	3.4%	4.5%	67.6%	100%
近畿	0.1%	45.8%	1.3%	2.0%	50.8%	100%
中国	0.6%	40.0%	1.3%	2.5%	55.6%	100%
四国	1.0%	21.9%	0.8%	5.4%	70.8%	100%
北九州	0.04%	31.1%	2.8%	11.8%	54.3%	100%
南九州	1.8%	21.1%	6.2%	9.8%	61.1%	100%
合計	0.6%	33.4%	4.1%	4.6%	57.3%	100%



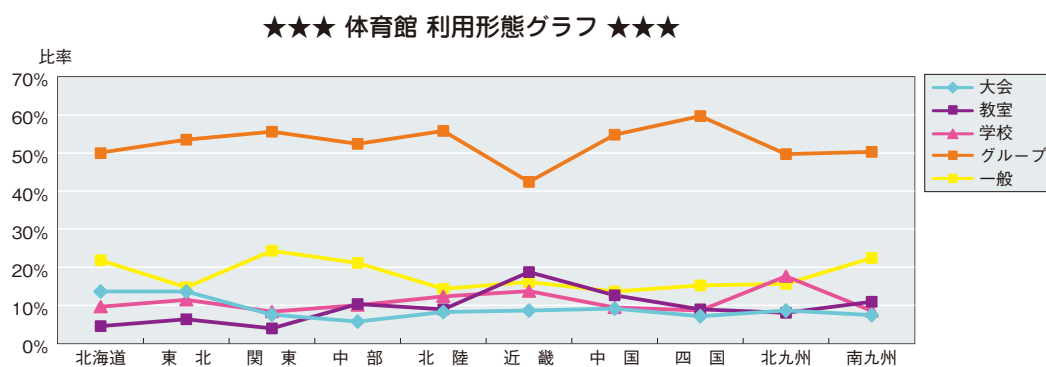
ウ. プール（上屋付および屋外プール）

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般	合計
北海道	1.7%	5.5%	23.9%	11.9%	57.0%	100%
東北	1.4%	5.2%	31.9%	3.5%	58.0%	100%
関東	1.6%	7.2%	21.7%	2.7%	66.8%	100%
中部	0.8%	7.0%	16.6%	6.6%	69.0%	100%
北陸	0.9%	8.0%	27.0%	5.8%	58.4%	100%
近畿	1.4%	9.4%	16.6%	6.2%	66.4%	100%
中国	2.3%	9.0%	20.6%	6.4%	61.7%	100%
四国	0.9%	6.7%	16.3%	6.4%	69.7%	100%
北九州	0.7%	8.5%	12.6%	8.9%	69.2%	100%
南九州	2.0%	6.9%	7.5%	12.0%	71.6%	100%
合計	1.4%	7.3%	19.5%	6.6%	65.2%	100%



エ. 体育館

ブロック	大会	教室	学校	グループ	一般	合計
北海道	13.7%	4.6%	9.7%	50.2%	21.9%	100%
東北	13.7%	6.4%	11.5%	53.6%	14.8%	100%
関東	7.6%	4.0%	8.4%	55.7%	24.4%	100%
中部	5.8%	10.4%	10.1%	52.5%	21.2%	100%
北陸	8.3%	9.0%	12.4%	55.9%	14.4%	100%
近畿	8.7%	18.8%	13.8%	42.5%	16.2%	100%
中国	9.2%	12.7%	9.5%	54.9%	13.7%	100%
四国	7.2%	9.0%	8.7%	59.8%	15.3%	100%
北九州	8.7%	8.1%	17.7%	49.8%	15.7%	100%
南九州	7.5%	11.0%	8.6%	50.4%	22.5%	100%
合計	8.8%	9.5%	11.0%	52.5%	18.2%	100%



(5) 海洋センター施設別・利用形態別利用人数（ベスト10）

平成26年4月25日集計（単位：人）

利用形態	順位	艇庫			通年型温水プール（屋内・上屋加温）			期間限定プール（上屋・屋外）			体育館		
		センター名	県名	利用人数	センター名	県名	利用人数	センター名	県名	利用人数	センター名	県名	利用人数
大会	1	豊後高田市真玉	大分県	7,376	富山市八尾	富山県	4,216	伯耆町岸本	鳥取県	1,012	上郡町	兵庫県	25,466
	2	砺波市	富山県	2,000	日置市東市来	鹿児島県	1,210	南阿蘇村白水	熊本県	596	小野町	福島県	21,410
	3	滝川市	北海道	1,360	四万十町窪川	高知県	1,131	上越市安塚	新潟県	503	石狩市	北海道	12,776
	4	長島町	鹿児島県	1,228	与論町	鹿児島県	1,044	磐田市竜洋	静岡県	500	岩見沢市栗沢	北海道	10,681
	5	掛川市	静岡県	1,136	府中市	広島県	939	久万高原町久万	愛媛県	486	吉見町	埼玉県	9,970
	6	花巻市東和	岩手県	877	白山市鶴来	石川県	875	周防大島町	山口県	430	弘前市	青森県	9,913
	7	大台町	三重県	800	西尾市一色	愛知県	803	香取市山田	千葉県	410	中津川市付知	岐阜県	7,427
	8	野洲市中主	滋賀県	765	大紀町大内山	三重県	694	薩摩川内市樋脇	鹿児島県	409	川崎町	宮城県	7,413
	9	加美町中新田	宮城県	741	岩泉町	岩手県	639	奥州市前沢	岩手県	400	大船渡市三陸	岩手県	6,270
	10	砂川市	北海道	633	阿久根市	鹿児島県	470	清須市春日	愛知県	400	香美町香住	兵庫県	6,007
教室	1	弘前市	青森県	3,287	芳賀町	栃木県	54,570	堺市美原	大阪府	4,600	上郡町	兵庫県	20,855
	2	室蘭市	北海道	2,846	芦屋市	兵庫県	49,775	美郷町邑智	島根県	3,888	豊岡市出石	兵庫県	17,663
	3	美郷町邑智	島根県	1,253	袋井市袋井	静岡県	48,263	小美玉市玉里	茨城県	2,539	雲南市加茂	島根県	17,559
	4	三豊市高瀬	香川県	1,227	府中市	広島県	44,627	雲南市加茂	島根県	2,228	菰野町	三重県	17,519
	5	倉吉市関金	鳥取県	867	猪名川町	兵庫県	44,381	鹿屋市串良	鹿児島県	2,178	南アルプス市白根	山梨県	13,872
	6	能代市	秋田県	553	玉村町	群馬県	43,942	鹿島市	佐賀県	1,971	甲賀市甲賀	滋賀県	12,613
	7	みやこ町犀川	福岡県	518	富山市八尾	富山県	35,209	香美町香住	兵庫県	1,615	穴栗市波賀	兵庫県	10,752
	8	南さつま市坊津	鹿児島県	512	浜松市天竜	静岡県	29,260	佐世保市小佐々	長崎県	1,396	南あわじ市南淡	兵庫県	10,343
	9	東広島市黒瀬	広島県	506	高島市高島	滋賀県	29,222	尾道市瀬戸田	広島県	1,380	香美町香住	兵庫県	10,268
	10	尾道市瀬戸田	広島県	465	松本市波田	長野県	27,871	蔵王町	宮城県	1,375	宇城市三角	熊本県	9,607
学校	1	本部町	沖縄県	21,361	西尾市一色	愛知県	6,921	軽米町	岩手県	7,801	白馬村	長野県	31,203
	2	弘前市	青森県	17,362	小美玉市小川	茨城県	6,143	山形村	長野県	6,731	日田市中津江	大分県	19,705
	3	滝川市	北海道	11,315	那須烏山市南那須	栃木県	5,487	亘理町	宮城県	6,082	香取市山田	千葉県	17,240
	4	宮津市	京都府	8,723	芳賀町	栃木県	5,486	瀬戸内市長船	岡山県	5,622	野洲市中主	滋賀県	16,928
	5	加美町中新田	宮城県	6,781	東川町	北海道	4,852	高山市国府	岐阜県	5,302	広川町	和歌山県	16,080
	6	八百津町	岐阜県	6,687	与論町	鹿児島県	3,974	堺市美原	大阪府	4,211	東川町	北海道	15,336
	7	豊後高田市真玉	大分県	5,884	燕市	新潟県	3,941	氷見市	富山県	4,136	玉名市岱明	熊本県	14,961
	8	近江八幡市安土	滋賀県	5,509	富山市八尾	富山県	3,487	八郎潟町	秋田県	3,650	平戸市生月	長崎県	14,093
	9	阿賀町津川	新潟県	4,715	名護市	沖縄県	2,780	盛岡市玉山	岩手県	3,619	宮津市	京都府	12,668
	10	砂川市	北海道	4,302	大樹町	北海道	2,572	男鹿市	秋田県	3,602	奥州市前沢	岩手県	12,212
グループ	1	弘前市	青森県	9,788	阿久根市	鹿児島県	13,584	南関町	熊本県	3,781	徳島市	徳島県	70,613
	2	阿賀町津川	新潟県	3,940	みやき町北茂安	佐賀県	10,609	斜里町	北海道	3,715	高松市国分寺	香川県	49,851
	3	室蘭市	北海道	3,783	富山市八尾	富山県	7,329	宮津市	京都府	3,617	鶴ヶ島市	埼玉県	45,189
	4	本部町	沖縄県	3,656	燕市	新潟県	6,961	掛川市大東	静岡県	3,273	松伏町	埼玉県	40,238
	5	神埼市	佐賀県	3,620	上富良野町	北海道	6,586	津山市加茂	岡山県	2,580	能代市	秋田県	34,488
	6	野洲市中主	滋賀県	2,664	四万十町窪川	高知県	5,665	南島原市加津佐	長崎県	2,449	時津町	長崎県	34,384
	7	滝川市	北海道	2,624	志摩市浜島	三重県	5,296	宮崎市田野	宮崎県	2,404	牧之原市相良	静岡県	33,498
	8	鳥取市	鳥取県	2,406	大紀町大内山	三重県	4,764	志布志市有明	鹿児島県	2,113	可児市	岐阜県	32,518
	9	新温泉町浜坂	兵庫県	1,612	高島市高島	滋賀県	4,757	佐伯市弥生	大分県	2,060	いすみ市岬	千葉県	31,693
	10	小平町	北海道	1,470	美幌町	北海道	4,756	北杜市小淵沢	山梨県	1,953	熊本市城南	熊本県	30,835
一般	1	本部町	沖縄県	27,914	坂井市丸岡	福井県	96,736	磐田市竜洋	静岡県	26,509	久喜市栗橋	埼玉県	54,391
	2	花巻市東和	岩手県	9,758	芦屋市	兵庫県	79,215	堺市美原	大阪府	14,950	長島町	鹿児島県	32,388
	3	弘前市	青森県	5,931	白山市鶴来	石川県	69,707	南房総市千倉	千葉県	10,767	御前崎市	静岡県	28,346
	4	松江市松江	島根県	3,112	白岡市	埼玉県	59,706	徳島市	徳島県	10,083	可児市	岐阜県	26,945
	5	与論町	鹿児島県	2,996	豊川市小坂井	愛知県	59,615	いちき串木野市串木野	鹿児島県	10,068	石狩市	北海道	22,847
	6	室蘭市	北海道	2,642	井原市井原	岡山県	58,756	あさぎり町免田	熊本県	9,553	南アルプス市白根	山梨県	22,061
	7	滝川市	北海道	2,373	芳賀町	栃木県	50,309	熊本市城南	熊本県	9,311	鶴ヶ島市	埼玉県	18,083
	8	美浜町	福井県	2,120	日置市東市来	鹿児島県	46,069	久留米市三瀬	福岡県	8,879	大野市	福井県	15,852
	9	太良町	佐賀県	1,954	明和町	群馬県	44,796	新潟市新津	新潟県	8,781	三木町	香川県	15,533
	10	西ノ島町	島根県	1,949	玉村町	群馬県	44,241	浅口市鴨方	岡山県	8,718	笠間市岩間	茨城県	15,212

海洋クラブの運営・活動状況

1. 海洋クラブの活動状況

全国281ヵ所（平成25年3月末）のB&G海洋クラブは、海洋センター（自治体）や民間の海洋性レクリエーション愛好者組織によって運営されており、地元の海や川、湖沼等の各々の水面で、子どもから大人までがカヌーやヨットなどの海洋性スポーツを楽しみ、B&G財団の基本理念である「海洋性レクリエーション活動を通じた青少年の健全育成」を推進している。

近年はクラブ員、クラブOB・OGから国体や世界大会等で活躍する選手も多数出ており、6年後の東京オリンピックに向けての活躍が、今後大いに期待されている。

～ 活動日数の増加により活動人数増加 ～

平成25年度は、平成24年度から引き続き「B&G海洋クラブの努力目標」として掲げた「活動日数の増加」「活動人数の増加」が達成された。

夏場の海洋性レクリエーションだけでなく、オフシーズン中に陸上スポーツや交流活動などのクラブ行事、正月飾りやお祭りなどの地域文化活動等、多彩な活動を取り入れたことによるものと思われる。

「活動日数」については更に増え、昨年対比750日増の11,062日。

「活動人数」についても活動日数に並行し、昨年対比14,806人増の216,010人にのぼっている。

少子化によりクラブ員数の増加が難しいことから、海洋クラブの努力による「活動日の増加」で「活動人数の増加」を実現している傾向にある。

～ 海洋クラブ員数は横ばい ～

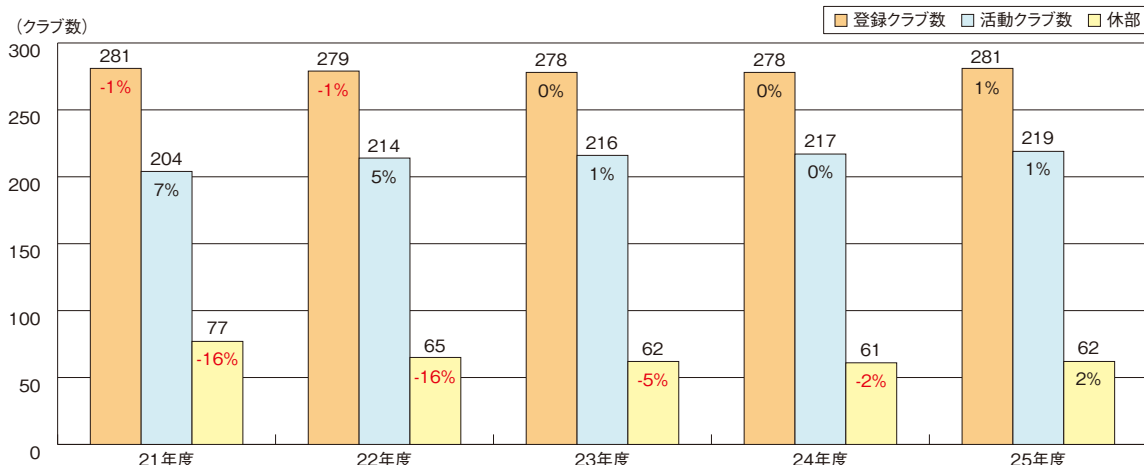
クラブ員の人数はこれまで減少傾向が続いていたが、平成24年度から「B&G海洋クラブの努力目標」として掲げた「クラブ員数の増加」により、募集活動に力を入れてもらったことで減少に歯止めがかかり、昨年対比で231人増の9,304人となっている。

各海洋クラブでは、クラブ員以外の対象者に対しても「水辺の安全教室」「海レク体験会」などの機会を提供しており、「活動日数の増加」に加え、この実施により「活動人数の増加」にも繋がったものと考えられる。

(1) 海洋クラブ数

海洋クラブ数の推移

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
登録クラブ	ヵ所数	281	279	278	278	281
	増減数（率）	-2（-1%）	-2（-1%）	-1（0%）	0（0%）	3（1%）
活動クラブ	ヵ所数	204	214	216	217	219
	増減数（率）	13（7%）	10（5%）	2（1%）	1（0%）	2（1%）
休部または未報告	ヵ所数	77	65	62	61	62
	増減数（率）	-15（-16%）	-12（-16%）	-3（-5%）	-1（-2%）	1（2%）

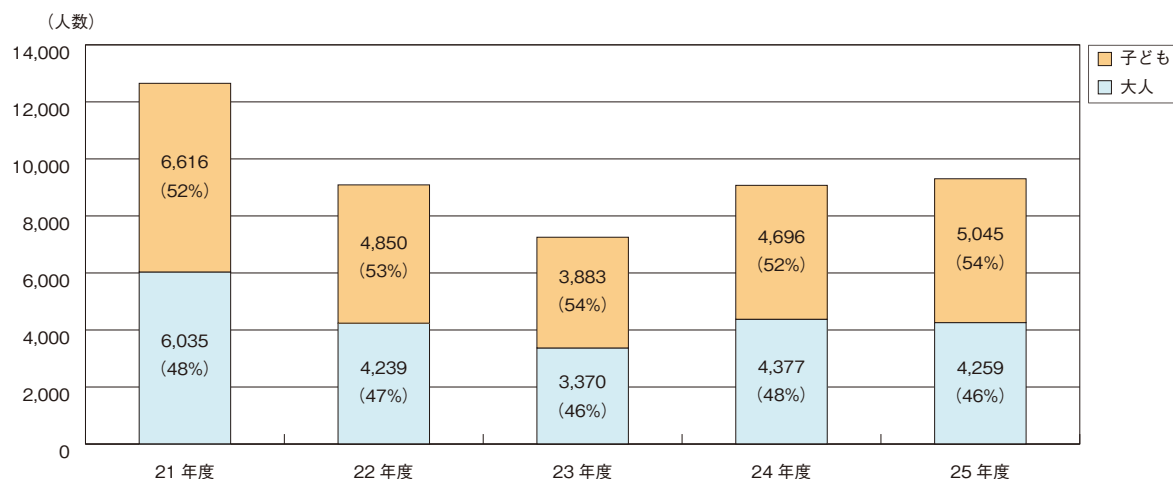


(2) 海洋クラブ員数

※大人：高校生以上

海洋クラブ員数の推移

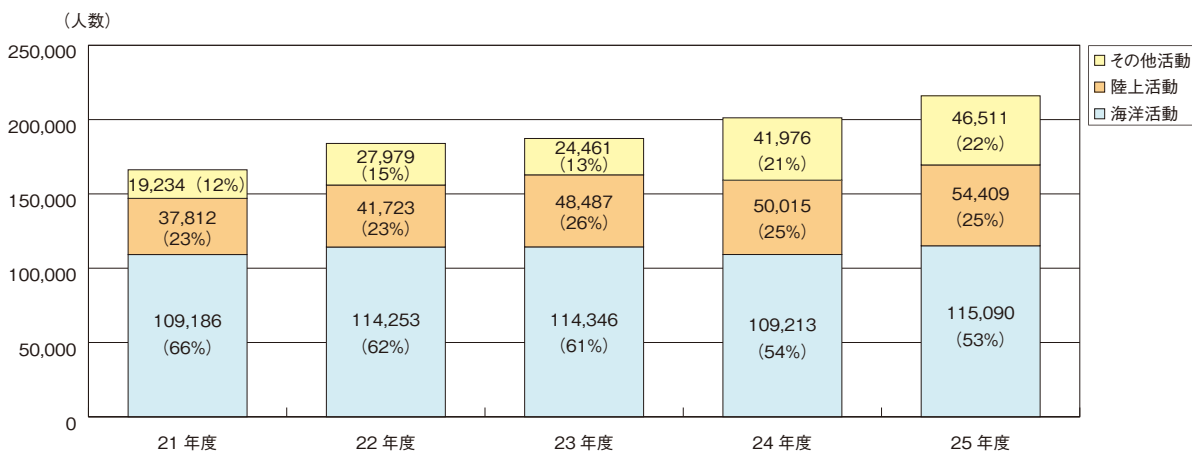
	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
子ども（構成率）	6,616(52%)	4,850(53%)	3,883(54%)	4,696(52%)	5,045(54%)
大人（構成率）	6,035(48%)	4,239(47%)	3,370(46%)	4,377(48%)	4,259(46%)
合 計	12,651	9,089	7,253	9,073	9,304
増減数（増減率）	1,063(9%)	-3,562(-28%)	-1,836(-20%)	1,820(25%)	231(3%)



(3) 海洋クラブ活動人数

海洋クラブ年間活動人数の推移

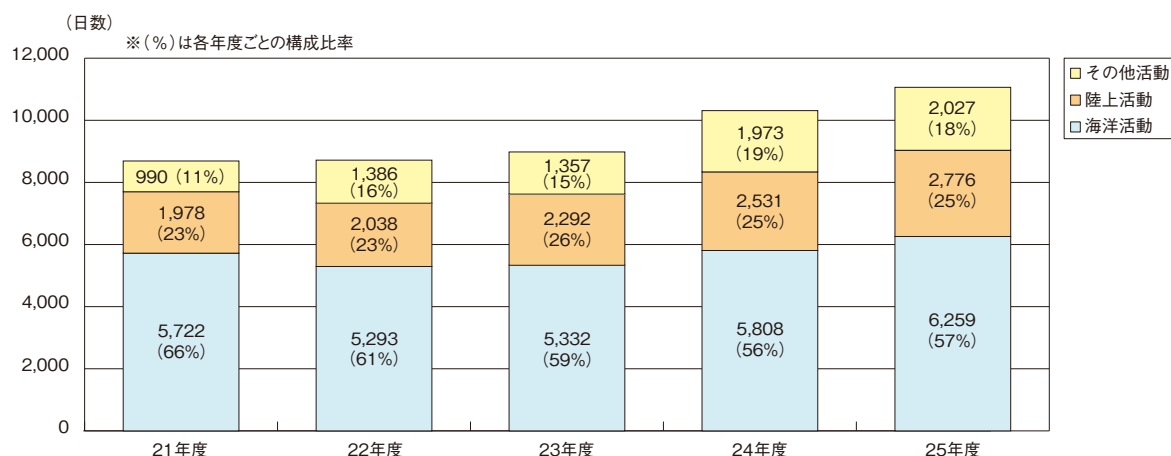
		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
その他の活動	人数	19,234	27,979	24,461	41,976	46,511
	増減数(率)	8,267(75%)	8,745(45%)	-3,518(-13%)	17,515(72%)	4,535(11%)
陸上活動	人数	37,812	41,723	48,487	50,015	54,409
	増減数(率)	7,596(25%)	3,911(10%)	6,764(16%)	1,528(3%)	4,394(9%)
海洋活動	人数	109,186	114,253	114,346	109,213	115,090
	増減数(率)	-15,504(-12%)	5,067(5%)	93(0%)	-5,133(-4%)	5,877(5%)
合 計	人数	166,232	183,955	187,294	201,204	216,010
	増減数(率)	359(0.2%)	17,723(11%)	3,339(2%)	13,811(7%)	14,806(7%)



(4) 海洋クラブ活動日数

海洋クラブ年間活動日数の推移

		21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
その他の活動	日数	990	1,386	1,357	1,973	2,027
	増減数(率)	540(120%)	396(40%)	-29 (-2%)	616 (45%)	54 (3%)
陸上活動	日数	1,978	2,038	2,292	2,531	2,776
	増減数(率)	259(15%)	60(3%)	254 (12%)	239 (10%)	245 (10%)
海洋活動	日数	5,722	5,293	5,332	5,808	6,259
	増減数(率)	764(15%)	-429(-7%)	39 (0.1%)	476 (9%)	451 (8%)
合 計	日数	8,690	8,717	8,981	10,312	11,062
	増減数(率)	1,563(17%)	27(0.3%)	264 (3%)	1,326 (15%)	750 (7%)



2. 海洋クラブ評価

B&G財団では、海洋クラブの活動を継続的、効率的、公正に支援するため、平成15年度から「海洋クラブ評価」を実施し公表している。

(評価方法)

「海洋クラブの運営・活動状況」のほか、「財団事業の活用」「大会・会議への参加状況」「海洋クラブの広報」「B&Gコンパスの活用状況」など、評価基準を設け総合的に評価している。

なお、H26年度の評価（平成25年度実績）については「教育長・責任者海洋センター・海洋クラブ活性化会議（配点3点）」が平成24年度で終了したため、経過措置として該当の評価項目を削除し、最高評価点を50点から47点に、基準点についても3点引き下げて対応した。

(評価対象期間)

前年度の実績を基に財団が定めた評価基準に照らして評価を行い、全海洋クラブ・海洋センターに公表する。

(評価の種類と財団支援等)

評価	点数範囲（47点満点）	財団支援・指導等
特A	42点以上	舟艇器材追加・再配備など、評価に応じた財団支援を行う
A	35点～41点	
B	22点～34点	
C	10点～21点	
D	9点以下	休部や活動が停滞している海洋クラブに対して、今後の活動促進のための協議を行う
E	休部・廃部検討	

海洋クラブ評価基準（概略）

評価項目と配点	評価対象	
クラブの活動状況 (18点)	①活動状況（活動日数）	
	クラブ組織	②指導者・運営組織
		③クラブ員
	④新規会員の募集	
	⑤クラブ員以外を対象とする事業	
活動の周知とPR (12点)	インターネットの活用 (B&Gコンパスの利用度)	⑥クラブHP・ブログ・Face Bookの開設
		⑦B&Gコンパスの利用
	⑧広報活動への取組み状況	
	⑨書類の提出状況（海洋クラブ活動状況資料など必須の報告資料）	
財団への協力 (上限10点) (上限7点)	⑩財団主催事業への参加	教育長・責任者・海洋センター・海洋クラブ活性化会議への参加 各種大会、各種講習会、クルーズ、セミナー、その他
	⑪財団支援事業の活用、実施	
その他加点 (10点)	⑫地域の大会（B&G財団主催以外）への参加・活躍	
	⑬他センター、他クラブとの交流事業の開催	
	⑭学校教育との連携	
	⑮地域活動への貢献	
	⑯その他特別加点（研修講師派遣・開催協力、OB・OGの活躍、特色のある活動、努力目標達成 など）	
合計50点 合計47点		

平成26年度「海洋クラブ評価」（H25年度実績）

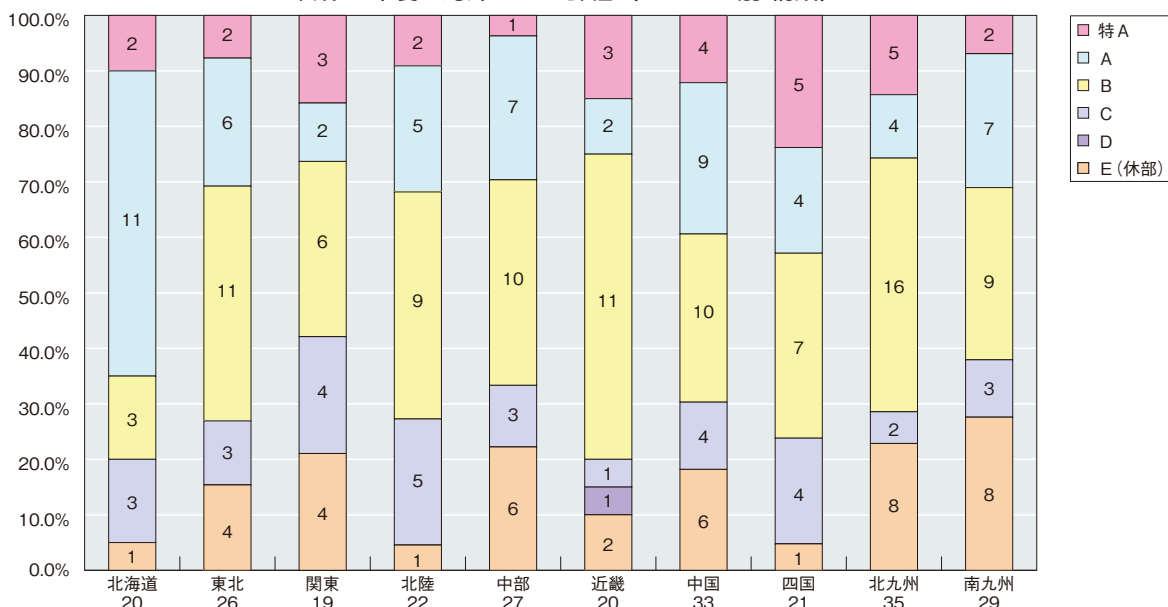
～ A評価の海洋クラブが大幅に増加 ～

平成25年度 海洋クラブポスターで掲げた努力目標（活動日数・活動人数、情報提供）について、海洋性レクリエーションだけでなくオフシーズンの活動も増やしたクラブが多く、クラブ自体が活性化してクラブの底上げに繋がり、A評価を得たクラブが増えた。また、「教育長・責任者海洋センター・海洋クラブ活性化会議」が平成24年度で終了し、会議出席の評価項目が無くなったことで、一般海洋クラブが基準点をクリアしやすくなったことも1つの要因と考えられる。

休部クラブについては41クラブと横ばいであるが、長期休部が続くクラブが多く、対応を要する状況にある。

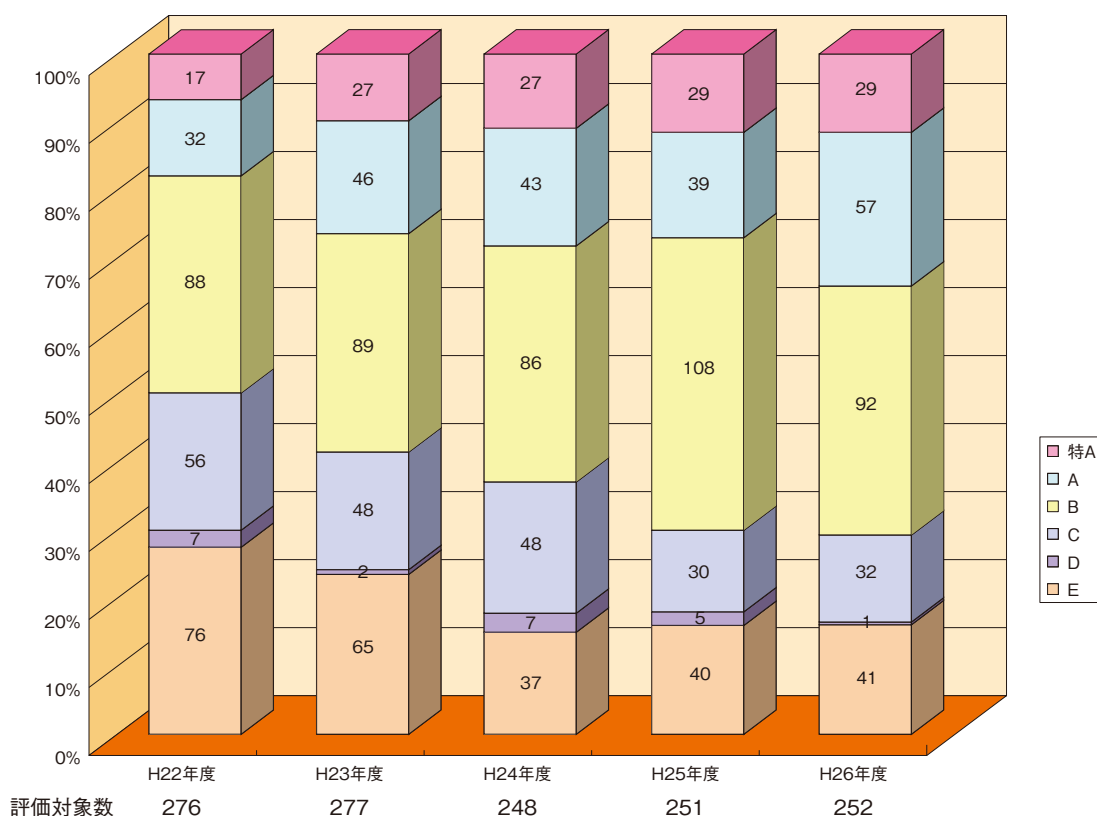
ブロック別の傾向としては、特A、Aの割合で見ると、北海道、中国、四国での割合が高く、活動が活発なクラブが多いことが見て取れる。

平成26年度 海洋クラブ評価（ブロック別 構成）

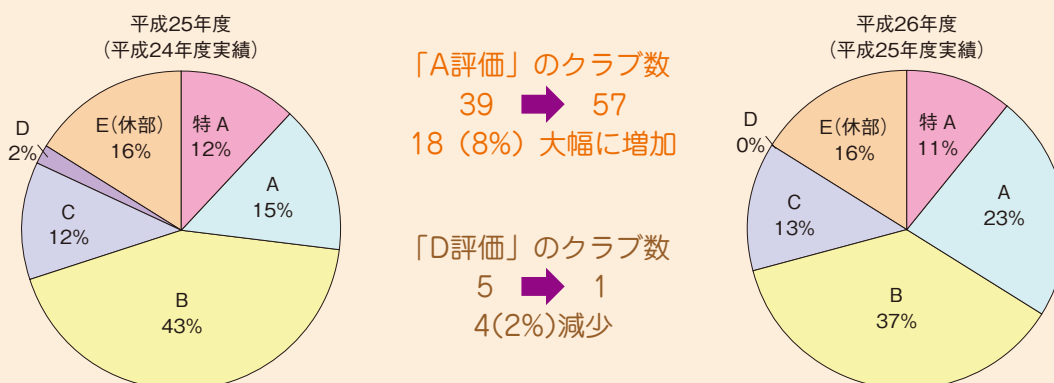


海洋クラブの評価の推移（5カ年）

年 度	特A	A	B	C	D	E（休部）	合計
H22年度（H21実績）	17	32	88	56	7	76	276
H23年度（H22実績）	27	46	89	48	2	65	277
H24年度（H23実績）	27	43	86	48	7	37	248
H25年度（H24実績）	29	39	108	30	5	40	251
H26年度（H25実績） 増減数（率）	29 0（0%）	57 18（46%）	92 -16（-15%）	32 2（7%）	1 -2（-80%）	41 1（3%）	252 1（0%）



対前年度 海洋クラブの評価別構成比率の変化



3. 平成25年度 海洋クラブ活動人数（ベスト50）

順位	海洋スポーツ				陸上スポーツ				その他の活動（水泳他）			
	クラブ名	県名	活動日数	活動人数	クラブ名	県名	活動日数	活動人数	クラブ名	県名	活動日数	活動人数
1	虹の松原	佐賀県	297	10,601	やまなし	山梨県	305	6,714	尾上	青森県	279	8,454
2	やまなし	山梨県	293	6,474	尾上	青森県	227	5,142	積丹	北海道	24	4,430
3	兵庫ジュニア	兵庫県	247	4,972	松江	島根県	143	4,862	三隅	島根県	148	2,379
4	あわら	福井県	119	4,556	小見川	千葉県	308	4,183	美幌	北海道	68	2,334
5	福岡JY	福岡県	115	4,119	虹の松原	佐賀県	102	3,230	加茂	岡山県	104	2,282
6	小見川	千葉県	308	3,907	湯布院	大分県	84	3,181	串良	鹿児島県	52	1,708
7	神埼	佐賀県	305	3,620	天瀬	大分県	127	2,876	新潟	新潟県	99	1,570
8	伊丹	兵庫県	125	3,417	神埼	佐賀県	90	2,746	本部	沖縄県	143	1,438
9	池田	香川県	115	2,793	池田	香川県	71	1,947	上市	富山県	80	984
10	砺波	富山県	22	2,482	東北	青森県	74	1,695	舟形	山形県	17	860
11	鹿屋	鹿児島県	91	2,456	舟形	山形県	67	1,525	大佐	岡山県	22	792
12	和知	京都府	187	2,348	福野	富山県	128	1,521	福野	富山県	34	782
13	別府	大分県	115	2,165	作手	愛知県	48	1,436	鷹栖	北海道	17	744
14	相良	静岡県	88	2,103	上市	富山県	74	1,340	豊津	福岡県	18	606
15	高松	香川県	89	1,914	家島	兵庫県	64	914	勝山	福井県	31	559
16	釜山	韓国	82	1,849	三隅	島根県	148	879	愛別	北海道	12	542
17	津屋崎	福岡県	117	1,701	豊津	福岡県	18	845	宮崎シーライオン	宮崎県	25	513
18	和歌浦	和歌山県	93	1,642	大山	大分県	7	700	国見	大分県	17	489
19	滝川	北海道	51	1,426	砥用	熊本県	47	657	別府	大分県	7	442
20	新居浜（新規）	愛媛県	95	1,387	新篠津	北海道	92	638	天瀬	大分県	20	436
21	松山	愛媛県	66	1,305	白石島	岡山県	54	556	小野	福島県	1	420
22	小平	北海道	36	1,208	真玉	大分県	2	430	あいおい	兵庫県	11	398
23	勝連	沖縄県	21	1,202	竹野	兵庫県	43	413	寒川	香川県	14	393
24	ハウスステンボス町	長崎県	99	1,200	和知	京都府	25	390	与論	鹿児島県	7	373
25	中田	宮城県	158	1,136	美幌	北海道	15	363	蒲郡	愛知県	15	356
26	なごや	愛知県	66	1,037	矢掛	岡山県	23	348	奈義	岡山県	5	348
27	慶應医学部ヨット部	神奈川県	81	1,010	ななお	石川県	22	336	浅井	滋賀県	10	290
28	小野	福島県	9	965	新潟	新潟県	17	318	塙	福島県	20	277
29	砂川	北海道	18	956	甘木	福岡県	18	279	白石島	岡山県	11	271
30	大島	山口県	41	838	由岐	徳島県	16	242	古平	北海道	4	255
31	旭	愛知県	30	806	建部	岡山県	2	214	建部	岡山県	6	254
32	大町	長野県	27	799	愛別	北海道	8	195	杵築	大分県	9	254
33	大安	三重県	25	763	あわら	福井県	18	175	神埼	佐賀県	8	252
34	室蘭	北海道	44	732	雄和	秋田県	6	159	砥用	熊本県	4	247
35	瀬戸内	岡山県	40	732	米山	宮城県	4	143	ななお	石川県	7	239
36	三隅	島根県	35	716	奈義	岡山県	2	140	熊石	北海道	11	231
37	桜江	島根県	25	716	瀬戸内	岡山県	9	132	東北	青森県	7	224
38	宮崎シーライオン	宮崎県	29	707	熊石	北海道	8	128	米山	宮城県	6	224
39	ロトルア	ニュージーランド	61	666	大島	山口県	8	122	新冠	北海道	30	221
40	かすみがうらエンジョイ	茨城県	8	586	北房	岡山県	42	116	家島	兵庫県	8	221
41	時津	長崎県	98	575	川辺	岐阜県	28	112	砺波	富山県	9	220
42	ななお	石川県	27	570	那賀町	徳島県	1	110	御荘	愛媛県	20	219
43	黒瀬	広島県	11	551	長洲（新規）	熊本県	2	105	湯布院	大分県	4	213
44	江の島	神奈川県	25	550	小野	福島県	1	100	福山	広島県	1	206
45	横芝光	千葉県	30	549	塙	福島県	2	97	勝連	沖縄県	20	203
46	あいおい	兵庫県	15	544	鯛生金山	大分県	21	88	大島	山口県	12	196
47	生月	長崎県	44	527	八千代	広島県	20	86	小樽	北海道	11	190
48	犀川	福岡県	9	522	滝川	北海道	1	73	高松	香川県	8	188
49	新冠	北海道	38	501	三川	新潟県	2	72	滝川	北海道	4	187
50	天王	秋田県	15	489	松任はまなす	石川県	4	72	室蘭	北海道	7	183

4. 新規海洋クラブ紹介

B&G慶應医学部ヨット部海洋クラブ（神奈川県）

ヨット競技だけでなく、セーリング普及のための体験会を実施し、
「安全・医療活動」などを通じた支援も目指します！

私たちは、慶應義塾大学医学部体育会ヨット部からB&G海洋クラブの仲間入りをした“B&G慶應医学部ヨット部海洋クラブ”です。

オリンピック種目にもある「470級」という2人乗りのヨットでの活動を主体に、夏に行われる「東日本医科学学生総合体育大会」優勝を目標に、神奈川県の江ノ島ヨットハーバーを拠点に活動しています。

競技だけでなくセーリング普及のため、一般の家族や子ども達を対象とした「海の体験・ヨット教室」なども実施しています。

これから、他のクラブとも交流し広く活動を広げるとともに、クラブ員が医学生であることから、必要時には安全・医療活動などを通じた支援もしていきたいと思っています。



クラブ代表
山岸 敬幸 氏



★★★★★★ 平成26年度B&G海洋クラブ ★★★★★★ 努力目標・行動指針

平成26年度
B&G 海洋クラブ
努力目標・行動指針

海洋クラブで**4つの努力目標**に取り組みましょう。

1. 活動日数を3日増やそう！
（例）平日の活動日数を3日に増やす（土曜日の活動日数を3日に増やす）
2. 子供・親子・指導者を誘って
クラブ員を増やそう！
（例）家族や友人を誘って一緒に活動する（例）指導者を誘って一緒に活動する
3. 「海レク体験会」で 未経験者に
海レクを広めよう！
（例）海レク体験会を開催する（例）海レク体験会に参加する
4. 「水辺の安全」プログラムを
普段の活動にとり入れよう！
（例）水辺の安全プログラムを実施する（例）水辺の安全プログラムに参加する

海洋クラブ員は**5つの行動**を身につけましょう。

1. 自分から進んで あいさつしよう！
2. 自分のことは 自分でしよう！
3. モノを大切にしよう！
4. 時間・ルールを守ろう！
5. 何事にも 積極的に挑戦しよう！

5. 海洋クラブの話題

〈2013年 IODAアジア選手権大会〉

IODA：国際オブティミスト級
ディンギー協会

～9人のB&G海洋クラブ員が日本代表として健闘！～

9年振りに日本開催となった標記大会が、平成25年8月24日(土) から6日間にわたり、神奈川県葉山町 葉山港ヨットハーバーで開催され、アジアを中心に世界から計14ヵ国105人のジュニア選手が参加。開催国の日本は24人のナショナルチームを結成、B&G海洋クラブからも9人の選手が選ばれ健闘した。



大会に出場した海洋クラブの選手たち

(敬称略)

B&G福岡ジュニア海洋クラブ	小柳 倫太郎	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	西村 宗至朗
B&G時津海洋クラブ	松本 奏和		続木 茹可
B&G別府海洋クラブ	坪根 遼翼		藤原 達人
B&Gなごや海洋クラブ	蜂須賀 晋之介		坂井 理紗
B&G虹の松原海洋クラブ	小村 凜平		

〈2014年 JODAナショナルチーム 最終選考会〉

JODA：日本オブティミスト級
ディンギー協会

世界選手権・アジア選手権・ヨーロッパ選手権・北米選手権の出場選手決まる

(敬称略)

平成25年12月21日～24日、2014年の最終選考会が大分県別府市で開催され、世界選手権大会をはじめアジア・ヨーロッパ・北米の各選手権大会の出場選手が決定した。

B&G海洋クラブからも合計9人の選手が日本代表入りを果たした。



最終選考会レース



2014年アジア選手権大会がH26年3月28日からバーレーンで開催され、日本から10人の選手が参加。海洋クラブからも4人の選手が出場した。

日本代表に選ばれた9人の海洋クラブ員

- ① IODA世界選手権 (10月/アルゼンチン)
尾道 佳諭 男 B&G時津海洋クラブ
藤原 達人 男 B&G兵庫ジュニア海洋クラブ
- ② IODAアジア選手権大会 (3月/バーレーン)
西村 宗至朗 男 B&G兵庫ジュニア海洋クラブ
蜂須賀 晋之介 男 B&Gなごや海洋クラブ
下石 熙 男 B&G別府海洋クラブ
上園田 明真海 女 B&G別府海洋クラブ
- ③ IODAヨーロッパ選手権大会 (7月/アイルランド)
坂井 理紗 女 B&G兵庫ジュニア海洋クラブ
玉山 義規 男 元B&Gなごや海洋クラブ
- ④ IODA北米選手権大会 (7月/メキシコ)
近藤 海斗 男 B&G和歌浦海洋クラブ

※写真提供：青野 康弘 氏 (B&G松山海洋クラブ)

〈第68回国民体育大会でB&G海洋クラブ員が活躍〉

(敬称略)

平成25年の秋に東京で開催された国体において、水泳やセーリング、カヌーなどの競技で海洋クラブの現役選手をはじめ海洋クラブ出身の選手が多数入賞し活躍した。

	センター・クラブ名	参加者名	種 目	学年	成績
水 泳	鋸南町	川崎 駿	少年男子A 50m自由形	高3	3位
	周防大島町	小泉 維吹	少年男子 セーリングスピリッツ級	高2	1位
	兵庫ジュニア	鄭 愛梨	少年女子 シーホッパー級SR	高2	1位
		藤井 純也	少年男子 セーリングスピリッツ級	高3	6位
	和歌浦	西尾 勇輝	少年男子 シーホッパー級SR	高1	3位
	新居浜	今村 亮/大嶋 龍介	成年男子 470級	成年	6位
		後藤 沙季	成年女子 セーリングスピリッツ級	成年	5位
	別府	永松 礼	少年男子 セーリングスピリッツ級	高3	3位
		赤嶺 華歩	少年女子 シーホッパー級SR	高1	6位
カヌー	川根本町本川根	大村 朱澄	スプリント 成年女子 K-1 200m	成年	2位
			スプリント 成年女子 K-1 500m		
		鈴木 康大	スプリント 成年男子 K-1 500m	成年	2位
	香取市小見川	八角 周平	スプリント 少年男子 C-1 500m	中3	6位
		志村 遥/亘 和菜	スプリント 少年女子 K-2 500m	高3	7位
	近江八幡市安土	中村 由萌	スプリント 少年女子 K-2 200m	高3	2位
		小梶 孝行	スプリント 成年男子 C-1 200m	成人	6位

1. 海の日アンケート調査

☆☆☆海の日アンケート調査☆☆☆

**“大切にしたい島” 第1位は世界自然遺産「屋久島」
回答は「尖閣諸島」から「ひょうたん島」まで多様な 237 島！**

公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（B&G 財団）

海洋性レクリエーションを通して全国の子どもの心と体の育成を行っているB&G財団（正式名称：公益財団法人ブルーシー・アンド・グリーンランド財団）では、7月15日の海の日を前に、「あなたが大切にしたい日本の島」と題した調査を行いました。

日本の国土面積は約37万8,000平方kmで、世界で62番目の広さです。しかし、海まで広げるとその面積は世界第6位（排他的経済水域を含む）になります。その広大な海の面積を支えているのが、多くの島々です。日本には、海岸線の長さが100m以上の島が、現在6,852島あるとされていますが、そのうち人が住んでいる島は約400島。有人、無人を含め多くの島がある日本で「大切にしたい島」を調査した結果、全国から1,738件の回答が寄せられました。

< 要 約 >

- 大切にしたい島 総合第1位は「屋久島」。屋久杉をはじめ世界自然遺産でもある雄大で美しい自然をいつまでも遺したい！
- 総合第2位は、『二十四の瞳』の舞台「小豆島」。自然豊かなオリーブの島として女性に人気。
- “日本の領土を守りたい！”「尖閣諸島」（8位）・「竹島」（9位）・「北方四島」（12位）の合計は129票（7.4%）。
- 回答のあった島は、合計で237島！ 領土問題にゆれる尖閣諸島や竹島から、ひょうたん島まで多様。ラブロマンスの思い出や震災復興の祈願、パワースポットなどの理由も。

【調査概要】

タイトル 「あなたが大切にしたい日本の島」と「その理由」
募集期間 2013年5月16日～6月21日
募集対象 全国の男女
調査方法 ハガキおよびインターネットによる自由記入方式
応募総数 1,738件（ハガキ200件・インターネット1,538件）
有効回答数 1,727件（ハガキ200件・インターネット1,527件）
サンプル内訳

（単位：人）

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	95	165	202	150	171	783
女性	176	316	219	146	87	944
合計	271	481	421	296	258	1,727

【総合ベストテン】（N=1,727）

順位	島 名	得票（%）
1	屋久島（鹿児島県屋久島町）	146（8.5%）
2	小豆島（香川県小豆島町・土庄町）	95（5.5%）
3	佐渡島（新潟県佐渡市）	86（5.0%）
4	淡路島（兵庫県淡路市・洲本市・南あわじ市）	83（4.8%）
5	小笠原諸島（東京都小笠原村）	63（3.6%）
6	石垣島（沖縄県石垣市）	60（3.5%）
7	沖縄本島（沖縄県）	59（3.4%）
8	尖閣諸島（沖縄県石垣市）	57（3.3%）
9	竹島（島根県隠岐の島町）	44（2.5%）
10	礼文島（北海道礼文町）	32（1.9%）

今回の調査は、結果がだいぶ分散し、合計237島の島名があがりました。領土問題でゆれる尖閣諸島や竹島、昔テレビで見たひょうたん島とそのモデルになった岩手県大槌町の蓬莱島、地元住民に祈願岩として親しまれる「かえる島」（兵庫県香美町）など大きさや知名度に関わらず、多様で幅広い回答がありました。海洋国日本に住む私たちにとって、島は身近な存在であり、選んだ理由からは、それぞれの島を大切にしたいという強い想いや郷土愛を感じました。

そのように結果が分散する中、総合1位を獲得したのは、1993年に世界自然遺産に登録された「屋久島」で、全体の8.5%を占めました。すべての世代・性別とも1位となっています。

理由として、「世界自然遺産登録の自然豊かな島だから」「屋久杉をはじめとする雄大で美しい自然を守りたい」という意見が多くありました。富士山が世界文化遺産に登録され話題となっていますが、第5位の「小笠原諸島」や第7位の「沖縄本島」を含め、世界に誇る日本の自然や文化を大切にしたいという気持ちが高まっているようです。

また、屋久島は「一度は行ってみたい」という意見も多数みられ、憧れの島でもあるようです。

2位は、瀬戸内海に浮かぶ「小豆島」。「『二十四の瞳』の舞台となった美しい島だから」「オリーブの楽園で自然豊かだから」「素麺・醤油・オリーブなど美味しいものがたくさんあるから」等の理由で選ばれました。

3位は、古典芸能・文化が色濃く残り、トキの国内最後の生息地としても有名な「佐渡島」。理由として、「トキを守りたい」という声が多くありました。特別天然記念物のトキを保護したいという願いが佐渡島を大切にしたいという想いにつながったようです。

以下、日本神話で国生みの地とされる「淡路島」（4位）、2011年に世界自然遺産に登録された「小笠原諸島」（5位）という結果になりました。

また、「尖閣諸島」（8位）・「竹島」（9位）・「北方四島」（12位）が、「日本の領土だから大切にしたい」「排他的経済水域と資源確保両立のため」等の理由で選ばれています。これらを合わせると129票（7.4%）で、第1位の「屋久島」に次ぐ高い割合となり、近年の領土問題の高まりで、国境に関わる島々を大切にしたい気持ちも強まっているようです。

【男女別ベスト5】

■男性（N=783）

	島名	得票（%）
1	屋久島	66（8.4%）
2	淡路島	43（5.5%）
3	佐渡島	34（4.3%）
4	尖閣諸島	34（4.3%）
5	小笠原諸島	31（4.0%）
6	小豆島	28（3.6%）

■女性（N=944）

	島名	得票（%）
1	屋久島	80（8.5%）
2	小豆島	67（7.1%）
3	佐渡島	52（5.5%）
4	石垣島	41（4.3%）
5	淡路島	40（4.2%）
6	小笠原諸島	32（3.4%）

男女別の比較で一番差が出たのは「小豆島」で、女性は第2位（7.1%）ですが、男性は第6位（3.6%）でした。「景色も、食べ物も、地元の方達も素晴らしかった」（60代・女性）「何回行っても気持ちが潤う島だから」（50代・女性）「オリーブ畑の木々が美しかった」（30代・女性）など、のどかな情景と美しい自然に、女性は惹きつけられるようです。

また、男性第2位の淡路島は、「釣りに行く島なので、自然を大切にしたい」（40代・男性）「毎年、夏に訪ねるので愛着があるから」（60代・男性）等、明石大橋で本州、鳴門大橋で四国と結ばれる利便性の良さからか、地元男性ファンからの票を多く集めました。

【年代別ベスト5】

■20代以下（N=271）

	島名	得票（%）
1	屋久島	27（10%）
2	石垣島	17（6.3%）
3	佐渡島	13（4.8%）
4	小笠原諸島	10（3.7%）
◇	北方四島	10（3.7%）

■30代（N=481）

	島名	得票（%）
1	屋久島	37（7.7%）
2	小豆島	36（7.5%）
3	佐渡島	24（5.0%）
4	沖縄本島	20（4.2%）
◇	淡路島	20（4.2%）

■40代（N=421）

	島名	得票（%）
1	屋久島	32（7.6%）
2	淡路島	27（6.4%）
3	沖縄本島	20（4.8%）
4	小豆島	18（4.3%）
◇	佐渡島	18（4.3%）

■50代（N=296）

	島名	得票（%）
1	屋久島	28（9.5%）
2	小豆島	19（6.4%）
3	淡路島	16（5.4%）
4	佐渡島	13（4.4%）
5	石垣島	9（3.0%）

■60代以上（N=258）

	島名	得票（%）
1	屋久島	22（8.5%）
2	佐渡島	18（7.0%）
3	小豆島	14（5.4%）
4	淡路島	14（5.4%）
◇	尖閣諸島	13（5.0%）

【印象に残った理由】

■恋の思い出がある島

- ・「小豆島」奥さんにプロポーズした場所だから。(30代・男性)
- ・「乙島」(宮城県門川町) 初デートの場所で美しい思い出と今でもそのときの気持ちを大切にしているから。(70代・男性)

■復興を願う島

- ・「蓬萊島」(岩手県大槌町) 東日本大震災で壊滅的な被害を受けぜひ復興してもらいたい！(60代・男性)
- ・「網地島」(宮城県石巻市) 人がとても温かい！地震にも負けず、皆さん前向きに生きています。(20代・男性)
- ・「松島」(宮城県松島町) 東日本大震災(3.11)の津波にも耐えた松島、大切にしていきたいです。(60代・男性)
- ・「田代島」(宮城県石巻市) 津波の被害をうけても島民に支えられ頑張って生き抜く猫たちに一度は逢ってみたい！！(10代・男性)
- ・「大島」(宮城県気仙沼市) 東日本大震災で津波に飲みこまれた島です。何もかもなくなってしまったこの島を元の観光地へ戻してあげたいです。
- ・「蕪島」(青森県八戸市) 東日本大震災では津波で大きな被害もあったけれど、その後復興が進められ、ウミネコの繁殖地としての景観は本当に素晴らしいものがある。(50代・女性)

■戦争の記憶を残す島

- ・「硫黄島」戦争の記憶を忘れてはいけないと思う。(40代・男性)
- ・「沖縄本島」琉球王国でもあり戦争の爪痕が今でも残った島を大切にしたい。(30代・男性)

■珍しい島

- ・「沖ノ島」(福岡県宗像市) 島全体が御神体とされ、今でも女人禁制の伝統を守っている。また、男性でも毎年5月27日以外の上陸は基本的に許されず、その数も200人程度に制限されている。山の中腹には宗像大社沖津宮があり、宗像三女神の田心姫神を奉っている。日本人のふるさととも言える島であり大切にしたい。(50代・女性)
- ・「牡鹿諸島」(宮城県石巻市) 黄金山神社「奥州三霊場」がありパワースポットが魅力(50代・男性)

■架空の島

- ・「ひょうたん島」丸い地球に水平線などないのに、幸いを求めて旅を続けるロマンを捨ててはいけない。(60代・男性)
- ・「鬼ヶ島」桃太郎伝説の話を後世に残すためにも。(30代・女性)

－ 以上 －

2. B&G財団役員一覧

H26.3.31現在

1. 理 事

(敬称略)

役 職	氏 名	現 職
会 長	梶 田 功	一般社団法人 全国モーターボート競走施行者協議会 会長(元) 大阪府 箕面市長 (元)
専務理事	菅 原 悟 志	
常務理事	古 山 透	
理 事	重 由美子	アトランタオリンピック女子470級ヨット銀メダリスト
	高 良 文雄	沖縄県 本部町長
	山 中 健	兵庫県 芦屋市長
監 事	篠 原 通 夫	篠原会計事務所 公認会計士・税理士
	西 本 克 己	株式会社東京ビー・エム・シー 代表取締役社長

(非常勤役員は五十音順)

2. 評議員

(敬称略)

役 職	氏 名	現 職
議 長	小 高 幹 雄	BOAT RACE 振興会 会長
評 議 員	遠 藤 容 弘	公益財団法人 日本ゲートボール連合 専務理事
	岸 ュキ	女優
	工 藤 祐 直	B&G全国サミット 副会長 B&G全国町村長会議・B&G全国指導者会 会長 青森県 南部町長
	小 峯 力	日本ライフセービング協会 理事長 中央大学 教授
	今 義 男	海洋政策研究財団 理事長
	谷 川 真 理	マラソンランナー 流通経済大学 客員教授
	西 嶋 泰 義	大分県 佐伯市長
	皆 川 浩 二	一般財団法人 日本モーターボート競走会 会長
	吉 田 和 夫	B&G全国サミット・B&G全国市長会議 会長 新潟県 胎内市長

(議長を除く評議員は五十音順)

3. B&G全国サミット

(敬称略)

役 職	氏 名	現 職
会 長	吉 田 和 夫	新潟県 胎内市長、B&G財団評議員、B&G全国市長会議 会長
副会長	宇 井 成 一	千葉県 香取市長、海洋センター施設整備委員
	松 井 三 郎	静岡県 掛川市長
	工 藤 祐 直	青森県 南部町長、B&G財団評議員 B&G全国町村長会議・B&G全国指導者会 会長
	五 軒 家 憲 次	徳島県 海陽町長

(副会長は五十音順)

4. B&G全国市長会議

(敬称略)

役 職	氏 名	現 職
会 長	吉 田 和 夫	新潟県 胎内市長、B&G財団評議員、B&G全国サミット会長
副会長	宇 井 成 一	千葉県 香取市長、海洋センター施設整備委員
	松 井 三 郎	静岡県 掛川市長

(副会長は五十音順)

5. B&G全国町村長会議

(敬称略)

役 職	氏 名	現 職
会 長	工 藤 祐 直	青森県 南部町長、B&G財団評議員、B&G全国指導者会 会長
副会長	五 軒 家 憲 次	徳島県 海陽町長

(五十音順)

6. B&G全国教育長会議

(敬称略)

役 職	氏 名	現 職
会 長	池 澤 進	栃木県 那須烏山市教育長
副会長	川 上 一 郎	高知県 津野町教育長
	熊 坂 伸 子	岩手県 普代村教育長

(副会長は五十音順)

7. B&G全国指導者会

(敬称略)

役 職	氏 名	現 職
会 長	工 藤 祐 直	青森県 南部町長、B&G財団評議員、B&G全国サミット 副会長 B&G全国町村長会議 会長
副会長	金 久 博	徳島県 阿南市産業部 野球のまち推進課 課長補佐
	川 島 正 光	埼玉県 久喜市栗橋総合支所 環境経済課 課長補佐

(副会長は五十音順)

8. 海洋センター施設整備委員会

(敬称略)

役 職	氏 名	現 職
委員長	小 池 保 夫	一般財団法人日本モーターボート競走会 専務理事
委 員	宇 井 成 一	千葉県 香取市長
	大 西 英 輔	オオニシアーキテクト 代表取締役
	小 林 元 一	株式会社松田平田設計 大阪事務所副所長
	田久保 雅己	マリンジャーナリスト会議 (M J C) 会長 株式会社 舵社 常務取締役
	田 畑 誠 一	鹿児島県 いちき串木野市長
	広 瀬 秀 貴	BOAT RACE 振興会 常務理事

(委員は五十音順)

3. 平成25年度「地域海洋センター修繕助成」一覧

通常修繕

単位:円

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	最終工事費	助成金額
1	北海道	厚岸町	体育館	アリーナ床全面塗装工事	4,750,000	3,000,000
2		下川町	プール	上屋鉄骨全面改修、ろ過機取替、管理棟外壁全面改修工事 他	60,530,000	28,000,000
3		名寄市	プール	温水ボイラー更新工事	1,234,000	600,000
4		積丹町	体育館	屋根全面改修、外壁塗装工事 他	24,268,320	12,500,000
5		古平町	体育館	屋根・暖房設備全面改修工事	25,900,000	16,800,000
6	岩手県	一関市東山	プール	缶体全面改修工事 他	8,080,000	4,000,000
7	宮城県	大郷町	体育館	屋根・外壁全面塗装改修、身障者スロープ設置工事 他	32,530,000	21,500,000
8	山形県	酒田市平田	プール	上屋鉄骨補強工事	17,800,000	10,600,000
9	福島県	柳津町	プール	上屋鉄骨全面塗装改修工事	12,628,350	6,000,000
10	茨城県	五霞町	プール	上屋シート全面張替、給水管全面改修、上屋鉄骨塗装工事 他	21,230,000	13,300,000
11	埼玉県	嵐山町	プール	缶体全面塗装、ろ過機全面改修工事 他	11,899,160	6,500,000
12			体育館	屋根全面改修工事 他	11,000,840	6,000,000
13		久喜市栗橋	プール	ろ過機取替、プールサイド全面改修工事 他	22,700,000	13,600,000
14	千葉県	長南町	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨・缶体全面塗装、入水階段設置工事 他	37,109,000	19,400,000
15		成田市大栄	プール	上屋シート全面張替、上屋鉄骨全面塗装工事 他	22,265,400	7,400,000
16	新潟県	阿賀野市安田	プール	缶体（底板）・プールサイド全面改修工事	25,000,000	16,200,000
17		佐渡市羽茂	プール	プールサイド全面改修工事 他	9,481,000	4,300,000
18	富山県	砺波市	プール	缶体全面塗装、プールサイド改修工事 他	9,809,000	5,700,000
19	福井県	勝山市	プール	上屋シート全面張替工事	6,600,000	2,900,000
20		若狭町三方	プール	プールサイド全面改修、缶体全面塗装、ろ過機改修工事 他	54,952,381	27,400,000
21	山梨県	中央市玉穂	プール	上屋鉄骨改修、プールサイド改修工事 他	11,870,000	5,100,000
22		山梨市牧丘	プール	上屋シート（通路棟を含む）全面張替工事	11,000,000	7,100,000
23		南アルプス市白根	プール	缶体全面改修工事	11,440,000	6,800,000
24	岐阜県	八百津町	体育館	外壁改修、管理棟屋根防水工事	3,850,000	2,300,000
25	長野県	大町市	体育館	屋根・内外壁塗装改修、耐震補強、照明自動昇降装置設置工事 他	41,002,500	25,000,000
26		長和町和田	プール	ろ過機取替工事	7,700,000	3,300,000
27	滋賀県	米原市伊吹	プール	缶体およびプールサイド全面改修工事 他	19,624,000	11,800,000
28	兵庫県	養父市おおや	プール	上屋シート張替工事	4,620,000	2,500,000
29		神河町神崎	体育館	照明LED化、倉庫天井アスベスト除去工事 他	10,940,000	5,400,000
30	奈良県	曽爾村	プール	上屋鉄骨塗装、管理棟屋根改修工事 他	15,278,000	7,500,000
31	鳥取県	鳥取市佐治	体育館	屋根・外壁全面改修、アリーナ照明LED化工事 他	21,483,000	10,300,000

単位：円

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	最終工事費	助成金額
32	広島県	三原市久井	体育館	アリーナ天井補強、外壁塗装、アリーナ照明ＬＥＤ化工事 他	30,108,000	15,500,000
33		東広島市黒瀬	艇庫	屋根・外壁全面塗装改修、トイレ・シャワー設置工事	15,225,100	8,100,000
34	愛媛県	松山市中島	体育館	屋根塗装改修工事 他	3,615,000	2,100,000
35		愛南町御荘	体育館	外壁全面改修、無電極照明設置工事 他	33,768,572	21,400,000
36	高知県	津野町東津野	プール	上屋シート全面張替、缶体全面塗装、プールサイド全面改修工事 他	50,334,000	28,800,000
37	福岡県	宗像市玄海	体育館	外壁全面改修、サッシ全面改修、耐震改修工事 他	3,791,000	17,700,000
38		福智町金田	プール	内外壁全面塗装改修、ボイラー、ろ過機、暖房機取替工事	48,274,000	21,600,000
39	佐賀県	太良町	体育館	多目的トイレ設置工事	7,278,000	4,300,000
40		鹿島市	プール	ろ過機取替工事	11,950,000	4,700,000
41	熊本県	湯前町	体育館	屋根・外壁全面改修工事 他	20,100,000	11,500,000
42	大分県	中津市耶馬溪	体育館	屋根・外壁全面塗装改修工事	22,678,000	11,100,000
43	鹿児島県	湧水町栗野	プール	屋内多目的運動場への用途変更	31,465,715	14,100,000
44		阿久根市	艇庫	外壁補修工事	1,190,000	500,000
45		薩摩川内市樋脇	プール	上屋シート全面張替工事	10,450,000	4,300,000
45施設（26道県44自治体44センター）					847,572,338	478,500,000

災害復旧修繕（東日本大震災・雪害）

単位：円

No.	道府県名	センター名	施設名	修繕内容	最終工事費	助成金額
1	岩手県	洋野町種市	艇庫	艇庫復旧(新築)工事	14,785,000	10,000,000
2	岐阜県	中津川市福岡	プール	上屋シート張替工事（7枚）	5,178,209	1,700,000
2施設（2県2自治体2センター）					19,963,209	11,700,000

平成 25 年度「修繕助成金」合計

単位：円

修繕種別		施設数	最終工事費	助成金額
通常修繕	艇 庫	2	16,415,100	8,600,000
	プール	27	534,094,006	283,500,000
	体育館	16	297,063,232	186,400,000
	小 計	45	847,572,338	478,500,000
災害復旧（東日本大震災・雪害）		2	19,963,209	11,700,000
総合計		47	867,535,547	490,200,000

4. 平成25年度「舟艇等の追加・再配備」一覧

単位：円

No.	(セ):センター (ク):クラブ	道府県名	配備内容	仕様	配備区分	数量	配備金額	財団負担額
1	小平町（セ）	北海道	指定救命胴衣	（M）	再	35	305,578	200,578
			指定救命胴衣	（S）	再	35	246,778	162,778
2	せたな町（セ）		シットオントップ 2人カヤック	鈴春ジェミニ	再	2	197,900	90,000
3	砂川市（セ）		指定救命胴衣	（M）	再	15	130,962	85,962
			指定救命胴衣	（S）	再	5	35,254	23,254
4	滝川市（セ）		指定救命胴衣	（S）	再	40	282,032	186,032
			指定救命胴衣	（S）	追加	5	35,254	23,254
5	女満別（ク）		指定救命胴衣	（M）	再	10	87,308	57,308
6	新冠（ク）		B&Gペアカヌー	ヒカリ製	再	1	271,950	130,000
7	香取市小見川(セ)	千葉県	指定船外機	MFS9.8 S	再	1	174,825	114,825
8	葉山（ク）	神奈川県	スタンドアップ パドルボート	NSP SUP10 NSP SUP9	追加	2	217,854	100,000
9	砺波市（セ）	富山県	指定救命胴衣	（L）	再	10	87,308	57,308
			指定救命胴衣	（S）	再	20	141,016	93,016
10	穴水（ク）	石川県	指定救命胴衣	（M）	再	5	43,654	28,654
			指定救命胴衣	（S）	再	5	35,254	23,254
11	飯島町（セ）	長野県	指定救命胴衣	（L）	再	10	87,308	57,308
			指定救命胴衣	（M）	再	10	87,308	57,308
			指定救命胴衣	（S）	再	15	105,762	69,762
12	大町市（セ）		B&Gカヌー	ヒカリ製	再	1	141,750	70,000
13	なごや（ク）	愛知県	指定ゴムボート	AS-332アルミ	追加	1	214,473	164,473
			指定船外機	MFS9.8 S	追加	1	174,825	134,825
14	美作市作東（セ）	岡山県	指定船外機	MFS9.8 S	再	1	174,825	114,825
			指定救命胴衣	（S）	再	10	70,508	46,508
15	岡山市建部（セ）		指定ゴムボート	AS-332アルミ	再	1	214,473	144,473
			指定船外機	MFS9.8 S	再	1	174,825	114,825
16	美星（ク）		指定ゴムボート	AS-332エア	再	1	214,473	144,473
			指定船外機	MFS9.8 S	再	1	174,825	114,825
17	府中市（セ）	広島県	指定救命胴衣	（S）	再	10	70,508	46,508
18	東広島市黒瀬(セ)		指定ゴムボート	AS-332エア	追加	1	214,473	144,473
			指定船外機	MFS9.8 S	追加	1	174,825	114,825
			指定救命胴衣	（M）	追加	10	87,308	57,308
			指定救命胴衣	（S）	追加	10	70,508	46,508

単位：円

No.	(セ):センター (ク):クラブ	道府県名	配備内容	仕様	配備区分	数量	配備金額	財団負担額
19	周防大島町（セ）	山口県	指定ゴムボート	AS-332アルミ	追加	1	214,473	144,473
			指定船外機	MFS9.8 S	追加	1	174,825	114,825
20	池田（ク）	香川県	指定救命胴衣	（L）	追加	5	44,179	33,654
			指定救命胴衣	（M）	追加	5	43,654	33,654
		愛媛県	指定救命胴衣	（L）	追加	5	43,654	33,654
			指定救命胴衣	（M）	追加	5	43,654	33,654
			指定救命胴衣	（S）	追加	5	35,254	26,254
21	築上町築城（セ）	福岡県	指定救命胴衣	（M）	再	5	45,439	28,654
			B&Gカヌー	ヒカリ製	再	2	329,700	160,000
22	福岡ジュニアヨット（ク）		指定ゴムボート	AS-332アルミ	追加	1	214,473	164,473
			指定船外機	MFS9.8 S	追加	1	174,825	134,825
23	津屋崎（ク）		指定救命胴衣	（L）	追加	5	43,654	33,654
			指定救命胴衣	（M）	追加	5	43,654	33,654
			指定救命胴衣	（S）	追加	5	35,254	26,254
24	太良町（セ）	佐賀県	指定救命胴衣	（L）	追加	5	43,654	28,654
			指定救命胴衣	（M）	追加	5	43,654	28,654
25	ハウステンボス町 Jr.（ク）	長崎県	指定ゴムボート	AS-332アルミ	追加	1	214,473	164,473
			指定船外機	MFS9.8 S	追加	1	174,825	134,825
26	竹田市直入（セ）	大分県	指定救命胴衣	（M）	再	5	43,654	28,654
			指定救命胴衣	（S）	再	5	35,254	23,254
27	宇城市三角（セ）	熊本県	指定救命胴衣	（L）	再	5	43,654	28,654
			指定救命胴衣	（M）	再	5	43,654	28,654
			指定救命胴衣	（S）	再	10	70,508	46,508
28	与論町（セ）	鹿児島県	指定船外機	MFS9.8 S	再	1	183,225	114,825
29	阿久根市（セ）		指定救命胴衣	（L）	再	20	174,616	114,616
			指定救命胴衣	（M）	再	20	174,616	114,616
			指定救命胴衣	（S）	再	20	141,016	93,016
30	長島町（セ）			救助艇	カロライナスキフ J-12	追加	1	495,285
合 計							8,114,684	5,210,535

5. 平成25年度「地域の特色ある事業」一覧

No.	事業者	事業名	実施日	実施場所	参加者 人数(人)	事業 経費(円)	協力 金額(円)
1	北海道ブロック 連絡協議会	B&G北海道ブロックスポーツ交流交歓会	8月4日	北海道小平町・ 沼田町・石狩市	457	907,334	350,000
2	東北ブロック 連絡協議会	がんばろう東北！ニューススポーツ交流大会	2月8日	青森県十和田市	44	74,078	38,978
3	関東ブロック 連絡協議会	関東ブロック交流会	8月4日～5日	群馬県前橋市	56	464,409	80,409
4	北陸ブロック 連絡協議会	平成25年度北陸ブロックB&Gスポーツ 交流大会	8月1日～2日	石川県七尾市	30	261,059	75,659
5	中部ブロック 連絡協議会	平成25年度中部ブロックスポーツ交流 大会	8月1日～2日	静岡県川根本町	40	588,332	160,000
6	近畿ブロック 連絡協議会	近畿ブロックスポーツ交流	8月5日～6日	京都府京都市	112	914,160	350,000
7	中国ブロック 連絡協議会	B&G2013親子3S体験キャンプ in 周防大島	7月13日～15日	山口県周防大島町	34	788,000	350,000
8	四国ブロック 連絡協議会	四国ブロックマリンスポーツ交流大会	8月8日～9日	香川県小豆島町	59	1,082,925	298,070
9	北九州ブロック 連絡協議会	北九州ブロックB&G交流大会	7月31日	福岡県大任町	59	109,597	22,277
10	南九州ブロック 連絡協議会	平成25年度南九州ブロックB&G地域海 洋センタースポーツ大会	8月23日	宮崎県日南市 南郷	43	272,831	240,000
11	石川県 連絡協議会	全国ウォータースポーツ北日本大会 ～親子の絆 光る汗 ひよこり能登島 ななお大会～	8月24日～25日	石川県七尾市	28	1,156,314	300,000
12	江ノ島 海洋クラブ	アクセスディンギーフェスタ in 江の島 2013	6月29日～30日	神奈川県藤沢市	102	469,991	249,968
13	伊丹海洋クラブ	どこでもOPキャラバンカー	7月9日・8月2日・9月8日 10月14日・12月22・23日	大阪府大阪市 住吉区	785	246,063	200,000
14	福岡ジュニアヨット 海洋クラブ	2013釜山・福岡・上海ジュニアヨット 大会	8月2日～5日	韓国釜山市	49	1,486,835	200,000
15	別府海洋クラブ	2013別府クリスマス合宿・海洋クラブ 交流会	11月23日	大分県別府市	120	703,826	300,000
16	宮崎シーライオン 海洋クラブ	第1回サンビーチーツ葉カヌーアスロン 大会	11月17日・24日	宮崎県宮崎市	42	284,170	250,170
17	全国指導者会	地域指導者会設置促進および啓蒙啓発活 動	通年	全国	17,000	557,846	500,000
18	沼田町指導者会	海は友達！ B&G自然体験キャンプ	7月29日～30日	北海道積丹町	30	300,194	240,000
19	普代村指導者会	ふだいに木を植える日2	9月	岩手県普代村	0	0	0
20	亘理町指導者会	B&G仮設住宅巡回いきいき運動教室	通年	宮城県亘理町	1,800	90,000	90,000
21	松伏町指導者会	平成25年度「カヌー&水辺の安全教室」	7月10日・12日・ 15日・17日 9月1日・7日・8日	埼玉県吉川市・ 久喜市・栃木県 下野市	530	261,117	250,000
22	熊野市紀和指導 者会	地域の魅力発信 B&Gカヌー川下り&親 子ふれあいキャンプ	7月13日・25日・31日 8月8日・24日 9月14日・15日	三重県熊野市 紀和町	65	132,700	132,700
23	雲南市加茂指導 者会	B&G楽しく学んで身につけるライフセ ービング&カヌー教室	8月17日・20日・26日	島根県雲南市 加茂	40	319,448	310,000
24	海陽町海南指導 者会	親子で学ぼう！！つなげよう！！ 防災のまち海陽町	3月2日	徳島県海陽町 海南	21	159,865	149,365
25	松山市中島指導 者会	B&G親と子のふれあいキャンプin中島	12月1日	愛媛県松山市 中島	17	235,998	50,000
26	長島町指導者会	B&Gふるさと学び舎 in 長島	7月25日～26日	鹿児島県長島町	21	114,447	93,447
27	天城町指導者会	2013第4回ウォータースポーツ南日本 大会あまぎフェスティバル	8月24日	鹿児島県天城町	34	327,836	200,000
28	与論町指導者会	2013第1回B&G南西諸島交歓大会	10月19日	鹿児島県与論町	86	342,011	299,011
合 計 28事業					21,704	12,651,386	5,780,054

6. 「B&G指導者会」県別一覧

H26.3.31現在

道府県	登録 NO.	海洋センター名	道府県	登録 NO.	海洋センター名	道府県	登録 NO.	海洋センター名
北海道	7	滝川市	宮城県	119	蔵王町	新潟県	300-1	新潟市新津
	8	新篠津村		147	亘理町		300-2	新潟市中之口
	17	せたな町瀬棚		148	大郷町		300-3	新潟市味方
	18	大樹町		187	石巻市雄勝		315-1	阿賀町三川
	51	厚岸町		230	大崎市松山		315-2	阿賀町上川
	69	鷹栖町	秋田県	19	能代市		315-3	阿賀町津川
	78	美幌町		40	由利本荘市由利	富山県	11	高岡市福岡
	85	愛別町		303-1	由利本荘市大内		31	南砺市福野
	87	剣淵町		303-2	由利本荘市西目		43	砺波市
	102	小平町		155-1	潟上市天王		84-1	富山市八尾
	140	古平町		155-2	潟上市飯田川		84-2	富山市大山
	152	芦別市		177	八郎潟町	石川県	26	白山市鶴来
	192-1	大空町東藻琴		210-1	にかほ市金浦		28	七尾市
	192-2	大空町女満別		210-2	にかほ市象潟		66	穴水町
	198	遠別町		267	男鹿市		310	志賀町富来
	205	東川町	山形県	317	大潟村	福井県	163	あわら市金津
	206	浦臼町		335	大仙市神岡		209	大野市
	208	沼田町		27	酒田市平田		235	勝山市
	215	砂川市		172	舟形町		236	高浜町
	216	下川町	福島県	25	小野町		244	若狭町三方
	243	斜里町		52	石川町	山梨県	323-1	坂井市春江
	247	積丹町		133	塙町		323-2	坂井市丸岡
	258-1	名寄市風連		167	柳津町		116	南アルプス市白根
	258-2	名寄市名寄		197	田村市滝根		127-1	甲斐市双葉
青森県	259	室蘭市	茨城県	35	笠間市岩間		127-2	甲斐市敷島
	262	苫前町		83	行方市玉造	長野県	222-1	甲州市勝沼
	263	東神楽町		107	石岡市		222-2	甲州市塩山
	264	和寒町		151	八千代町		223	山梨市牧丘
	292	石狩市		169	常陸太田市水府		281	中央市玉穂
	296	枝幸町歌登	栃木県	184	北茨城市		306	富士河口湖町上九一色
	302	北竜町		200	五霞町	岐阜県	38	大町市
	314	岩見沢市栗沢		248-1	小美玉市玉里		128	富士見町
	316	秩父別町		248-2	小美玉市小川		150	白馬村
	318	長万部町		325	かすみがうら市千代田		213-1	松本市波田
	9	六戸町	群馬県	20	芳賀町		213-2	松本市四賀
	33	東北町		58	那須烏山市南那須	静岡県	282	長和町和田
	62	鶴田町		174	下野市国分寺		294	伊那市高遠
	63	南部町名川		99	明和町		301-1	飯綱町牟礼
	159-1	弘前市弘前		220	玉村町		301-2	飯綱町三水
岩手県	159-2	弘前市岩木	埼玉県	266	みなかみ町新治		304	飯島町
	202-1	五所川原市金木		10	久喜市栗橋	岐阜県	331	中野市豊田
	202-2	五所川原市市浦		142	吉見町		12	可児市
	251	平川市尾上		144	松伏町		24-1	恵那市明智
	252	中泊町中里		153	幸手市		24-2	恵那市山岡
	276	平内町	千葉県	176	嵐山町		29	八百津町
	311	十和田市		181	白岡町		76	中津川市加子母
	3	八幡平市松尾		23	南房総市千倉		95	中津川市付知
	70	大槌町		53-1	横芝光町横芝	静岡県	278	中津川市福岡
	88	普代村		53-2	横芝光町光		98	富加町
宮城県	105	久慈市山形	新潟県	138	大多喜町		108	川辺町
	126	陸前高田市		139	御宿町		143-1	高山市国府
	156	山田町		154-1	香取市小見川		143-2	高山市清見
	170	洋野町種市		154-2	香取市栗源	愛知県	218	御嵩町
	234-1	一関市東山		154-3	香取市山田		130-1	掛川市大東
	234-2	一関市藤沢	静岡県	164	鋸南町		130-2	掛川市掛川
	241	大船渡市三陸		240	長南町		130-3	掛川市大須賀
	279	盛岡市玉山		284	成田市大栄		132	松崎町
	297	花巻市東和		79-1	佐渡市小木		162	牧之原市相良
	299	奥州市前沢		79-2	佐渡市羽茂	愛知県	185	川根本町本川根
	328	軽米町		101	阿賀野市安田		245-1	袋井市袋井
	57-1	登米市中田	新潟県	131	糸魚川市能生		245-2	袋井市浅羽
	57-2	登米市米山		146	胎内市中条		269-1	浜松市天竜
	57-3	登米市迫		171	燕市		269-2	浜松市三ヶ日
	89	川崎市		268-1	長岡市和島		97	東栄町
	90	栗原市築館		268-2	長岡市越路		115	西尾市一色
	93	仙台市泉		270	南魚沼市大和		199	新城市作手

道府県	登録 NO.	海洋センター名	道府県	登録 NO.	海洋センター名	道府県	登録 NO.	海洋センター名
愛知県	201	清須市春日	岡山県	48	矢掛町	福岡県	109	朝倉市甘木
	228	豊川市小坂井		158	奈義町		117	飯塚市穂波
三重県	41	菰野町		173	赤磐市吉井		178	宗像市玄海
	56	伊賀市大山田		196-1	浅口市鴨方		229-1	築上町築城
	322	伊賀市阿山		196-2	浅口市寄島		229-2	築上町椎田
	73	桑名市長島		232-1	井原市井原		238	久留米市三瀬
	106	松阪市飯高		232-2	井原市美星		283	福智町金田
	114	伊勢市御園		253	美作市作東		320	大任町
	120	熊野市紀和		257	津山市加茂		333	柳川市大和
	121	志摩市志摩		260	備前市吉永	佐賀県	81	鹿島市
	168	志摩市浜島		288	笠岡市		193	江北町
	124	いなべ市大安		290	真庭市北房		233	太良町
	179	亀山市関		290	真庭市蒜山		326	神埼市
	254	大台町		293	鏡野町	長崎県	118	佐世保市小佐々
	287	大紀町大内山		313-1	新見市哲多		165	平戸市生月
滋賀県	61	米原市山東		313-2	新見市大佐		194	時津町
	157	米原市伊吹	広島県	13	府中市		265	五島市岐宿
	134	高島市今津		50	三次市吉舎		308-1	南島原市加津佐
	149	高島市高島		219	呉市蒲刈		308-2	南島原市西有家
	145	野洲市中主		231-1	東広島市黒瀬	大分県	312	杵岐市勝本
	277	多賀町		231-2	東広島市安芸津		15	国東市武蔵
京都府	100	宮津市		239	三原市久井		16	日田市中津江
	188-1	南丹市園部		249-1	尾道市向島		47	日田市大山
	188-2	南丹市八木		249-2	尾道市瀬戸田		80	杵築市
	295-1	京丹波町和知		307-1	北広島町芸北		227	中津市耶馬溪
	295-2	京丹波町瑞穂		307-2	北広島町大朝		327	玖珠町
大阪府	125	千早赤阪村		332	安芸高田市高宮		334-1	由布市湯布院
	203	堺市美原	山口県	330	坂町		334-2	由布市挾間
	289	能勢町		68	周防大島町		319-1	佐伯市鶴見
兵庫県	2	南あわじ市南淡		255	田布施町		319-2	佐伯市弥生
	67-1	姫路市家島		280	岩国市美和		319-3	佐伯市宇目
	67-2	姫路市安富	徳島県	305	長門市日置		319-4	佐伯市直川
	86	上郡町		321	萩市むつみ		319-5	佐伯市上浦
	123	神河町神崎		65	徳島市		319-6	佐伯市蒲江
	166	香美町香住		77	美波町由岐	熊本県	324	宇佐市安心院
	175	芦屋市		91	牟岐町		42	津奈木町
	183	猪名川町		122-1	阿南市阿南		75	湯前町
	204-1	穴粟市波賀		122-2	阿南市那賀川		82	宇城市三角
	204-2	穴粟市千種		135	那賀町驚敷		189	南関町
	226	新温泉町浜坂		273	東みよし町三加茂		190	長洲町
	221	豊岡市出石	香川県	274	海陽町海南		195	南阿蘇村白水
	242	養父市おおや		46	小豆島町内海		211	美里町砥用
奈良県	286	市川町		96	三木町		225	玉名市岱明
	186	山添村		103	三豊市財田		291	天草市新和
和歌山県	256	曾爾村		104	三豊市高瀬	宮崎県	309	あさぎり町免田
	32	串本町	愛媛県	110	高松市国分寺		329	宮崎市田野
鳥取県	207	広川町		136	綾川町綾上	鹿児島県	6	与論町
	141-1	鳥取市鳥取		160-1	さぬき市寒川		22	鹿屋市串良
	141-2	鳥取市佐治		160-2	さぬき市津田		34	志布志市有明
	141-3	鳥取市気高	高知県	5	今治市大三島		39	南九州市知覧
	141-4	鳥取市鹿野		37	今治市古海		45	天城町
	180	北栄町北条		64	今治市朝倉		49	日置市東市来
	191	伯耆町岸本		55	愛南町御荘		59	さつま町薩摩
	250	倉吉市関金		72	松山市中島		60	いちき串木野市
島根県	21	出雲市平田		112	久万高原町久万		74	長島町
	111	浜田市三隅		246	鬼北町広見		94	阿久根市
	113	西ノ島町		272	西条市丹原		129	湧水町栗野
	182	雲南市加茂	福岡県	54	津野町東津野		137	霧島市牧園
	212	江津市桜江		71	四万十町窪川		214	南さつま市坊津
	237	松江市穴道		161	香美市香北	沖縄県	261	奄美市笠利
	298	松江市松江		271	東洋町		217	本部町
岡山県	285	美郷町邑智		14-1	みやま市瀬高	合計	224	名護市
	1	岡山市建部		14-2	みやま市高田		392	カ所
	4	和気町佐伯		36	みやこ町豊津			
	30-1	瀬戸内市長船		36	みやこ町犀川			
	30-2	瀬戸内市邑久		92	川崎町			

7. 平成25年度「B&G全国大会」等参加一覧

ア. 「2013 B&G 全国ジュニア水泳競技大会」

No.	道県名（人数）	海洋センター名	選手合計	No.	道県名（人数）	海洋センター名	選手合計
1	北海道（2）	室蘭市	2	34	新潟県（4）	燕市	4
2	青森県（15）	中泊町中里	1	35	石川県（16）	白山市鶴来	6
3		鶴田町	2	36		志賀町富来	10
4		南部町名川	4	37	長野県（3）	松本市波田	3
5		平川市尾上	7	38	岐阜県（5）	中津川市加子母	1
6		六戸町	1	39		八百津町	4
7	福島県（8）	石川町	2	40	愛知県（8）	西尾市一色	8
8		塙町	6	41	三重県（40）	桑名市長島	20
9	茨城県（50）	石岡市	6	42		志摩市浜島	7
10		小美玉市玉里	7	43		松阪市飯高	7
11		かすみがうら市千代田	5	44		大紀町大内山	6
12		笠間市岩間	17	45	滋賀県（14）	高島市今津	14
13		北茨城市	8	46	兵庫県（58）	姫路市家島	11
14	行方市玉造	4	47	南あわじ市南淡		19	
15	五霞町	3	48	猪名川町		14	
16	栃木県（20）	那須塩原市塩原	1	49		神河町神崎	4
17		芳賀町	19	50		上郡町	9
18	群馬県（9）	玉村町	7	51		市川町	1
19		みなかみ町新治	1	52	島根県（4）	浜田市三隅	1
20	明和町	1	53	松江市宍道		3	
21	埼玉県（46）	久喜市栗橋	7	54	岡山県（28）	井原市井原	9
22		鶴ヶ島市	8	55		鏡野町	11
23		白岡市	6	56		津山市加茂	5
24		松伏町	13	57		赤磐市吉井	3
25		吉見町	6	58	広島県（19）	呉市蒲刈	4
26	嵐山町	6	59	坂町		6	
27	千葉県（42）	大多喜町	5	60		府中市	9
28		御宿町	3	61	阿南市	1	
29		鋸南町	31	62	徳島県（4）	海陽町海南	3
30		横芝光町光	3	63	愛媛県（8）	愛南町御荘	8
31	富山県（37）	砺波市	15	64	高知県（8）	四万十町窪川	8
32		富山市八尾	19	65	福岡県（13）	朝倉市甘木	12
33		氷見市	3	66		柳川市大和	1
合計 24道県連絡協議会 66海洋センター 461人							

イ.「B&G 杯全国少年少女カヌー大会」(参加クラブ)

No	クラブ名	B&Gクラブ	参加人数	道府県
1	本荘ジュニアカヌークラブ		5	秋田県
2	河北カヌークラブ		3	山形県
3	西川少年少女カヌーチーム		3	
4	^{サガエ} 寒河江カヌークラブ		1	
5	キッズカヌークラブ		3	福島県
6	^{カミッシ} 神栖市スポーツクラブ		3	茨城県
7	戸田ドルフィンカヌースポーツ少年団		5	埼玉県
8	B&G香取市小見川海洋クラブ	○	5	千葉県
9	浦安市カヌー協会		1	
10	佐倉市カヌー協会		8	
11	松戸市カヌー協会・エルフィンキッズ		2	
12	マホロバホンダカヌースクール		3	神奈川県
13	湘南カヌースポーツクラブ		5	
14	相模湖カヌークラブ		1	
15	藤沢市カヌー協会		1	
16	萌明幼児館カヌークラブ		7	
17	上九一色カヌークラブ	○	6	山梨県
18	この指とまれ☆NAWMAN'S		7	長野県
19	早乙女湖カヌークラブ		6	富山県
20	B&Gかけはし海洋クラブ	○	12	石川県
21	B&G掛川海洋クラブ	○	2	静岡県
22	掛川総合スポーツクラブ		2	
23	豊田市カヌー協会		2	愛知県
24	中部30カヌークラブ		1	岐阜県
25	オーパルカヌーチーム		3	滋賀県
26	久美浜ジュニアカヌーチーム		8	京都府
27	和知ジュニアカヌークラブ	○	5	
28	B&G家島海洋クラブ	○	4	兵庫県
29	吉野小学校		2	奈良県
30	倉吉市関金B&G海洋センター イルカカヌークラブ	○	4	鳥取県
31	鳥取ジュニアレーシングカヌークラブ		6	
32	岡山県カヌー協会		3	岡山県
33	八千代カヌークラブ	○	1	広島県
34	^{サカイデン} 坂出市立府中小学校		2	香川県
35	^{オオズ} 大洲カヌークラブ		2	愛媛県
36	^{ゴダイサン} 五台山カヌークラブ		4	高知県
37	B&G飯塚穂波海洋クラブ だいぶ支部	○	4	福岡県
38	柳川市大和B&G海洋センター	○	2	
39	ながさき浦上川カヌークラブ		1	長崎県
40	高田レーシング		5	大分県
41	伊佐カヌークラブ		3	鹿児島県
合 計			153	—

ウ.「2013B&G OP 級ヨット大会」(参加クラブ)

東日本大会(愛知県蒲郡市 海陽ヨットハーバー)

No.	クラブ名	県名	出場クラス別人数				合計
			A	B	C	SG	
1	千葉ヨットビルダーズクラブジュニア	千葉県	1	2	1	0	4
2	江ノ島ヨットクラブジュニア	神奈川県	3	0	0	0	3
3	藤沢市青少年セーリングクラブ	神奈川県	4	1	0	0	5
4	KMC横浜ジュニアヨットクラブ	神奈川県	1	0	0	0	1
5	石川羽咋ジュニアセーリングクラブ	石川県	0	4	1	0	5
6	B&G川辺海洋クラブ	岐阜県	0	0	3	0	3
7	静岡県セーリング連盟浜名湖ジュニアクラブ	静岡県	3	1	2	0	6
8	B&G掛川海洋クラブ	静岡県	0	0	4	0	4
9	海陽海洋クラブ	愛知県	6	5	3	1	15
10	丸玉セーリングクラブ	愛知県	1	0	0	1	2
11	B&Gなごや海洋クラブ	愛知県	3	4	1	1	9
12	三重県ヨット連盟ジュニアヨットクラブ	三重県	2	5	3	0	10
13	琵琶湖ジュニアヨットクラブ	滋賀県	4	4	4	0	12
14	宮津ジュニアヨットクラブ	京都府	1	0	0	1	2
15	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	兵庫県	5	2	2	0	9
16	B&G伊丹海洋クラブ	兵庫県	0	4	5	0	9
17	和歌山ジュニアヨットクラブ(B&G和歌浦海洋クラブ)	和歌山県	8	0	1	0	9
18	B&G大島海洋クラブ	山口県	1	0	0	0	1
合 計			43	32	30	4	109

西日本大会(大分県杵築市 住吉浜リゾートパーク)

No.	クラブ名	県名	出場クラス別人数			合計
			A	B	C	
1	江東区立小中学校セーリング部(Team KOTO)	東京都	1	0	0	4
2	B&G兵庫ジュニア海洋クラブ	兵庫県	0	2	0	3
3	広島セーリングスクール	広島県	4	3	0	5
4	B&G鳥取海洋クラブ	鳥取県	2	0	0	1
5	光セーリングクラブ	山口県	0	1	0	5
6	B&G松山海洋クラブ	愛媛県	4	1	2	3
7	B&G新居浜海洋クラブ	愛媛県	1	2	1	6
8	B&G大三島海洋クラブ	愛媛県	0	2	0	4
9	北九州ジュニアヨットクラブ	福岡県	1	2	5	15
10	B&G福岡ジュニアヨット海洋クラブ	福岡県	3	10	4	2
11	B&G佐世保海洋クラブ	長崎県	0	0	4	9
12	B&G時津海洋クラブ	長崎県	0	1	0	10
13	B&Gハウステンボス町ジュニア海洋クラブ	長崎県	4	4	0	12
14	B&G杵築海洋クラブ	大分県	0	0	12	2
15	B&G直入海洋クラブ	大分県	0	0	9	9
16	B&G別府海洋クラブ	大分県	5	2	4	9
17	鹿児島ジュニアヨットクラブ	鹿児島県	3	0	0	9
18	B&G大島海洋クラブ	山口県	1	0	0	1
合 計			28	30	41	99

8. 平成25年度 海洋センター現況調査地ほか

ア. 海洋センター現況調査地（35ヶ所）

No.	調査先	調査日	調査目的
1	阿南市那賀川・阿南（徳島県）	4月12日	海洋センター施設の現状確認
2	阿賀野市安田（新潟県）	4月22日	海洋センター視察
3	胎内市（新潟県）	4月23日	市長表敬訪問
4	鷹栖町・北竜町（北海道）	4月26日	海洋センター視察
5	南部町名川（青森県）	4月27日	町長表敬訪問
6	富山市八尾・大山（富山県）	5月9日	海洋センター視察
7	富士宮市芝川（静岡県）	5月14日	海洋センター視察
8	鳥取市佐治（鳥取県）	5月14日	海洋センター視察
9	あさぎり町免田（熊本県）	5月17日	海洋センター視察
10	香美市香北（高知県）	5月17日	海洋センター視察
11	霧島市牧園（鹿児島県）	5月18日	海洋センター視察
12	萩市むつみ（山口県）	5月22日	海洋センター施設（体育館・プール）の現状確認
13	甲賀市甲南・甲賀（滋賀県）	5月24日	海洋センター視察
14	宮崎市田野（宮崎県）	5月24日	海洋センター視察
15	可児市（岐阜県）	5月25日	岐阜県B&G連協 30周年記念事業出席
16	大任町（福岡県）	5月28日	海洋センター視察
17	川崎町（福岡県）	5月29日	海洋センター視察
18	山北町（神奈川県）	7月15日	海洋クラブ所在のイベント「カヌーマラソン I N 丹沢湖」視察
19	倉吉市関金（鳥取県）	7月18日	海洋センター施設の現状確認、市長面談
20	古平町（北海道）	7月29日	優良海洋センター視察（修繕助成完了確認）
21	積丹町（北海道）	7月29日	海洋センター視察
22	七戸町（青森県）	7月31日	海洋センター施設（プール）の現状確認、町長面談
23	恵那市（岐阜県）	8月9日	海洋クラブ舟艇器材等配備式の実施
24	松島町（宮城県）	8月21日	海洋センター施設（プール）の現状確認、教育長面談
25	新居浜市（愛媛県）	8月31日	海洋クラブ舟艇器材等配備式の実施
26	伊達市（北海道）	12月4日	海洋センター施設の現状確認、市長面談
27	長万部町（北海道）	12月5日	海洋センター施設の現状確認、町長面談
28	伊勢市御園（三重県）	1月24日	海洋センター・海洋クラブ視察
29	亀山市関（三重県）	1月25日	海洋センター視察、おためしクラブ調査
30	佐伯市（大分県）	2月5日	市内海洋センター施設の現状確認、市長面談
31	中津市耶馬溪（大分県）	2月6日	海洋センター施設の現状確認
32	菊池市泗水・旭志（熊本県）	2月7日	海洋センター施設の現状確認、市長面談
33	南部町（青森県）	3月14日	海洋センター施設の現状確認
34	指宿市山川（鹿児島県）	3月24日	海洋センター施設の現状確認、市長面談
35	宮崎市田野（宮崎県）	3月25日	海洋センター施設の現状確認、市長面談

イ. 平成 24 年度 修繕助成決定書授与式（24 ヶ所）

※修繕助成金額が 1,000 万円以上となる自治体

No	実施場所	実施日	主な出席者
1	嵐山町（埼玉県）	4月16日	嵐山町長、教育長 他
2	阿賀野市安田（新潟県）	4月22日	阿賀野市長、教育長 他
3	酒田市平田（山形県）	4月24日	酒田市長、市民部長 他
4	若狭町三方（福井県）	5月7日	若狭町長、教育長 他
5	大郷町（宮城県）	5月9日	大郷町長、副町長、教育長 他
6	五霞町（茨城県）	5月10日	五霞町長、副町長、教育長 他
7	古平町（北海道）	5月13日	古平町長、副町長、教育長 他
8	積丹町（北海道）	5月13日	積丹町長、副町長、教育長 他
9	鳥取市佐治（鳥取県）	5月13日	鳥取市長、教育長 他
10	津野町東津野（高知県）	5月17日	津野町長、副町長、教育長、議長、副議長 他
11	米原市伊吹（滋賀県）	5月17日	米原市長、部長 他
12	湯前町（熊本県）	5月17日	湯前町長、副町長、教育長 他
13	愛南町御荘（愛媛県）	5月18日	愛南町長、副町長、教育長 他
14	宗像市玄海（福岡県）	5月20日	宗像市長、部長 他
15	三原市久井（広島県）	5月22日	三原市長、教育長 他
16	中津市耶馬溪（大分県）	5月22日	中津市長、副市長、教育長 他
17	福智町金田（大分県）	5月28日	福智町長、副町長、教育長 他
18	下川町（北海道）	5月28日	下川町長、副町長、教育長 他
19	長南町（千葉県）	7月9日	長南町長、副町長、教育長 他
20	湧水町（鹿児島県）	7月19日	湧水町長、副町長、教育長 他
21	南アルプス市（山梨県）	7月24日	南アルプス市長、副市長、教育長 他
22	大町市（長野県）	7月25日	大町市長、教育長 他
23	久喜市栗橋（埼玉県）	7月26日	久喜市長、教育長 他
24	洋野町種市（岩手県）	7月30日	洋野町長、副町長、教育長 他

ウ. リニューアルオープン式典（8ヶ所）

No	開催地	開催日	修繕年度（主な出席者）
1	与論町（鹿児島県）	4月6日	H24通常修繕（与論町長、教育長、町議会副議長、中村真衣氏他）
2	久留米市三潞（福岡県）	6月1日	H24通常修繕（久留米市長、部長、町議会副議長、中村真衣氏他）
3	香美町香住（兵庫県）	6月9日	H24通常修繕（香美町長、教育長、町議会副議長、中村真衣氏他）
4	斜里町（北海道）	6月15日	H24通常修繕（斜里町長、教育長、町議会副議長、中村真衣氏他）
5	奈義町（岡山県）	6月16日	H24通常修繕（奈義町長、副町長、教育長、町議会議長、中村真衣氏他）
6	川根本町本川根（静岡県）	6月22日	H24通常修繕（川根本町長、副町長、教育長、町議会議長、中村真衣氏他）
7	香取市山田（千葉県）	6月29日	H24通常修繕（香取市長、教育委員長、市議会議長、中村真衣氏他）
8	香美市香北（高知県）	7月27日	H24通常修繕（香美市長、副市長、教育長、市議会議長、中村真衣氏他）

9. 自治体職員 派遣研修

参加者一覧（H15 年度以降）

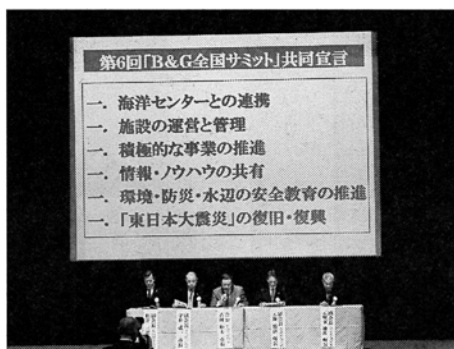
（敬称略）

年度	氏名	所属	期間
H15	池田 茂喜	北海道滝川市	上期（6カ月間）
	米内 聡	青森県南部町	上期（6カ月間）
H16	小島 武史	北海道砂川市	1年間
	島袋 一平	沖縄県名護市	上期（6カ月間）
H17	安里 孝夫	沖縄県本部町	1年間
	林 桂太郎	岐阜県可児市	上期（6カ月間）
	丹場 康雄	北海道積丹町	下期（6カ月間）
H18	真砂 敏文	大分県杵築市	1年間
	奥野 靖士（旧姓：猪岡）	岡山県井原市	上期（6カ月間）
	高田 知史	福岡県柳川市	上期（6カ月間）
	川原 陽介	鹿児島県阿久根市	上期（6カ月間）
H19	千葉 桂志	宮城県登米市	1年間
	山田 誠	徳島県徳島市	上期（6カ月間）
	濱田 宗厳	鹿児島県いちき串木野市	上期（6カ月間）
	額田 泰充	岡山県瀬戸内市	下期（6カ月間）
H20	大門 英人	北海道大樹町	1年間
	山本 由美子（旧姓：磯川）	青森県南部町	4月～10月
H21	向後 智一	千葉県香取市	1年間
	山田 丈寿	岐阜県八百津町	1年間
	藤田 幸一郎	長崎県佐世保市	1年間
	和田 智磯	鹿児島県天城町	1年間
H22	大内 義崇	北海道鷹栖町	1年間
	山田 正直	新潟県胎内市	1年間
	工藤 陽平	熊本県湯前町	1年間
H23	土岐 竜馬	三重県いなべ市	1年間
	久留米 三四郎	兵庫県南あわじ市	1年間
	亀山 直記	大分県佐伯市	1年間
H24	糺谷 哲史	埼玉県久喜市	1年間
	鈴木 翔太	福井県大野市	1年間
	曾根 由多	静岡県牧之原市	1年間
H25	門間 瑛司	宮城県大郷町	1年間
	岡本 祐子	山口県周防大島町	1年間
	大崎 あや	高知県津野町	1年間
合 計 33人			

■ 第6回 B&G 全国サミット

◎ 海上の友（'14.02.11）

体験活動で健全育成を



B&G財団（梶田功会）を開催した。長）は1月30日、東京・同財団では、海洋センタの笹川記念会館において第6回「B&G全国自治体から代表者を集め、

第6回「B&G全国サミット」を開催

財B&G

◎ 読売新聞（'14.01.31）

◆ 東京でB&G全国サミット

マリンスポーツなどを通じて青少年らの健全育成を支援するブルーシー・アンド・グリーンランド（B&G）財団は30日、「第6回B&G全国サミット」を東京都港区で開いた。45道府県の362市町村などから首長ら760人が出席し、東日本大震災の被災地を継続的に支援することなどを盛り込んだ共同宣言を採択した。

第6回B&G全国サミット

青年教育や少子高齢化、地域の活性化など様々な社会問題に対して海洋センターを活用した各自治体の取り組みの報告や、情報交換することを目的として毎年「B&G全国サミット」を開催しているが、今年は過去最多の、海洋センター所在自治体の93%にあたる364市町村から現職首長223名を含む6050名の自治体関係者が一堂に会した。

め幼児から高齢者までの「健康つくり・人つくり」を推進してまいりたい」とある」と語った。議長ではまず、正副会長の挨拶が行われ、「健やかな子どもの成長を願う」と題して、特

各自自治体の取り組みを報告

現職首長223名が

行われた。

最後に、▽海洋センタ

と管理▽施設の運営

と管理▽積極的な事業の

推進▽情報・ノウハウの

共有▽環境・防災・水辺

の安全教育の推進▽「東

日本大震災」の復旧・復

興――の共同宣言が採択

され会議は終了した。

別基調講演を行った。笹川会長は講演の中で「かつて日本は海外の有識者からこれほどまで子どもを大切にしている国はないと高く評価された。次世代を育てるのがわれわれの営原悟志専務理事が「青少年の健全育成推進プロジェクト」（広島県安芸高田市・浜田一義市長）として、四つの自治体からこれまでの取り組みと成果について報告が行われた。

コミュニティ！スクールで 地域も学校も活性化

第10回B&G全国教育長会議が11月26、27の両日、「子どもたちの健やかな成長を目指す学校・地域・家庭の連携を考える」をテーマに、東京都港区の日本財団ビルで開催された（公財）フルーシー・アンド・グリーンランド財団（B&G財団）主催）。B&G海洋センター所在自治体の44道府県の教育長45人など教育関係者合わせて52人が集まった。コミュニティ・スクールの取り組みを発表した山梨県甲斐市教委の加々美英教育長は、得意分野を生かして学校を支援する地域組織の活性化により、学校全体が活性化したと話した。学校の今目的な人材育成において、地域連携をコーディネートする教員の資質能力は欠かせない。

B&G教育長会議で事例発表

全国教育長会議の初日には、高橋史朗明星大学教授が「教育再生は家庭・家族の再生から」と題して基調講演。北海道砂川市など4自治体の教育長が事例発表した。2日目には、教育課題に関する自由討議などが行われた。

基調講演で高橋教授は「教育を学校の先生たちだけに委ねては、無理がある。教育の3本柱である、家庭・学校・地域社会が手を組んで子育てをするという基本を取り戻さないと、日本の教育の根が枯れてしまう」と、家庭と学校・地域の

連携の必要性について語った。事例発表を行った1人、加々美教育長は「学

校支援活動を進める。24年度には、地域に

この動きに呼応して保護者も立ち上がり、「ママの会」や「親父の会」が誕生。児童への本の読み聞かせや、グラウンドの整備を行った。

そんな諸活動から、地域を挙げて学校の様々な教育活動を支えていく機会が高まり、より多くの

ら2年間、文科省からコミュニティ・スクールの研究指定を受けた。現在も、同様の研究指定を

備支援の5部会構成とした。地域の人たちが、それぞれの得意分野で参加できるスタイルをとり、

2日目の自由討論は、「子どもたちの生きる力を育む『体験活動』の推進について」がテーマ。各自治体で取り組んでいる体験活動の事例を交えて、様々な意見が交換された。

文科省の研究指定終了後も、県内では唯一のコミュニティ・スクールとしての活動を継続している。

様々な活動に地域の人たちが参加していく体制づくりを研究。「学校応援団」として、①学習支援②体験活動支援③安全支援④子育て支援⑤環境整備支援の5部会構成とした。地域との連携が深まると、学校への苦情が減った」と同教育長。

■ 修繕助成・舟艇器材配備等

◎ 岩手日報（'13.07.31）

阿種市B&G海洋センター



水上信宏町長に助成決定通知書を手渡す
古山透常務理事（左）

東日本大震災で被災した洋野町の町種市B&G海洋センターは、公益財団法人B&G財団（東京都港区、梶田）（東京港区、梶田）通知書を手渡した。古

海洋センター再建 洋野町に助成金 B&G財団

功会長）から1400万円の助成を受け、来夏の利用再開に向けて再建される。

同財団の古山透常務理事らが30日、同町役場種市庁舎を訪れ、水上信宏町長に助成決定通知書を手渡した。古

山常務理事は「子ども健全な成長には自然体験活動から学ぶことが必要」と施設の活用を期待。水上町長はこれまで以上に海に親しめるまちづくりを進めたい」と感謝した。

同センターはカヌーやヨットを備えた艇庫で、体験教室やイベントで活用されてきた。町は2013年度内に、シャワー室を備えた延べ床面積約100平方メートルの艇庫を1493万円かけて再建。同財団はうち1千万円のほか、器材購入費400万円も助成する。

◎ 愛媛新聞（'13.09.01）

セーリング選手育成を B & G、海洋クに舟艇貸与

新居浜



B & G新居浜海洋クラブに配備された救助艇やヨット

ブルーシー・アンド・グリーンランド（B & G）財団は31日、県内8番目のB & G海洋クラブとして2月に登録されたB & G新居浜海洋クラブ（本田龍朗会長、約30人に救助艇とレース用ヨットなど

舟艇器材を無償貸与し、新居浜市垣生3丁目のマリンパーク新居浜で配備式があった。同クラブはマリンパーク新居浜を拠点とし、現在は小学3年から中学2年までのジュニアクラブ員を中心

に、セーリング選手の育成に取り組んでいる。式には関係者約40人が出席。B & G財団の菅原悟志専務理事が、救助艇とOP級ヨット各2艇やライフジャケットなど総額約250万円分の目録を本町会長に手渡した。

（相原清香）

◎ 高知新聞（'13.07.30）

子どもたちに泳ぎ方を教える中村真衣さん（香美市香北町）



香美市 香北B & G海洋センター改修記念

シドニー五輪銀メダリスト 中村さん水泳教室

【香長】香美市香北町吉野の香北B & G海洋センターのリニューアルオープン記念式典がこのほど、同センターで開かれ、シドニー五輪女子100メートル背泳ぎの銀メダリスト、中村真衣さん（34）＝東京都＝の水泳教室などで祝った。

（山本 仁）

◎ 南海日日新聞（'13.12.24）

島守る森の再生を 10種2357本植える

与論町で植樹祭

【沖永良部島】与

論島本来の植生を取り戻そうと23日、同島で植樹祭（与論町B&G海洋センター主催）が開催された。子どもから高齢者まで島民288人が参加。将来同島

中古ピアン
売っています。
（株）セントラル楽器
（株）セントラル楽器
（株）セントラル楽器

を自然災害から守る「ふるさとの森」再生への思いを込め、10種類の苗木2357本を植えた。

植樹祭はブルーシ



ー・アンド・グリーンランド（B&G）財団が2012年度から取り組む海を守る植樹教育事業の一環、それぞ

れの土地本来の樹木（潜在自然植生）を活用し、自然の森のシステムに合った混植、密植を行う植樹法「宮脇方式」の考案者で、地球環境戦略研究機関国際生態学センター長の宮脇昭氏が指導に当たった。

開会式では南政吾町長が「台風で多くの家屋や農作物の被害に遭い、防風林、防潮林の大切さを感じた。島に昔ながらの自然が少なくなってきた。樹木を一本でも多く植え

一本一本丁寧に苗木を植える参加者。23日、与論町・与論港コースタルリゾート

しい」と呼び掛け、事前調査で選んだテリハボクやフクギ、ホルトノキなど同島の風土に合った10種類の樹木を紹介。苗木の植え方を説明した。

植樹は与論港コースタルリゾートの海岸線約50メートルを9ブロックに分けて行われた。参加者は友人や親子など数人一組で力を合わせ、苗木を一本一本丁寧に植えていた。友達と参加した三上真由さん（13）と与論中2年（14）は「宮脇さんから命の大切さを学んだ。9千年後まで森が続きますようにと願いを込めて植えた」と話していた。

◎ 函館新聞（'13.06.06）

大きく成長して せたなで植樹祭



植樹に参加した子どもたち（町教委提供）

【せたな】図書館や郷土資料館など複合型コミュニティセンターが移設される予定の旧瀬棚商業高校前でこのほど、植樹祭（町教委など主催）が行われた。

瀬棚小学校の児童と住民ら計約150人が参加し、緑の育成に汗を流した。植樹は、海と緑のふれあいなど青少年の健全育成や自然環境教育を展開する「公益財団法人 B&G財団」（東京）との取り組みで、ミズナラやブナ、ヤマモミジなど18種904本の苗木を用意。180平方

植樹に参加した男子児童は「色々な種類の木の名前を覚えることができてよかった」。女子児童は「木が大きくなるのがすごく楽しい。また植樹をやりたい」と満足の様子だった。町は、昨年度から同財団が推進する「海を守る植樹教育事業」に携わり、瀬棚小の児童が集めたどんぐりを育てるなど「ふるさとの木・ふるさとの森」づくりを力を入れている。（田中陽介）

◎ 東日新聞（'13.07.14）

小中学生のヨットレース

蒲郡沖の三河湾で開幕



三河湾を疾走する参加艇

この日は梅雨明けの蒸し暑さに加えて、一時的に激しい風雨に見舞われ、あいにくのレースコンディションだったが、参加者らは元気にレースに挑んでいた。13日と14日の2日間で行う大会は、全日本大会をめざす上級者のAクラス、2〜3年ほどの経験者（佐藤芳久）によるBクラス、初心者によるCクラスのほか、中学生によるシングルハンダー級の4部門で行った。OP級ヨットは全長2・31メートル、幅1・13メートルの小型ヨットで、丈夫で安全性が高いことから「ヨットの入門艇」と呼ばれる。

小中学生対象のヨットレース「2013 B&G OP級ヨット大会」の東日本大会が13日、蒲郡市海陽町の海陽ヨットハーバー沖の三河湾で開幕し、中部や関東、関西のジュニアヨットクラブなどに所属する小中学生約100人が参加した。県ヨット連盟、名古屋ヨット連盟、B&G（日本ヨット連盟）が共催。

◎ 大分合同新聞（'13.07.18）



出発する選手たち

ジュニア水泳開催

「B&G全国ジュニア水泳競技大会」（ブルーシー・アンド・グリーンランド財団主催、読売新聞社など後援）が17日、東京都江東区の東京辰巳国際水泳場で行われた。

今年で14回目を数える大会には、同財団のプールで水泳の練習に励む24道県461人の小中学生が出場。小学3〜4年生、小学5〜6年生、中学生の3つの部門で、自由形やメドレリレーなど計30種目を競い、14の大会新記録が生まれた。

道県対抗では、男子が兵庫県、女子は埼玉県が優勝。男女の総合優勝には埼玉県が輝いた。

レースの合間には、シドニー五輪女子100メートル背泳ぎ銀メダリストの中村真衣さん（34）が講師となり、背泳ぎを披露した。

小中学生100人ヨットの技術競う

杵築で西日本大会

2013 B&G OP級ヨット西日本大会（大分合同新聞後援）が14、15の両日、杵築市の住吉浜リゾートパークであった。県内外から小中学生約100人が出場。開会式で坪

根遼翼君（B&G別府海洋ク）が「日ごろ支えてくれている皆さんに感謝しながら、正々堂々と戦いたい」と選手宣誓。競技は技術レ

ベルでA〜Cの3クラスに分かれて実施。選手たちは晴天の下、日ごろの練習の成果を競い合った。それぞれのクラスの1〜3位は以下の通り。

- ▽Aクラス ①吉川野乃香（広島セーリングスクール）②前田海陽（同）③西沢秀人（北九州ジュニアヨットク）
- ▽Bクラス ①黒田浩渡（B&G兵庫ジュニア海洋ク）②泉創（B&G新居浜海洋ク）③幸野翔太（B&G別府海洋ク）
- ▽Cクラス ①河野大陸（B&G別府海洋ク）②広田海斗（同）

◎ 山梨日日新聞（'13.08.14）



小学生を対象とした唯一の全国大会で、県内外のカヌークラブ41団体から152人の小学生が出場。夏の日差しが照りつける中、200メートルのタイムを競うカヤックシングルやマークファイを素早くターンするフラットウォータースラロームなど、男女別の10種目で熱戦を繰り広げた。

小学生41団体152人カヌー10種目熱戦

精進湖で大会

日本カヌー連盟とB&G財団はこのほど、富士河口湖町の精進湖で、B&G杯全国少年少女カヌー大会2013を開いた。写真。

◎ 海上の友（'13.08.21）

「水辺の安全教室」を実施



ライフジャケット浮遊体験（B & G財団）

ブルーシー・アンド・グリーンランド財団（通称「B & G財団」）では、水の事故から子供を守るため、「水辺の安全教室」を毎年開催している。今年度は6月25日の東京都江東区立第二辰巳小学校を皮切りに、8月末までに都内12カ所の小学校の授業や課外活動などで実施し、約1200人の児童が参加する予定だ。教室では、ペットボトルなどの身近な道具を使用

都内12カ所の小学校で 身近な道具で救助体験など

B & G財団

ルなどの身近な道具を使用し、B & G財団では「子どもたちの健全な成長に重要な自然体験活動の積極的な推進を図るため、水辺活動のリスクを知り、自分の命は自分で守る自助意識を養ってほしい」

事故の際の対処法を学ぶ
「水辺の安全教室」は、浮き身姿勢の実技体験なども行っている。



カヌー乗船体験（B & G財団）

の自然活動の楽しさを知るほか、B & G財団が考案した「水の安全プログラム」を通じて水辺の事故にあわないための学習や、ペットボトルを使った救助法など事故の際の対処法を学ぶもの。平成22年度厚生労働省人口動態統計によると、1～14歳児の不慮の事故死のうち、溺死は交通事故、その他不慮の事故に次いで3番目に高い数字を示している。そのようななか、池で溺れかけた児童にペットボトルを投げ与えて、助けることができた事例などもあり、知識だけではなく体験も重視し、落水時に重要な浮き身姿勢の実技体験なども行っている。

B&G 全国指導者会
活動方針・活動目標
(平成25年～平成27年)

活動方針

未来を担う子どもたちのために“育てよう生きる力”“とどけよう笑顔と元気”

B&G 全国指導者会会員は、「未来を担う子どもたちのために」を基軸とし、“育てよう生きる力”“とどけよう笑顔と元気”の行動指針のもと、指導者としての経験や高度な技術、指導力を活かし、日本全国での「自然体験活動」や「水辺の安全教育」の推進、未来を担う子どもたちのために“育てよう生きる力”“とどけよう笑顔と元気”の実現に向け、会員が一致団結し、青少年の健全育成に努めることを活動方針とする。

活動目標

1. 組織力の強化・地域社会との連携

- 全国指導者会の組織基盤を確立し、B&G 地域指導者会の100%設置を達成する
- 地域との連携を強化し、地域住民の健康づくりに貢献する

2. 生きる力を育てる自然体験活動等のさらなる実践

- 自然や水とふれあう中から、子どもたちに生きる力を気付かせる
- 自然体験活動等や水辺の安全教育を通じて、親子等の交流の場を提供する

3. 海洋センター等の有効活用・活動の活性化

- 海洋センターを始めとする施設を活用し、利用者拡大、活動を活性化させる

4. 指導者の資質向上

- 最新技術や知識を常に取り入れるアンテナを持ち、自己研鑽に励む
- レベルアップ研修会等を活用し、指導力を向上させ、実践に活かす

5. 指導者会の情報ネットワーク構築

- B&G と連携し、より強固な指導者会の情報ネットワークを築く

6. 有益な情報発信と活動の周知

- 会報「かわら版」を発行し、メディア・会員等に有益な情報を発信する
- 各種媒体を使い、全国指導者会・B&G 指導員の活動を周知する

7. 全国指導者会シンボルマークの普及と活用

- 新たに決まったシンボルマークを有効活用し、普及に努める

第10回「B&G全国教育長会議」の提言

昨年に引き続き、東日本大震災の復旧・復興に向け、一致団結して協力するとともに、今年度で終了する「水の事故ゼロ運動の推進」については、引き続き子供たちに、体験活動や環境保全・防災意識を含む水辺の安全教育を推進する必要があるため、「環境・防災・水辺の安全教育の推進」に改めることが出席者一同の拍手をもって承認された。

「B&Gプランを推進する提言」

一. 自然体験を実践する「指導員の養成」と「B&G指導者会の設立」推進

環境教育も指導できる「B&G指導員」を積極的に養成し、また、多くの人材・指導者を必要とする自然体験活動を促進するため「B&G指導者会」設立を推進しよう。

一. 地域と学校との連携強化

地域の自然や、子供たちの知性と感性を育む、学校と連携した“水プロ”事業や、B Gプール・学校プールで、安全教育「着衣泳」「カヌー・ヨット教室」を推進しよう。

一. 海洋性レクリエーション事業の推進

海洋基本法にも謳われている「国民の海洋への理解促進」に繋がる海洋性レクリエーション事業の推進のため、海・自然の体験、集団生活から自立心や協調性を学ぶ“体験クルーズ”“体験セミナー”など、全国規模の体験事業へ積極的に参加しよう。

一. 親子・家族の絆の推進

自然に親しみ親と子が共に汗をかき、協力して達成感を得る“親子ふれあいキャンプ”“親子体験セミナー”など、親と子の絆を深める事業を推進しよう。

一. 海洋センター・クラブの活用

自然体験活動、安全教育などを実践する拠点である、「海洋センター・海洋クラブ」を活用し、子供や地域の住民が参加できるように、活動を積極的に支援しよう。

一. 環境・防災・水辺の安全教育の推進

全国の海洋センター・指導者会などが協力し、青少年の「生きる力」を育む“自然体験活動”と“環境・防災・水辺の安全教育”を積極的に推進する。

2013年11月27日

第10回「B&G全国教育長会議」

B&G財団は、全国の海洋センター所在市町村、B&G海洋センター・B&G海洋クラブ、B&G指導者会とのネットワークを活用して青少年の健全育成、幼児から高齢者まで地域住民の皆様の健康づくりに取り組んでいます。



第6回「B&G全国サミット」共同宣言

一、海洋センターとの連携

B&G財団と全国390市町村との連携をさらに深め、一丸となって“B&G プラン”＝スポーツ・健康・人づくり＝を推進する。

一、施設の運営と管理

市町村合併の有無にかかわらず、今後も“B&Gプラン”の趣旨に則り、全ての施設について善良なる維持・管理に努め、運営にあたっては“B&G指導員”を適切に配置する。また、その推進のため“B&G指導者会”を設立し、その活用を図る。

一、積極的な事業の推進

“B&Gプラン”の理念を再認識するとともに、B&G財団が実施する新たなソフト事業を最大限に活用し、青少年の健全育成と地域住民の健康づくりを積極的に推進する。

一、情報・ノウハウの共有

海洋センターの情報・ノウハウを共有し、コンパスと人的ネットワーク、そしてブロック連絡協議会を通じて地域交流の促進、及び地域海洋センターの活性化を図る。

一、環境・防災・水辺の安全教育の推進

全国の海洋センター・指導者会などが協力し、青少年の「生きる力」を育む“自然体験活動”と“環境・防災・水辺の安全教育”を積極的に推進する。

一、「東日本大震災」の復旧・復興

日本一の「健康・人づくり」のネットワークを活用し、今後とも各種の支援活動を継続するとともに、B&G「日本元気復活事業」などを通じ、被災地に元気と希望を提供する。

2014年1月30日

海洋センター所在市町村長一同

平成25年度 B&G財団 活動実績報告書

発行日: 平成26年7月1日 2,000部

編集・制作: 公益財団法人 ブルーシー・アンド・グリーンランド財団

〒105-8480 東京都港区虎ノ門3-4-10 虎ノ門35森ビル9F

TEL 03-6402-5310(代表) FAX 03-6402-5315

URL. <http://www.bgf.or.jp/>